

## ■ は じ め に ■

少子高齢社会への対応、国際競争力の維持、強化といったわが国の将来を見据えた課題に対して、現在、わが国では、規制改革、地方分権改革、行財政改革、公益法人制度改革など、社会、経済全体の構造改革が進められ、わが国が戦後培ってきた社会経済システムが大きく変わろうとしています。その流れのなかで、社会保障・社会福祉制度についても、医療制度改革、介護保険制度、障害者自立支援法等の制度改革が進み、多様な事業主体の参入、事前規制から事後チェックへの動き等、構造改革の考え方を踏襲した考え方の改革が進められており、社会福祉法人制度がその制度の存在意義について議論されるような場面もあらわれてきています。このように社会福祉法人経営を取り巻く環境は大きな変革の中にあります。

こうしたなかで、我々社会福祉法人がその存在意義を発揮するためには、地域社会の福祉の増進に貢献することで、地域社会における支持を得ていくことが必要不可欠です。そうした存在になるために、法人経営においては、信頼の獲得におけ、より積極的に地域のさまざまなニーズへの対応していくことや、良質なサービスの提供を行うことはもとより、公共性・公益性の高い法人としての透明性の確保、事業継続性の確保、営利法人は取り組むことが難しい公益的な取り組みなどが必要となると考えています。

本会では、社会福祉法人の使命である「地域社会における福祉の増進」の一環として、公益的な取り組みである地域貢献活動の会員法人における理解と実践を進め、社会福祉法人の存在意義について広く理解を得ることを目的に「1法人（施設）1実践」事業を提唱・推進し、平成16年度には「社会福祉法人における地域貢献に向けた「1法人（施設）1実践」活動事例集」として会員の皆様に配布させていただきました。

また、今年度7月には各県経営協および会員の皆様のご協力により、社会福祉法人における地域貢献活動の調査を実施し、235件の実践事例のご報告をいただきました。

このたび、収集いたしました地域貢献の事例を整理し事例集としてまとめました。関係機関・団体、マスメディア等に対して社会福祉法人が地域社会のなかで貢献する姿を伝え、社会福祉法人制度に対する理解を促進を図るとともに、本事例集が全国の社会福祉法人における地域貢献実践の参考として、また、地域社会福祉の推進の一助として、ご活用いただければ幸いと存じます。

最後になりましたが、事例集の作成にあたりご協力いただきました会員法人ならびに各都道府県経営協の皆様に心よりお礼申し上げます。

平成19年3月

全国社会福祉施設経営者協議会  
会 長 高 岡 國 士

# 社会福祉法人における地域貢献に向けた 「1 法人（施設）1 実践」活動

## ○ 背 景

- ・ 少子高齢社会等への対応等、わが国の将来の課題に対して、社会、経済全体の構造改革が推進されるなか、社会保障制度も大きな課題となっており、これまでのわが国における社会保障、社会福祉制度も近年、大幅な改革が進められている。
- ・ これまでの社会福祉制度による福祉サービス供給の形が大きく変わり、多様な経営主体が参入していることなどから、社会福祉法人の存在意義が問われている。

## ○ 目 的

- ・ 社会福祉法人の使命である「地域社会における福祉の増進」の一環として、社会福祉法人が地域社会のなかで制度上の福祉サービスはもとより、より幅広い貢献を行っていることを示すために、全国経営協会員法人による地域貢献活動を収集、公表するもの。

## ○ 具体的な取り組み

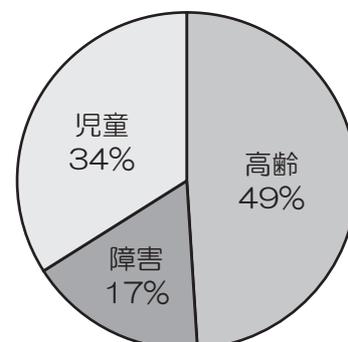
- ・ 各法人が取り組む、地域貢献、公益的取り組みを各法人の事業計画に明確に位置づける運動。
- ・ 全国の会員法人の実践事例の収集と公表。平成 15 年度に第 1 回の調査、今回が第 2 回。

## 地域貢献実践事例調査の概要

### I. 調査集計について

1. 回収総件数 235 件（うち 176 法人）
2. 法人種別ごとの件数内訳（総件数 235 件）

- ・高齢者関係 112 件（49%）
- ・障害関係 39 件（17%）  
\* 救護施設等を含む
- ・児童関係 77 件（34%）  
\* 知的障害児施設等障害児施設を含む
- ・不明 7 件

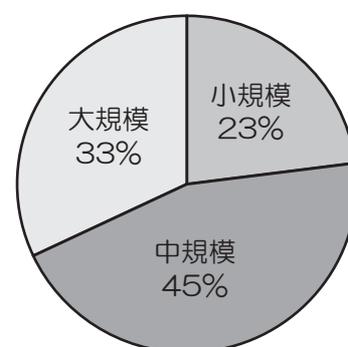


3. 法人全体の事業規模別（有効回答数 101 件）

① 平均年間事業収入額 1,232,939 千円/年

② 事業規模別件数内訳

- ・小規模法人（年間事業収入 2 億以下） 23 件（23%）  
〈平均年間事業収入額： 117,539 千円/年〉
- ・中規模法人（年間事業収入 2 億～10 億） 45 件（45%）  
〈平均年間事業収入額： 475,322 千円/年〉
- ・大規模法人（年間事業収入 10 億以上） 33 件（33%）  
〈平均年間事業収入額： 3,043,454 千円/年〉



### II. 地域貢献活動における実践上の工夫、課題点

#### 【実践上の人材面での工夫】

- 地域貢献事業として、地域機関からの人員協力や地域機関を通じた人材確保などがみられる。
- ボランティアや地域住民の協力など。
- 施設職員での対応。

#### 【実践上の資金面での工夫】

- 委託事業や補助事業として、事業委託費・補助金、福祉医療機構の助成などを受けている。
- 公益的事業として、地域からの寄付金や家族会からの助成など。
- 利用者からの利用料負担。
- 法人・施設からの資金補填。

#### 【実践上の課題】

- 財源確保への苦慮が多く、大きな課題である。
- 財源と関連して、人員の体制の確保、人材育成について。
- 地域社会資源との連携について。
- 事業内容の地域への周知（地域への広報）。
- 地域ニーズ充足のための事業内容の充実化。

事例

# 父親・母親育成のための食体験事業 (高校生を対象とした調理指導)

江刺保育園 (岩手県)

〒023-1121 岩手県奥州市江刺区男石1丁目3-5

HP <http://www.esashihoikuen.com/>

TEL 0197-35-1522

## 活動の概要

施設の子どもたちに対して様々な食教育を実施しているが、さらにこの活動を深めるために、実施しているのが本事業である。

「食」は人が生きるために欠かせない行為である。食事の時間は、家族がお互いに語りあい、食生活の規則は社会の規則を守る基礎となる。また、食事が食べる者、調理するものとの愛情の交換の場であること、規則正しい生活と正しい栄養摂取が健康な生活に欠かせないこと等、人がよりよく成長し生きるための大切な要素が「食」の中に全て含まれている。子どもたちの成長は、その家庭の毎日の食事によって大きく影響されている。本事業は、いずれ母親、父親になる高校生に対して子どもたちのためのおやつ作りを通して「食」することの喜びと、家族のあるべき姿、そして「食」の本質を伝えるための活動である。

## 法人の概要

江刺保育園は、日本基督教団江刺教会によって創られた。設立の基となったのは、江刺出身でハワイ在住の後藤鎮平牧師夫妻の100ドルの献金で、これは教会を建てるのが目的であったが、保育園設置を強く望む地域の要望に応えるため教会員は、寄付集めに奔走した。保育園を始めるにあたり当時の日本基督教団江刺教会員の献身的な努力と、行政関係者の深い理解により、市内の改築で使用されなくなった小学校の校舎を移転し、園舎として現在の保育園を開園した。

- 経営施設数…1
- 法人全体の年間事業収入…87,462千円
- 主な経営施設  
保育園…1

## 実施施設の概要

- 施設名…江刺保育園
- 施設種別…保育所 (定員 80名)

## ■施設の運営方針

「人に愛され、人を愛する子ども」を育てることを保育目標としている。

保育園は子どもたちに生きることの基本を伝えるところである。しかも、生きることの喜びを伝えるところでもある。今、この時が子どもたちにとって、喜びであるように、子どもたちの成長を見守り支えて行きたい。

## 活動の内容

- 活動対象者…市内高校生 (岩谷堂農林高校)
- 活動の頻度…年2回
- 年間の利用者…60名
- 活動開始年…2003年

## ■活動開始の背景 (取り組みの経緯)

施設以外の方に食教育を実施したいという保育園の願いと、将来保育士を目指す生徒や、栄養関係の職業を目指す生徒が、実際の保育園での子どもたちとの触れ合いや、保育園のメニューを参考にした栄養研究などを行いたいという高校側の要望が一致して、実施することができた。

4月に子どもたちとの交流会を実施し、高校で取り組んでいる「子どものためのおやつ作り」に対しての評価を保育園で行っている。高校生の自作の紙芝居の保育園での読み聞かせの実地体験も行っている。そして、保育園

の栄養士2名、調理師1名が高校の調理室において、子供たちのためのおやつ作りを指導している。

### ■人材・賃金面等での工夫、苦慮

事前に日程を調整する。おやつ作りに対して高校側からの要望を聞く。たとえば、「野菜を使用したおやつ作り」「簡単なおやつ作り」など。その要望にそって保育園で実際に子どもたちに出している。おやつメニューを決定する。レシピは保育園側で作成する。食材、調理器具は高校の授業の一環として行われるので全ての高校側で準備する。調理実習を行う前に、園長より生徒に対し、「食」についての講義を行い、その後、5人くらいのグループに分かれて調理実習を行う。

高校生調理体験実習を行ううえで、保育園側からの資金の負担は無い。

問題点としては、保育園側の調理業務が停滞するため、頻繁に行うことができない。また、保育園での調理室は部外者の立ち入りが禁止されているため、保育園外でしか実施できない、ということがあげられる。保育園では月1回手作りのお弁当の日を設けているので、その日の給食業務を高校生調理体験実習の日としている。

### ■利用者の声、地域の反応

「食」について栄養学的な事柄だけしか考えていない生徒がほとんどで、「食」が及ぼす心の教育的な側面に触れることができたという感想が多くあった。この取り組みを行うようになってから、高校生が行っている子どもに関わる研究やアンケート調査などに協力でき、その結果も高校と分かち合うことができるようになった。保育園の行事にボランティアとして参加協力を得ることができるようになっていく。

## 活動の成果、地域の影響、今後の課題

活動にあたっての苦労として、衛生面の配慮、日程の調整、結果が見えないことが課題であるが、この活動の継続において支障をきたすようなことは今まではない。将来、結婚し家族を持ちたいと思っている若い人たちに、「食」は、適切な栄養を摂取するということだけではなく、「食事」は目に見える愛情の表現であり、生きる喜びを多くの人と共有する行為であることも伝えることができた。このような保育園の取り組みや、「食」への考え方を伝えることに大きな意義があると信じる。

今後は、できるだけ継続して続けていきたい。様々な制約があり難しいが、子どもたちと高校生の一緒に調理体験を行うことができるように計画し、高校生だけではなく、中学生や小学生に対しても同様の事業を取り組んでいきたい。

また、保護者への調理体験実習は子育て支援事業として計画中である。

事例

# 子育て情報誌作成と ネットワークづくり事業

みずほ愛育会（埼玉県）

〒354-0011 埼玉県富士見市水子 4888

TEL 049-254-0022

活動の概要

- ・子育て中の母親たちにとって真に必要な情報誌を作るため母親たち自らが作成に参加する
- ・地域で横の連携を持って子育て支援をするために子育て中の母親たちを核とした地域住民機関のネットワークをつくる

## 法人の概要

- ・地域で愛育班活動、更生保護婦人会等をしてきた前理事長が、市の依頼も受けて、福祉活動の集大成として設立した
- ・東京のJR池袋駅から25分、最寄り駅から徒歩5分と便がよく、保護者は都内へ通勤する常勤者が多い
- ・少子化に逆行して富士見市（特にみずほ台地区）では出生数が減らず、就園前の乳幼児が多い。（自然にも恵まれ、公園の数も多く、物価もそれほど高くないので子育てするには住みやすい）

- 経営施設数…1
- 法人全体の年間事業収入…176,000 千円
- 主な経営施設  
保育所…1

## 実施施設の概要

- 施設名…けやき保育園
- 施設種別…保育所（定員 120 名）

## ■施設の運営方針

- ・健康な心と体を育てる保育
- ・地域の子育て支援に携わる

## 活動の内容

- 活動対象者…子育て最中の母親、子育て支援に携わる人たち
- 活動の頻度…月1回 2時間
- 年間の利用者…568名
- 活動開始年…2005年

## ■活動開始の背景（取り組みの経緯）

当市の次世代育成支援行動計画策定の際、策定委員として参加したときに、現役の母親たち又サポートする人たちと出会い、意欲のある母親たちを核に、行政のしくみにしばられずに横の連携をもってネットワークを作ろうということになった。

助成金を受けたこともあり、「子育てガイドブック作成」ということで毎月会合を開き、自分達が携わっている現場の情報交換をしながらネットワークを構築しようということになった。

## ■人材・資金面等での工夫、苦慮

- ・今回は助成金を受けることができたので、質の高い「ガイドブック」を完成させることができた。すでに、来年度への要望が出ているので、資金をどうしていくのが課題

題である。

- まだまだ、一部の人たちだけのネットワークであり、今後、広げていくにはどうすればいいか悩む。

### 主な経費や財源の内訳（年間当たり）

主な経費	概算額
ガイドブック作成費	) 1,450 千円
会議費	
研修謝金	180 千円
合計	1,630 千円

主な財源	概算額
・法人本部負担額	10 千円
・施設負担額	
・利用者負担額（利用料）	
・補助金収入 <small>福祉医療機構 （補助金事業名：子育て支援基金）</small>	1,620 千円
・その他の収入	
合計	1,630 千円

### 活動の成果、地域の影響、今後の課題

- ・ 母親たちが立ち上げたサロンが喜ばれ、子育て中の母親から感謝された。
- ・ 先輩ママたちがサロンサポーターとなり、子育て親子を支援する雰囲気づくりができた。
- ・ ネットワーク会議を行なったことで、横の連携が図られ、民間レベルでは手伝いあうことが多くなった。
- ・ 保健センター、公民館など行政との連携がまだ不足している。

ガイドブックをまず最初の一步にできた感はある。

# 事例 介護用品リサイクル

中心会（神奈川県）

〒243-0414 神奈川県海老名市杉久保 2271-7 えびな南高齢者施設内 TEL 046-237-2052

## 活動の概要

不要となった介護用品を、必要とする者に仲介する。施設は、品物の公表、輸送を担当する。引取りなどは基本的に行わず、在庫を持つことはしない。

- ・ 出品を受ける。
- ・ 出品者宅へ、品物の確認、写真撮影などのために訪問する。
- ・ 広報誌、ホームページに掲載する。
- ・ 注文が出た場合、出品者宅へ品物を受け取りに行き、注文者宅まで運搬する。
- ・ 出品にない注文についても、広報誌、ホームページに掲載、出品者を募る。

## 法人の概要

当法人は、神奈川県のほぼ中央にある海老名市と相模原市で老人ホームと児童養護施設を運営している社会福祉法人である。児童をはじめ、高齢者、障害者、地域の皆様に根付いた福祉の向上と充実を目指している。

中心会の活動は昭和 17 年から始まり、昭和 28 年に社会福祉法人の認可を受けた。現在では、児童養護施設を相模原市内で、老人ホームを海老名市内の 3 つの拠点で運営しています。高齢福祉サービスでは特別養護老人ホームをはじめ、短期入所事業、デイサービス、ホームヘルプサービス、訪問入浴等のほか、居宅介護支援事業所、地域包括支援センターを運営している。

- 経営施設数…5
- 法人全体の年間事業収入…1,552,860 千円
- 主な経営施設
  - 特別養護老人ホーム…3
  - 養護老人ホーム…1
  - 児童養護施設…1

## 実施施設の概要

- 施設名…わかばケアセンター
- 施設種別…通所（高齢・障害）（定員各 30 名）

## ■ 施設の運営方針

- (1) 利用者の真のニーズに基づいた事業を実施する
- (2) 法に基づいたサービスの提供を行う
- (3) 市民に対してのサービスを充実させる

## 活動の内容

- 活動対象者…所在市 市民
- 活動の頻度…需給が成立した場合随時
- 年間の利用者…6名
- 活動開始年…2006年

## ■ 活動開始の背景（取り組みの経緯）

- ・ 当法人で、介護保険外サービスについての検討を行い、当アイデアが採用された。
  - ・ 4 月より、手順書制定、広報誌掲載、各支援事業所に宣伝
  - ・ 6 月より、ホームページを立ち上げ、注目の速報の掲載を行う
- 活動を開始後 2 ヶ月を経過したところから、問合せがあるようになり、現在 6 名の



事例

# 認知症に関わる啓発及び相談事業 (認知症相談センターの開設運営)

上越老人福祉協会 (新潟県)

〒243-0101 新潟県上越市大字上真砂 219 番地

TEL 025-520-2121

活動の概要

- 1 認知症に関わる考え方や具体的な対応方法などについて、直接面談、電話による相談支援活動
- 2 認知症に関わる書籍・資料 (100 冊以上) 及びビデオ等の閲覧、貸出等の参考資料の提供活動
- 3 一般住民、施設職員、病院職員等を対象に、認知症に関わる研修会等を通じた啓発活動
- 4 認知症に関わる関係機関との連携活動

## 法人の概要

1973 年、新潟県上越地域において特別養護老人ホームを建設整備するため、経営主体である社会福祉法人を設立する。

法人設立の背景には、地域の精神障害者治療、社会復帰に取り組んで来た精神病院がある。

現在法人は特別養護老人ホーム 2 カ所、老人保健施設 1 カ所、ケアハウス 2 カ所、軽費老人ホーム 1 カ所、グループホーム 3 カ所等、介護サービス及び高齢者福祉に関わる 23 事業を行っており、職員は 300 名である。

当法人は老人福祉事業を目的として設立された上越地域における最初の法人であり、設立以来一貫して、老人福祉・介護サービスに関わるフォーマル及びインフォーマルの各種事業について先駆的に取り組んできた。

特に、高齢者リハビリテーション、認知症ケアサービスについて、中心的な取り組みを行ってきている。

- 経営施設数…10
- 法人全体の年間事業収入…1,488,267 千円
- 主な経営施設
  - 特別養護老人ホーム…2
  - 老人保健施設…1

- 施設名…老人保健施設 高田の郷
- 施設種別…介護老人保健施設 (定員 96 名)

## 施設の運営方針

【尊厳の保持】利用する方の意思及び人格を尊重し、常にその立場に立ったサービスを提供します。

【自立支援】一人ひとりのニーズに向き合い、必要なサービスを積極的に提供します。

【在宅復帰】在宅生活への復帰を目指したりハビリサービスを提供します。

【在宅生活支援】在宅生活の継続に向けた生活支援サービスを提供します。

【地域協働】地域の住民の社会生活を支える機能を有した福祉拠点を目指します。

## 活動の内容

- 活動対象者…一般住民、施設職員、病院職員等
- 活動の頻度…週2回 1回当たり2時間程度
- 年間の利用者…853名
- 活動開始年…2005年

## 活動開始の背景 (取り組みの経緯)

当法人は、一貫して認知症のケアサービスについて重点的に取り組んできた。1991 年に特別養護老人ホームいなほ園に認知症専用棟 (定員 30 名+ショート 2 名) 施設を開設し、

1996年開設の特別養護老人ホーム新光園には認知症専用棟（定員12名+ショート4名）施設を整備した。さらに1997年開設の老人保健施設高田の郷は、開設時より認知症高齢者を専門的に受け入れている。

そして高田の郷の中に、上越地域の住民に向けた認知症相談センターを法人の独自事業として開設し、継続的に活動してきた。2年前からは、非常勤の専任職員を配置している。

なお、当法人は、認知症介護実務者研修の新潟県指定法人でもある。

### ■人材・賃金面等での工夫、苦慮

1. 専任職員は非常勤職員をパートで1名配置している。この職員は、保健師業務、看護師業務を歴任し、さらに特別養護老人ホーム看護師長として認知症ケアについて専門的に研鑽した者である。このような適任者を条件にあわせ確保することが難しい。
2. この事業は100%法人の負担である。社会福祉法人の社会貢献の使命からやむを得ないが、実際厳しいものがある。
3. 今後、本事業に対する地域の需要が益々高まる状況にあり、人材、資金両面の増強が必要となるが対応に苦慮している。

### ■利用者の声、地域の反応

1. 身近にこのような施設（相談センター）がある事は良い。
2. 地域に相談センターの存在がよく知られていないのが残念だ。
3. 地域には、認知症高齢者を抱え困っている人が大勢いる。「気軽に相談できる」機能の充実を目指し頑張ってもらいたい。
4. 研修会を通じ、認知症の家族の気持ちが良く解った。認知症の方へのケアの基本的あり方、姿勢、接し方など改めて考えさせられた。今までの看護ケアについて原点に

振り返り見直したい。

5. 「住み慣れた地域で、いつまでも暮らしたい」。また施設や病院を「自分らしく生活できる場所にしたい」。そのために、センターが力になってほしい。

### 主な経費や財源の内訳（年間当たり）

主な経費	概算額
人件費	749千円
事務消耗品費	28千円
書籍等購入費	8千円
合計	785千円

主な財源	概算額
・法人本部負担額	785千円
合計	785千円

### 活動の成果、地域の影響、今後の課題

1. 認知症ケアについて地域住民の中にまだ誤解や偏見も多くさらにプロである施設、病院等の職員にも多くの理解不足が見られる。センターの活動を通じ認知症の理解ができたとの声も聞かれ、相談啓発活動の重要性を感じている。
2. 相談では、「年のせいで」と放置されたりするケースが多くみられ、相談に来られた時には、重症化していることが多い。
3. 相談センター活動と、行政や関係機関、医療機関等との連携体制をどのように構築するかが、今後の課題となる。
4. 相談センター活動が知られていない。PRに力を入れたい。

単一のセンターが行う活動には限界があり、求められるニーズに十分に答えられないのが残念である。しかし、社会福祉法人の役割、使命として継続的な取り組みによる地域貢献が必要と考える。

事例

# “しょうがい”のある方もない方も 地域の茶の間さろん「わあ〜らく」

新潟みずほ福祉会（新潟県） 〒 950-2137 新潟県新潟市小見郷屋 107-2 新潟みずほ園内 TEL 025-262-0155  
 障害者生活相談室「わあ〜らく」  
 〒 959-0423 新潟県新潟市旗屋 311 西川障害部門総合センター内 TEL 0256-70-4044

活動の概要

新潟みずほ福祉会の地域生活支援事業は、2002年10月どこからの補助も得ない法人独自の公益事業として、障害者生活相談室「わあ〜らく」の開設で始まった。その後1年間の独自事業の実績のもと、西蒲10ヶ町村から国庫補助事業である「地域生活推進特別モデル事業」を受託。西蒲原郡障害者生活支援センターとして、2004年10月から2005年3月末まで1年半、西蒲地域の福祉の向上に向けて活動。委託事業の終了後は、再び法人全額持ち出しの公益事業として相談支援事業を継続し、その一環として地域の茶の間さろん「わあ〜らく」も開設した。

## 法人の概要

1975年、県知事の「地元に近い所に大きくない入所施設を」との構想の下、その先駆けを担うべく設置された社会福祉法人、それが新潟みずほ福祉会である。創立から32年、“施設から地域へ”という政策転換の中、当法人も地域生活支援を視野に入れ新たな実践を開始する。

- 経営施設数…4 施設 8種類の事業
- 法人全体の年間事業収入…708,000 千円
- 主な経営施設
  - 身体障害者療護施設…2
  - 知的障害者更生施設…1
  - 地域支援拠点(作業所・相談室)…1

## 実施施設の概要

- 施設名…西川障害部門総合センター
- 施設種別…障害者生活相談室「わあ〜らく」

### ■施設の運営方針

- ① 出会った相談には、それがどのような相談でも誠実にお応えする
- ② 断る理由探しより、何ならできかを考  
えできることを行う

## 活動の内容

- 活動対象者…“しょうがい”のある人もない人も、子どもも大人も
- 活動の頻度…毎月第3土曜日
- 年間の利用者…216名
- 活動開始年…2005年7月

### ■活動開始の背景（取り組みの経緯）

この地区では、社会福祉協議会のバックアップのもと、既に8ヶ所で「お茶の間サロン」が行われていた。しかし、そのほとんどが比較的元気な女性のお年寄りが主で、若年の“しょうがい”のある方や、男性、子どもも含めた様々な年齢の方々が気楽に集まって、おしゃべりなどを楽しむ形の「サロン」はないようであった。

隣の市で行われていた「地域の茶の間」「うちの実家」という活動が、“しょうがい”のあるなし、年齢の差異にこだわらないオープンな場を実現していた。そのコンセプトは、「ずっと家の中で同じ人間関係だけだ…」「誰かと話をしたい」「ひとりであるのが寂しい」「家族の中で孤独だ」「誰かと一緒に食事をしたい」「障害を持ってから、家にこもりきりだ」といった声にお応えしたい、であった。そのような場をこの地域でも創りたい。それが取り組みの経緯である。

## ■人材・賃金面等での工夫、苦慮

この場を支えているのは、相談室の相談員1名と作業所職員1名と職員ボランティア2～3名、近所の民生委員、そして学生ボランティアである。「出入り自由、いつでも、誰でも、気楽にどうぞ」というスタンスは、結構「言うは易く、行なうは難い」。開催日に学生ボランティアに何人来てもらえるかが、かなり“場”の雰囲気と可能性を決定する。また、交通弱者がほとんどの“しょうがい”当事者は、送迎があるかないかが参加の有無を決定してしまう。送迎ボランティアの確保は最重要課題だ。

苦慮している点は、(1) 恒常的なボランティアスタッフの確保、(2) ボランティア人数が確定しないため、新規の参加者を大々的に公募できず、結果として常連利用者がコアな人間関係に煮詰まりすぎてきていることだ。ボランティアを増やして、参加者を広げたいと思う。

資金面では、市の社会福祉協議会からの助成である「地域活動助成事業」をスタッフ・参加者の行事保険料と会場の水道光熱費の一部にあてている他は、基本的に参加者からの拠出で賄っており、十分であると考えている。

## ■利用者の声、地域の反応

さろん「わあ～らく」はこの地域で9ヶ所目の一番新しい「お茶の間サロン」である。会場が、障害者福祉施設であることから他の「お茶の間サロン」と違い、お年寄りの方はおらず“しょうがい”のある方が多い。盲導犬の視覚障害の方、電動車いすの身体障害の方、知的障害の方、精神障害の方、障害児を持たれたご家族など、実に多様な方が参加されている。21回も開催を重ねると常連利用者も増え「じゃ、また来月ね!」との声も毎回聞かれるようになった。ここまで多様な人々が集まる「お茶の間サロン」は、なかなかないので、こ

れで参加者が固定化し新しい人を寄せ付けないような排他的な雰囲気ができないよう、“しょうがい”のない方々、お年寄りの方々にも呼びかけ、いつ言っても新しい参加者がいるような場に成長させていきたい。

## 主な経費や財源の内訳 (年間当たり)

主な経費	概算額
ボランティア行事用保険(20人×30円) × 12ヶ月=	7千円
水道光熱費(1回1,500円) × 12ヶ月=	18千円
講師年2回(1回5,000円)	10千円
茶菓子代・事務費・消耗品費	29千円
合計	64千円

主な財源	概算額
・法人本部負担額	
・施設負担額	
・利用者負担額(利用料)	
・補助金収入 (補助金事業名: )	
利用者負担金(200円×14名) × 12ヶ月=	33千円
助成金(西川地区社協より)	25千円
前年度繰越	5千円
・その他の収入	
合計	64千円

## 活動の成果、地域の影響、今後の課題

活動の成果としては、これだけ多様な“しょうがい”の方と一度に語り触れ合える場は近所になく、地域内で徐々に注目されてきていること、また、集まっている参加者同士の関係が日常のささえあいの関係に発展してきていることがあげられる。

“しょうがい”のある人だけでなく、地域に住むお年寄りや若者も含めて、気楽に触れ合える文字通りの“サロン”として発展させていきたい。

事例

# 地域の小学生を対象とした福祉教育

虹の会（福井県）

〒910-0017 福井県福井市文京5丁目27-32

TEL 0776-27-2621

## 活動の概要

地域の小学生4年生2クラスを対象に、「障害とは何か、施設の役割とは何か」をテーマに、施設見学を通して、そこで働く利用者の作業を共に体験し、共同で地域の清掃活動に参加し、美化意識を養う活動を取り入れたり、小学生企画によるレクリエーション大会を実施するなど、児童が利用者と関わることで、障害者理解を図ることを目的に福祉教育を行っている。

## 法人の概要

養護学校卒業後の働く場として、昭和60年に「虹の会福祉作業所」（知的障害者通所授産施設）が開設され、その後は重度障害者の日常生活支援を必要とする利用者のための「がんばるはうす」（知的障害者通所更正施設）を平成7年に開設した。次いで身体障害者の働く場として、「凧の里」（身体障害者通所授産施設）が開設された。

- 経営施設数…3 施設 1 事業
- 法人全体の年間事業収入…150,000 千円
- 主な経営施設
  - 知的障害者通所授産施設…1
  - 知的障害者通所更正施設…1
  - 身体障害者通所授産施設…1
  - 地域活動支援センター…1

## 実施施設の概要

- 施設名…虹の会福祉作業所
- 施設種別…知的障害者通所授産施設  
(定員 59 名)

## ■施設の運営方針

- 温もりのある、質の高いサービスの提供に努めます。

- 誰でも安全で安心して利用できる、サービスの提供に努めます。
- 利用者の意向を尊重して、地域の中で豊かな生活ができるようサポートします。

## 活動の内容

- 活動対象者…小学4年生
- 活動の頻度…年4回程度
- 年間の利用者…60名
- 活動開始年…2006年

## ■活動開始の背景（取り組みの経緯）

社会見学としての小学生の受入れは以前から行ってきた。しかしそれは施設見学と、そこで働く利用者の作業を共に体験する程度で、障害者への理解という点では時間が少なかったように感じた。そこで今年度は、施設側が主体的に児童に向けての福祉教育を実施しようと、県社会福祉協議会の補助事業である地域貢献モデル事業を活用し取り組んできた。

また地域住民にモニターとして、計画から実施、そして反省に至るまで関わってもらい、取り組みについての意見や感想を伺い、今後の福祉貢献事業の参考にしようと思っている。

## 【実施内容】

第1回 9月12日

施設見学・作業体験交流（1クラス）

第2回 9月15日

施設見学・作業体験交流（2クラス）

第3回 10月3日

日新地区の清掃奉仕活動

## 【実施予定】

第4回 10月26日

小学生企画によるレクリエーション交流会

## ■人材・賃金面等での工夫、苦慮

【協力者】 モニター

地域住民から 2名

学校教員 2名

施設職員 2名（地域貢献担当窓口）

## ■利用者の声、地域の反応

【利用者】

- ・小学生の子供がとてもかわいかった。
- ・色々な活動や場面でやさしく接してくれた。
- ・子供たちと一緒に作業した事で、作業室の雰囲気も変わり、あっという間に時間が過ぎるほど楽しかった。

【生徒】

- ・障害があっても、みんな仕事が上手にできていて感心した。
- ・怖いイメージがあったが、やさしく声を掛けてくれたので、安心した。
- ・作業の仕方を教えてくれたり、うまくできたら褒めてくれたのでうれしかった。

【教師】

- ・様々な活動を通して交流をしてきたが、児童が積極的に施設利用者に話し掛け、関わる姿を見て感動した。また、一人ひとりが学校では見られない行動（何かの形でお世話したい）を目にする事ができたので大変意義のある活動であったと思う。

## 【地域のモニター】

- ・子供たちと障害者の方がふれあう自然の姿がよかった。子供たちにはいい経験が出来たと思うし、社会人になってもこのことが思い出に残り、障害者の方を自然に受け入れてくれるようになってくれば、この活動にとっても大きな成果だと思う。

## 主な経費や財源の内訳（年間当たり）

主な経費	概算額
諸謝金（協力モニター）	36千円
賃金（担当職員）	40千円
会議費	32千円
消耗品費	27千円
合計	135千円

主な財源	概算額
・補助金収入 （補助金事業名：県社会福祉協議会 「地域貢献モデル事業」）	135千円
合計	135千円

## 活動の成果、地域の影響、今後の課題

【活動の苦労】

打合せなどの期日や時間の調整

【活動の成果】

参加者様々な気付きがあってよかった。子供達なりに障害者を受け入れ、理解してくれる機会がもてたと思う。小学生の登下校中、挨拶してくれるようになった。

【今後の課題】

地域交流から始まり、今年度は福祉教育として取り組んできた。地域の方々に障害者の理解や共存していく上で大切な活動だと考え、今後も継続を図りたい。さらに、他の法人の取り組みや事例も参考として内容を検討していきたい。

# 事例 傾聴ボランティア養成講座

慈雲福社会（愛知県）

〒491-0101 愛知県一宮市浅井町尾関字同者 163-2

TEL 0586-51-7333

## 活動の概要

地域にボランティア募集を呼びかけ続けたが、応じていただけない。ボランティアの目的を傾聴とすることで参加者も増えるのではないかと考え、法人独自で養成講座を立ち上げた。

平成16年は年5回、平成17年は中学生を対象とした講座を加え年6回、平成18年は中学生を対象を2校としたため、年7回開催した。

## 法人の概要

昭和22年 寿福寺が本殿を開放して、みづほ保育園開設

51年 社会福祉法人慈雲福社会設立認可

平成8年 寿福寺より建設用地 3,265㎡の寄付を受け、特別養護老人ホームウエルコートみづほ開設

11年 みづほ保育園定員 180名とする

12年 木曾川町より建設用地 3,237㎡の無償貸与を受け、在宅複合施設コムネックスみづほを開設

14年 ケアハウスコムネックスみづほ定員 50名の内、18名を特定施設事業所とする

■経営施設数…3

■法人全体の年間事業収入…1,129,799千円

■主な経営施設

保育園…1

特養・ケアハウス…1

ケアハウス・ショート…1

## 活動の内容

■活動対象者…地域住民と地域中学生

■活動の頻度…年7回

■年間の利用者…60名

■活動開始年…2004年

## ■活動の目的

1. 傾聴の意義を学ぶ
2. 社会福祉事業の動向と現状を理解する
3. 福祉サービスの基礎知識を理解する
4. 傾聴ボランティアとしての倫理の基本を学ぶ
5. 傾聴ボランティア活動実践の基本原則を理解する
6. 社会福祉の倫理とは
7. 高齢者の心理的援助方法を学ぶ
8. 高齢者の心身の特徴を知る
9. 実技指導

## ■人材・賃金面等での工夫、苦慮

講師は全て法人施設職員が担当しており、謝礼等の負担費用はない。

①終了証、名札、飲み物代

②ボランティア保険加入料

以上が施設の負担である。

## ■利用者の声、地域の反応

傾聴ボランティアの養成講座は、NPO法人（有料）のものがあるが、一法人が無料で地域に提供する講座は他になく、木曾川町（現在は合併して一宮市）も一宮市も広報に募集記事掲載協力していただいている。



事例

# 障害者地域ピアサポート事業 (ピアサポーター養成講座)

夢の郷 (三重県)

〒514-0818 三重県津市城山一丁目8番16号

TEL 059-238-0303

## 活動の概要

サービスを受ける立場であった当事者が、サポートする立場に立つことで、生きがいや自分自身を振り返るきっかけを得ることができる。また、仲間との交流により、新しい自分や新しい価値観に気づき、今後の生活を豊かに質の高いものにしていく場でもある。自分に向き合い、自分も相手も豊かな生活を送るために活動するピアサポーターを養成していくものである。

## 法人の概要

夢の郷は、県立こころの医療センター（旧県立高茶屋病院）家族会「いすず会」が、我が子の社会復帰を願い平成5年4月にグループホーム「南風荘」を、平成5年10月に小規模作業所「いすず工房」を運営し、平成10年6月30日の社会福祉法人認可に至った。

平成11年4月精神障害者社会復帰施設生活訓練施設、通所授産施設、地域生活支援センターの3複合施設を建設し経営を始めた。

以降、グループホームの開設と増設をし、地域での障害者の生活支援に力を注いでいる。

- 経営施設数…12
- 法人全体の年間事業収入…172,089千円
- 主な経営施設
  - 精神障害者生活訓練施設
  - 通所授産施設
  - 精神障害者地域生活支援センター
  - 小規模通所授産施設
  - 小規模作業所
  - ケアホーム・グループホーム

## 実施施設の概要

- 施設名…アンダンテ
- 施設種別…精神障害者地域生活支援センター

## 施設の運営方針

地域での暮らしを希望する精神障害者に、住宅で自分らしい生活を実現するための支援を行う。生活相談、就労支援を含め、地域での日常生活支援を行い、在宅者の憩いの場として、地域交流する場としての機能も担う。

## 活動の内容

- 活動対象者…障害者、家族、関係者
- 活動の頻度…年4回 1回あたり6時間
- 年間の利用者…70名
- 活動開始年…2006年

## 活動開始の背景（取り組みの経緯）

回復した当事者や家族には「障害があるために一生人の力を借りて生きていくのか」という嘆きと諦めがある。そこには、専門職がどのように共感しても届かないものがあるが、当事者が障害者や家族を支援する場合、健常者の専門職にはない素晴らしい発想がある。当事者自身の体験を活かした相談は、障害者や家族

に生きる力をつけていくものと考えたことから、ピアサポーター養成講座の実施に向けて活動が始まった。

### ■人材・賃金面等での工夫、苦慮

支援事業の計画に際し、

- ①企画にどれだけの人に参加してくれるか
- ②どのような講師にお願いすればいいのか
- ③資金が調達できるかどうか

について悩んだ。

まず、当事者自身が参加費を払って勉強に参加する気持ちがあるかどうか日々の活動の中で確認し意向を確認した。講師には全国的に活動している方に打診した。当事者自身が身近に感じている人に講師になってもらうことで研修に参加しやすいように配慮した。

資金面では独立行政法人福祉・医療機構の助成を得て高いハードルを越えることが出来た。

### ■利用者の声、地域の反応

- ・新しい発見があり、ピアサポートの考え方は、今後の人生を送る上で大切なものであると感じた。
- ・自分を振り返る機会になった。
- ・いろんな仲間と出会い、笑いのある、充実した時間を過ごすことができた。
- ・当事者の声の重みを感じ、新しい価値観にふれることができた。
- ・参加型であり、自分も語り、相手の語りに耳を傾け、仲間と交流できたのがよかった。
- ・参加することで、「元気」をもらったように感じた。
- ・今後、ステップアップした研修会を開催してほしい。

### 主な経費や財源の内訳（年間当たり）

主な経費	概算額
謝礼金	544 千円
旅費	207 千円
諸費	781 千円
合計	1,533 千円

主な財源	概算額
・法人本部負担額	
・施設負担額	
・利用者負担額（利用料）	150 千円
・補助金収入 (補助金事業名：独立法人福祉医療機構助成金)	1,383 千円
・その他の収入	
合計	1,533 千円

### 活動の成果、地域の影響、今後の課題

#### 活動の苦労

- ・資金調達
- ・会場さがし
- ・講師の交渉

#### 活動の成果

- ・仲間意識が芽生えてきた。
- ・障害理解を通して、日常会話の広がりが増えてきた。
- ・働くことも大切であるが、仲間と一緒に学習をすることの楽しみを発見した。

#### 地域への影響

- ・施設の理解が広がった。
- ・いろいろな障害を持つ人の参加によりお互いの障害理解が生まれた。

#### 今後の課題

- ・講習受講者が、ピアサポーターとして活動できるよう継続し応援していくこと。

## 事例 ことばの相談

瑠璃光会（滋賀県）

〒528-0224 滋賀県甲賀市土山町野上野 497

TEL 0748-66-1345

### 活動の概要

言語機能に障害を有する方や嚥下機能が低下している方に言語聴覚士がご自宅や作業所を訪問して、ことばの障害状態の確認を行っています。

その後は必要に応じて日常でのコミュニケーション方法の工夫や言語訓練また嚥下動作に関する相談や指導を行っています。訓練や助言が主な活動ですが、時には日常会話を楽しむことで「ことば」に対するストレスを発散してもらっています。また、対象者の家族や周りの職員にも助言、指導を行っています。

### 法人の概要

福祉行政の熱き思いと地域の要望に応えて、社会福祉法人瑠璃光会は昭和56年、県内初の身体障害者療護施設として「るりこう園」を開園した。当施設は旧東海道士山宿の風情が残る町並みに近く、鈴鹿山麓の清浄な空気に育かれた茶畑に囲まれた中にある。

「生きている喜びに感謝を捧げて、きょうも元気に明日を希望して」を基本姿勢として取り組み続け、平成10年に福祉ホームを開設、平成13年に施設の増改築により入所者定員を60名とした。平成14年には居宅介護事業を始め、平成16年から重症心身障害児者通園事業を受託して、地域障害者福祉への貢献に努めている。

- 経営施設数…2
- 法人全体の年間事業収入…347,500 千円
- 主な経営施設
  - 身体障害者療護施設…1
  - 身体障害者福祉ホーム…1

### 実施施設の概要

- 施設名…るりこう園
- 施設種別…身体障害者療護施設（定員60名）

### 施設の運営方針

地域社会の福祉の充実に寄与するため、  
 ①困っている人に役立つ事業②生きる喜びを尊び生きていく力を高める事業③一人ひとりの可能性を広げる事業の推進に努め、利用者、職員すべての人の健康を願って、「してもらおう人の立場に立って仕事をする」を努力目標として実践する。

### 活動の内容

- 活動対象者…甲賀福祉圏域におられる言葉の不自由な方
- 活動の頻度…月4回、1回当たり3.5時間
- 年間の利用者…55名
- 活動開始年…2003年

### 活動開始の背景（取り組みの経緯）

甲賀市より事業を受託している地域生活支援センターの活動において、支援センターを訪れられる相談者の中に、「ことば」の不自由な方がおられて面談を手話や筆記にて対応していた。

その様な状況の中でセンター職員が、相談活動の一環としてことばに関する相談を採り入れることとした。その後、相談の状況から

訓練すれば回復が見込めるのではないかと思われる方や希望される方そして地域の中でことばが不自由で悩み困っておられる方にまで対象者を拡大して、定期的に「ことばの相談」を開いてことばに関する相談や助言また訓練をすることとなった。

### ■人材・賃金面等での工夫、苦慮

地域生活支援センターの相談事業の中で、ことばに関する相談があったことがきっかけとなり、法人施設に言語聴覚士の資格を有する職員がいたことから、当初は相談業務のためにその職員を派遣していた。

その後、相談活動が定着し、ことばの不自由な方のために定期的に「ことばの相談」を開催することとなった。

現在のところ施設運営や施設利用者の訓練にも支障が発生していないので、生活支援センターのサービスの一つとして継続している。

### ■利用者の声、地域の反応

利用者一人に月1回、30分程度の対応しか提供できていない状況ではあるが、毎回、その時間を楽しみにしておられる方もいる。

嚙下動作の指導を行っているある方は、一つ一つの課題をクリアしていくことで自分に対する自信がついてきた様で「話せるようになりたい」という潜在していた思いを打ち明けてくださったりもした。

相談を受けて指導するという対応だけではなく、話し相手、相談相手としての存在も大切となってきている。

平成18年度に入り、新たな利用者が2名加わり、地域での活動が定着しつつあると感じている。

### 主な経費や財源の内訳（年間当たり）

主な経費	概算額
派遣交通費	22千円
消耗品費	8千円
合計	30千円

主な財源	概算額
・法人本部負担額	
・施設負担額	30千円
・利用者負担額（利用料）	
・補助金収入 （補助金事業名： ）	
・その他の収入	
合計	30千円

### 活動の成果、地域の影響、今後の課題

定期的に週1回、午後からという短い派遣時間の中での活動であるため、各利用者一人一人の指導時間が十分に確保できていないのが現状である。

時間的な制約のある中での活動であるが、利用者個人の努力はもとより、その家族やセンター職員の理解と協力により訓練意欲を継続させることができ、機能向上へと結び付けることができるなど、ことばの不自由な方にとって喜びの場となっている。

# 事例 介護無料相談の開催

青祥会（滋賀県）

〒526-0828 滋賀県長浜市加田町字清水 2995 番地

TEL 0749-68-4114

## 活動の概要

広範な範囲の人が集まる大型スーパー 2 階の介護用品売場で毎月第 2 日曜午後 2 時から 5 時まで「介護無料相談」を行っている。

1 時間に 1 回ずつ、店内放送で「青祥会職員による介護無料相談…」と告知してもらっている。

## 法人の概要

当法人最初の施設を設立した当時、湖北管内の寝たきり老人の数は 500 名を超え、うち低所得世帯老人は 243 名であった。また当時、湖北地域には県立の特別養護老人ホームが 1 施設しかなく、常時満床であったことから、施設入所を希望する高齢者は管外あるいは県外の施設を利用するしかなく、老人福祉施設の整備が強く望まれていたことから、地域の期待に応えるべく、昭和 57 年 3 月に当法人を設立し、同年 11 月に最初の施設である「特別養護老人ホーム青浄苑」を整備したものです。

利用する高齢者にとって最大の望みである「永年住み慣れ、気候、風土、習慣等が変わらない土地で老後を送りたい」といった願いに応え、安心した生活を送っていただくことができるよう、当法人では介護老人保健施設 2 施設、特別養護老人ホーム 4 施設を拠点として 57 の事業運営を行っています。

- 経営施設数…7
- 法人全体の年間事業収入…3,827,437 千円
- 主な経営施設
  - 介護老人保健施設…2
  - 指定介護老人福祉施設…4

## ■施設の運営方針

特に在宅での介護に関する疑問などに具体的に対応することを中心に、青祥会の事業内容を広域にわたり周知していただき、青祥会事業の利用拡大をはかっています。

## 活動の内容

- 活動対象者…高齢者及び介護をしている家族等
- 活動の頻度…月1回、1回あたり3時間
- 年間延利用者数…31名
- 活動開始年…1993年

## ■活動開始の背景（取り組みの経緯）

在宅介護支援センター発足時、相談業務の一環として地域に出向く事から始めました。当初は「長浜楽市」でおこなわれていたが、「アルプラザ長浜店」が開店してからはそこに移転し、今に至っています。

## ■人材・賃金面等での工夫、苦慮

- ・青祥会 3 施設の職員 5 人で毎月交替して相談業務にあっています。
- ・長浜市の広報誌「きゃんせ長浜」に相談日を掲載してもらっている他に、米原市ケーブルテレビのお知らせ放送、米原市役所、長浜市役所高齢福祉課、長浜市役所、浅井

支所、びわ支所等、各窓口カラーちらしを置いてもらい、周知を図ってもらっています。

- 以前は各施設の在宅介護支援センター相談員が業務にあたってきましたが、今年度より、在宅介護支援センターが廃止となり相談窓口の設置を終了した施設もありますが、この介護無料相談は継続して実施しています。

### ■利用者の声、地域の反応

広く周知を図ることで、多くの市民に知ってもらえるようになりました。

### 主な経費や財源の内訳（年間当たり）

主な経費	概算額
合計	0円

主な財源	概算額
・法人本部負担額	
・施設負担額	
・利用者負担額（利用料）	
・補助金収入 （補助金事業名：                   ）	
・その他の収入	
合計	0円

### 活動の成果、地域の影響、今後の課題

時間の活動の間、買い物に来られるお客さんから店員に間違えられる事もしばしばありました。

次回相談日を売り場に確認に来られたり、訪問時に「介護無料相談」の事を聞かれたりと市民に周知されてきています。

今後とも活動を続けていく上で、担当相談員の構成をどうしていけば良いのか考慮中です。



事例

# 学童保育時間 (PM6:00) 終了後 における預かり保育

淀福社会 (京都府)

〒613-0904 京都府京都市伏見区淀池上町 151-10

TEL 075-631-1211

活動の概要

常に安心して子育てができる、安心して仕事ができることをモットーにして時代とともに柔軟なサービス対応に心がけることを念頭にしている。

延長保育、障害児保育、一時保育を地域のどの保育園よりも先がけて行い、特に働く母親の身になって安全、安心の上に信頼を得ている。

## 法人の概要

保育園設立の要望が地域に高まった昭和45年頃より地域の有志(民生委員中心)が社会福祉法人を設立するために努力し、昭和47年に法人の認可が得られた淀福社会として、出発するも、おりしもオイルショックで保育園建設が遅れ、49年4月に開園となった。地域周辺は商業地区でサラリーマン家庭の密集した地域に、マンション新住宅が拡がり、保育園の入所希望は常に待機状態である。

■ 経営施設数…3

■ 主な経営施設

保育所…1

児童館分室学童クラブ…1

老人福祉センター…1

## 実施施設の概要

■ 施設名…淀白鳥保育園

■ 施設種別…保育園(定員120名)

## ■ 施設の運営方針

子どもが心身ともに成長発達しゆたかな人格が形成されるよう当園では各年齢に応じた保育と教育を統合した専門性をもち、乳幼児

の生きる力を集団の中で培うことを全面的に支援している。

子どもや保護者に安全な保育・安心な子育て、安心な仕事ができるようにサポートを行っている。

## 活動の内容

■ 活動対象者…小学校1年～3年

■ 活動の頻度…毎日PM6:00～PM7:00

■ 年間の利用者…1,200名

■ 活動開始年…2000年

## ■ 活動開始の背景(取り組みの経緯)

卒園する保護者の要望により学童保育終了(当時は5:00)後、弟妹を預かっている保育園で学童を待たせてもらえないかとの要望をなんとかして聞き入れてあげたいという思いで無償で預かっている。一時保育室を小学生の部屋として提供し、今日までスムーズに行っている。保護者からは本当によろこばれ、子どもたちも育った保育園に安心と安全で心地よいひとときとなっている。

## ■ 人材・賃金面等での工夫、苦慮

・利用にあたっては、無償としている。

・冷暖房費、光熱水費ぐらい徴収してはどの

(身内) 声もあるが、今のところ徴収していない。

- ・一時は小学生が保育士の居るところに寄っていたので在園児保護者より職員に負担がかかり在園児に目が行き届かないとの苦情もあったが、一定の居場所(一時保育ルーム)で待つようになってからはスムーズである。

#### ■利用者の声、地域の反応

- ・保護者からはとてもよろこばれている
- ・他の(利用しない)保護者にとっては、当初は違和感があったようだが、今では当然の事業ととらえて子どもたちにも“(小学生)お帰りなさい”の言葉かけが聞かれる。

#### 主な経費や財源の内訳 (年間当たり)

主な経費	概算額
合計	0円

主な財源	概算額
・法人本部負担額	
・施設負担額	
・利用者負担額(利用料)	
・補助金収入 (補助金事業名: )	
・その他の収入	
合計	0円

#### 活動の成果、地域の影響、今後の課題

今後は地域の子どもたち(小1~小6)全てに対しPM7:30頃まで預かる事業をしたら、どんなに安心して子育てができるだろうと思うし、そのような事業を行なえる方向へがんばりたいと思っている。

# 事例 こころとこころのパイプライン虹

みねやま福祉会（京都府）

〒627-0024 京都府京丹後市峰山町室27番地の2

TEL 0772-62-1251

## 活動の概要

当園のスーパーバイザー（臨床心理士）は不登校や引きこもり、その他様々なこころの問題を持つ方の相談支援を行っている。しかし、非常に広い地域の方が相談に訪れるため、定期的にカウンセリングルームまで足を運ぶことが困難な方もおられる。カウンセリングルームまで足を運ばなくても継続したケアが行えるよう、当園に近い地域の方には当園の場所を提供し、臨床心理士の指示の下、職員が来談者の状況の把握など臨床心理士との橋渡しの役割を行いながら来談者のこころの回復を願うものである。

## 法人の概要

1950年、峰山乳児院を創設。その後、法人運営コンセプトとノウハウを高齢者や障害のある方へのサービスに展開し、地域のニーズにあわせ、地域の社会資源としての機能を十分に発揮することを経営方針として柔軟な福祉事業を展開している。サービス提供のすべての場面で「管理より生活を」大切に、「いつでも、どこでも、だれでも」満足のいく福祉サービスが提供できるよう努めている。

- 経営施設数…10
- 法人全体の年間事業収入…965,000千円
- 主な経営施設
  - 乳児院…1
  - 児童養護施設…1
  - 保育所…1
  - 特別養護老人ホーム…1
  - 老人デイサービスセンター…1
  - 在宅介護支援センター…1
  - 障害児通園施設（児童デイサービス事業）…2
  - 認知症対応型老人共同生活援助事業…2
  - 障害者地域生活支援センター…1
  - 小規模多機能型高齢者施設…1

## 実施施設の概要

- 施設名…障害児通園施設さつき園
- 施設種別…児童デイサービス（定員10名）

## 施設の運営方針

発達に遅れやつまずきのあるお子さんひとり一人に、「今、何をしてあげたらいいか」を見つけ出し、保護者とともに考えながら一緒に取り組んでいる。乳幼児には発達検査を基に個別プログラムを立て個別に指導を、学童児には集団を活用した表現活動を通して、積極的に子育てを支援している。お子さんの発達を見つめ、ひとり一人に応じた関わりと、ともに歩んでいける家庭、そして地域の環境づくりに努めている。

## 活動の内容

- 活動対象者…不登校や引きこもりなど、こころの問題を持つ方
- 活動の頻度…1回/週 1回当たり1時間程度
- 年間の利用者…0~80名
- 活動開始年…1998年

## 活動開始の背景（取り組みの経緯）

当地域の中には、不登校や引きこもり、その

他こころの問題で悩んでおられる方は少なくなく、当地域から、臨床心理士の下へ相談に訪れる方もあった。しかし、来談者が住む地域と臨床心理士がカウンセリングを行うカウンセリングルームは非常に離れており、カウンセリングを受けるためには1時間から2時間をかけて通わなければならなかった。カウンセリングを継続、実施していくには、来談者にとってもっとも近い場所で支援が出来るようにすることが課題となった。そこで、当園の場所を提供し、臨床心理士の指示の下、職員が来談者の状況を聞き取り、把握など臨床心理士との橋渡しの役割を行うことになった。

### ■人材・賃金面等での工夫、苦慮

活動を始めた当時、本事業（障害児の療育事業）は市町村からの委託であり、園の運営費は市町村からの委託費でまかなわれていた。現在の実施・運営主体は法人であるものの、市町村からの運営費補助を受けながら事業を行っている。本事業以外の「健常児のこころの問題への支援」への取り組みをすることは非常に難しい状況であった。本事業に支障がないように来談の時間を予定することはもちろんのこと、対応する職員も勤務時間外で対応することがしばしばであった。対応する職員は、臨床心理士と連携をとりながら進めてはいるが、来談者と臨床心理士の間で、双方の思いをどうつなげていくのかという難しさや、対応する職員自身の資質も問われる内容であり、未熟と感ずることもあった。

### ■利用者の声、地域の反応

来談される過程で、不登校だったお子さんが明るくなり、学校へも行けるようになるなど、来談者の姿に改善が見られカウンセリングの終了を迎えられた方もある。そのような時、自分の住んでいる地域に近いところで安

心して相談できたことに感謝のことばをいただくこともある。

このような取り組みが、地域の中で同じ問題を抱えた方にさらに伝わり、当園に相談にこられる方もある。

## 活動の成果、地域の影響、今後の課題

来談者の姿に改善が見られたことや、来談者と臨床心理士の取り組みに一役担えたことをとても嬉しく思う。

また、本体事業の中で、保護者を支援するために積極的に研修を積んでカウンセリングの資格取得にも励んできたが、このように地域の中で活かすことができることに喜びを感じている。

当地域内で、不登校やひきこもり等、こころに問題を持たれている方が、年々増加傾向にあると聞く。地域における事業所の活動のあり方を考えるとき、さらに広く対応できるようにしていかなければならないと考えている。自分たちが持っている機能を地域の中で活かすことができるように、より研修を積んでいきたいと思う。

事例

# ① こどもをみんなでももろう 今宮地域安全パトロール隊

大阪自彊館（大阪府）

〒557-0014 大阪府大阪市西成区天下茶屋1丁目3番17号

TEL 06-6659-8000

活動の概要

当法人が所在する小学校区児童の安全確保のため、定時に校区内を自転車で巡回パトロールをしている。また、学校の校門前の立番もしている。

救護施設 白雲寮・甲子寮、身体障害者療護施設及び事務部門の職員約170名が交替で参加している。

月～金曜日、下校時の15:00～17:00に1組2名で30分毎×4組で実施。

## 法人の概要

当法人は、明治45年6月釜ヶ崎地区（現「あいりん」）改善を目的とし、無宿者収容更生施設として発足、その後時代のニーズに応じて、授産、簡易食堂、物品販売所（大阪市公設市場の前身）、公益質屋、保育所、生活相談所、診療所等の先駆的な事業を行ってきた。現在は、救護施設7、身体障害者療護施設2、特別養護老人ホーム1、他を運営している。

■ 経営施設数…10

■ 法人全体の年間事業収入…5,352,250千円

## ①の実施施設の概要

■ 施設名…甲子寮、白雲寮、今宮寮

■ 施設種別…救護施設（甲子寮、白雲寮）  
身体障害者療護施設（今宮寮）

## ■施設の運営方針

「自彊不息（じきょうやまず）」を利用者に対する不変の方針とし、「他律から自律、依存から自立」を基本に、「ここに響くサービス」の提供に努める。

## ①の活動の内容

■ 活動対象者…小学校児童

■ 活動の頻度…月21回 1回あたり2時間

■ 活動開始年…2006年

## ■活動開始の背景（取り組みの経緯）

元々、地区社協とPTAで取り組む予定であったが地区社協及び学校長からの協力依頼があり、当法人で取り組むこととなった。

※ H18.4月～8月実績

実施回数 98回 参加延人数 674名

## ■人材・賃金面等での工夫、苦慮

特定の部署、職員に片寄らないようスケジュール表を作成し、変更がある場合にはその部署が責任を持って調整するようにした。

## ■利用者の声、地域の反応

本格的に活動を始めてまだ5か月程度であるが、地域代表（主に保護者）から登下校時の不安感が軽減されたとの声が聞かれる。

特に学校からは活動の継続を強く望まれている。

## ①の活動の成果、地域の影響、今後の課題

活動が定着することにより、当法人が地元住民にとってより近い存在になってきた。

また、職員にとっても地域の様々な社会資源を知ることができるようになった。

現在は職員のみでの活動であるが、今後地域在住OBの地域交流、自立支援の機会としても生かせるようにしたい。

## 事例 ②地域相談室

大阪自彊館（大阪府）

〒557-0014 大阪府大阪市西成区天下茶屋1丁目3番17号

TEL 06-6659-8181

### 活動の概要

「地域相談室」

- (1) 社会的援護を必要とする独居老人への生活援助、介護保険非該当、認定前の独居老人に対するサービス内容、買物、掃除等の家事援助、公的機関、医療機関、金融機関等への連絡や付き添い、安否確認や話し相手、介護保険利用の相談や、介護事業者への橋渡し等
- (2) 相談機関として、あそこへ行けば話（相談）が出来るをモットーによろず相談所を目指しています。

### ②の実施施設の概要

■施設名…白雲寮

■施設種別…救護施設（定員240名）

#### ■施設の運営方針

障害の種類を問わず、幅広い対象者を受け入れ、個別支援計画に則り自立支援を推し進め、利用者の豊かな生活の実現を目指す。また利用者が地域での自立した生活に移行できるよう、計画的なサービスを進める。

### ②の活動の内容

■活動対象者…地域の独居老人

■活動の頻度…ほぼ毎日1回

1回あたり30分～2時間

■活動開始年…2006年

#### ■活動開始の背景（取り組みの経緯）

施設周辺地域には、高齢単身世帯の方が多く居住されている。また近年は施設を退所した後、施設近辺に住む人も多くなってきている。この方々が日常生活を送るうえで、困った事、知りたい事、手伝って欲しい事等のニーズに地域の一員として一つでも貢献していこうとの方針から取り組みを始めた。

#### ■事業実施上の課題

開設間もないこともあり、地域への浸透性を増すことが現時点で苦慮しているところである。

#### ■利用者の声、地域の反応

誰からも援助を受けられない一人住まいの高齢者からは、費用もかからず助かると喜ばれていますが、その一方で、無料だから頼みづらいといった声もある。

#### 主な経費や財源の内訳（年間当たり）

主な経費	概算額
事務費	113千円
合計	113千円

主な財源	概算額
・施設負担額	113千円
合計	113千円

#### ②の活動の成果、地域の影響、今後の課題

地域相談室開設から日も浅いため、地域への知名度が低く、相談・依頼件数自体が少ない。よろず相談所として地道な実践活動を積み重ねていくことで、地域からの信頼を得、口コミで知名度が高められるよう努力していく。

# 事例 すみれ老人大学

大阪福祉事業財団（大阪府）

〒536-0001 大阪府大阪市城東区古市1丁目20番82号

TEL 06-6931-0098

## 活動の概要

「高齢者のいきがづくり」と「福祉地域の担い手養成」のため、毎週1回講座を開催し、地域の高齢者の方に受講していただいている。学期を3学期制に区分し、2年で本科修了、もう2年受講していただいた方には、研究科修了という形で、4年生の大学の体裁をとっている。希望者には、卒業後の聴講を受け付け、学び続けたいというニーズに応じている。福祉、健康、いきがいの3つの講座を中心にカリキュラムを編成し、運営している。

## 法人の概要

当法人は、前身である恩賜財団同胞援護会大阪支部が1948年8月16日に民間法人として改組された日を設立日にしている。

その後、1950年に大阪福祉事業財団と改称し、1952年の社会福祉事業法の制定により、現在の社会福祉法人大阪福祉事業財団に改組した。当法人は「公設民営」方式によって誕生したが、半世紀を超える長い歴史を通じて、福祉施設及び各種事業の充実に努めてきた。

大阪府下に20を超える多業種施設と80を超える地域事業を通して、地域社会と住民の福祉要求に応えるため、運営の三原則（①利用者の生活と権利を守る②労働者の雇用とくらしを守る③経営の安定をめざす）を堅持し諸事業をすすめている。

- 経営施設数…23
- 法人全体の年間事業収入…5,471,000千円
- 主な経営施設
  - 救護施設…1
  - 知的障害児施設…2
  - 児童養護施設…1
  - 乳児院…1

- 特別養護老人ホーム…1
- 養護老人ホーム…1
- 養護(盲)老人ホーム…1
- 知的障害者更生施設…7
- 保育所…5
- 児童厚生施設…1
- 宿所提供施設…1
- 無料定額診療事業…1

## 実施施設の概要

- 施設名…城東特別養護老人ホーム
- 施設種別…特別養護老人ホーム（定員70名）

## ■施設の運営方針

- ① 利用者の生存権、幸福追求権の尊重
- ② 信頼される施設づくりの追及
- ③ 高齢者の人としての尊厳が保障されるための社会保障・社会福祉制度確立のための運動の展開
- ④ 平和で福祉ゆたかな地域社会をつくる

## 活動の内容

- 活動対象者…施設近隣在住の高齢者、その他希望する高齢者
- 活動の頻度…月4～5回  
1回あたり1時間半程度

■年間の利用者…約1,000名

■活動開始年…1976年

### ■活動開始の背景（取り組みの経緯）

高齢者に学習を通して、福祉活動や社会参加への啓発を促し、それぞれの地域で福祉活動の担い手となっただけを目指すとともに、学習を通して、当時まだまだあった施設に対する偏見の除去や、地域の方が老人ホームで学習することで入居者との交流が進み、引きこもりがちな入居者の社会参加の窓口とすることも目的に事業を開始した。

### ■人材・賃金面等での工夫、苦慮

- ・脆弱な予算規模のため講師依頼が困難である。
- ・公務員や法人職員などを講師とし、経費を抑制している。
- ・講師の人材発掘が難しくなっている。
- ・いきがいつくりの助成金制度なども活用しているが、恒常的に補助金が保証されるとは限らず、収入が不安定になっている。
- ・利用者からは、テレビのコマーシャル等の出演者を講師として欲しいとの要望があるが、応えきれていない。

### ■利用者の声、地域の反応

- ・講義内容は受講者から好評をえている。
- ・人づてに「すみれ老人大学」の存在を知って、他府県から受講される方もいる。

### 主な経費や財源の内訳（年間当たり）

主な経費	概算額
講師料	322千円
会場費	45千円
卒業記念メダル等諸費用	45千円
合計	412千円

主な財源	概算額
・法人本部負担額	
・施設負担額	59千円
・利用者負担額（利用料）	352千円
・補助金収入 （補助金事業名：）	
・その他の収入	
合計	412千円

### 活動の成果、地域の影響、今後の課題

- ・成果としては、受講者が地域のボランティア団体に入ってボランティア活動をしたり、福祉まつり等の運営にあたってボランティアや参加団体の中心メンバーとして積極的に協力いただけるようになった。また、老人大学のクラブ活動を通じて新たな交流の輪も広がってきている。
- ・今後の課題としては、益々高齢化が進行していく中で、高齢者が学びたいという希望にどう応えていくか、特に、充実した講座内容等を提供し続けていくためにも財政的基盤を確立していくことは急務となっている。

事例

# 福祉バスの地域運行

成光苑（大阪府）

〒566-0001 大阪府摂津市千里丘3丁目16番7号

TEL 06-6330-3776

活動の概要

岩戸ホームを発地とし、市内総合病院、ショッピングセンター、市役所、駅を巡回している。車輦は29人乗りのバスを使用し、月～金曜1日4往復運行している。料金は無料。「岩戸ホーム福祉バス」の名称で親しまれ、地域になくってはならない事業となっている。

## 法人の概要

大阪府、京都府にまたがり社会福祉施設を経営している。

- 経営施設数…10
- 法人全体の年間事業収入…2,838,907千円
- 主な経営施設
  - 特別養護老人ホーム…4
  - 保育所…6

## 実施施設の概要

- 施設名…岩戸ホーム
- 施設種別…特別養護老人ホーム（定員80名）

## ■施設の運営方針

品質方針

「まごころと思いやりを大切にそして地域愛される施設づくりを目指す」

運営方針

1. グループユニットケアの推進
2. 介護力の確保と人材の育成
3. 包括的な地域展開と地域貢献
4. 経営、運営ビジョンの確立

昭和50年8月軽費老人ホーム（B型）、昭和54年4月特養50名（昭和62年4月30

名増床）、昭和54年4月ショートステイ4名（平成6年4月3名増床）、平成6年4月ホームヘルプサービス、平成10年4月デイサービス、平成10年9月在宅介護支援センター、平成12年3月訪問介護ステーション、平成18年4月小規模多機能施設を開設。開設当初より、地域福祉の推進にも取り組んできました。現在では、地域住民の憩いとしての「寿司・居酒屋いこい庵」、地元自治会との共催「夏まつり」などの活動も行っている。

## 活動の内容

- 活動対象者…地域高齢者
- 活動の頻度…月～土（祝日除く）
- 年間の利用者…4488名
- 活動開始年…2001年

## ■活動開始の背景（取り組みの経緯）

活動開始当時、福知山市の高齢化率20%以上であり、岩戸ホームの位置する小学校区の高齢化率は25%以上であった。このように①地域全体が高齢化し、また独り暮らし高齢者も増加しており、②地域に病院もなく、市内の総合病院を利用しなければならない現状があること。③高齢化にともない車両を保有さ

れない世帯が増加。路線バスが過疎化のため運行縮小し、タクシー利用も片道 5,000 円程度必要となる。という地域のニーズがあった。当施設として、デイサービスの朝の送迎後から夕の送迎前まで稼動しない車両があることから、この時間のみ車両と運転手を「福祉バス」という名称で運行した。現在は、専用車両を確保し、デイサービス送迎時も運行している。

### ■人材・賃金面等での工夫、苦慮

- ① 専用車両（29 人乗りバス）の購入（2 / 3 日本財団助成）、維持・管理
- ② 専門スタッフ（大型免許保持者）の雇用（現在 2 名）

### ■利用者の声、地域の反応

- ・これまで、通院をするときはタクシーを利用するか、地域の方に乗せていってもらっていたが、気兼ねなく利用できるのととてもうれしい。
- ・福祉バスのおかげで、買い物など外出する機会が増えました。などのご意見を多数いただいております。平成 13 年度延利用者数 1,331 名に対して平成 17 年度延利用者数 4,488 名という利用状況であり 5 年間で 3 倍以上利用者数が増加している。このことから、地域ニーズにある程度応えているといえる。

### 主な経費や財源の内訳（年間当たり）

主な経費	概算額
整備修繕費	152 千円
保険各種	183 千円
車検	120 千円
自動車税	33 千円
燃料・タイヤ	700 千円
人件費	2,700 千円
合計	3,888 千円

主な財源	概算額
・法人本部負担額	0
・施設負担額	3,888 千円
・利用者負担額（利用料）	0
・補助金収入 （補助金事業名： ）	0
・その他の収入	0
合計	3,888 千円

### 活動の成果、地域の影響、今後の課題

#### 【活動の成果】

利用実績も毎年増加していることから、活動に対してのよい評価をいただいているといえる。

#### 【今後の課題】

年間の必要経費の増加、特に燃料代の高騰が課題である。また、小学校区全ての方の送迎には対応できていないのが現状である。福祉有償運送の申請も行っているが、現段階では、29 人乗りバスは有償運送の対象外であり、活用できない。



現行福祉バス（2004 年 4 月～）

\*日本財団より助成していただいた専用バスで運行

# 事例 巡回バス運行事業

桑の実園福祉会（兵庫県）

〒679-4003 兵庫県たつの市揖西町小神字塚原 1551-1

TEL 0791-66-1360 (代)

## 活動の概要

たつの市は南北に流れる揖保川を挟んで、東西 15.9 km、南北 29.2 kmの縦長の地形となっている。市内の交通アクセスは南部にJR山陽線が東西に、また姫新線が南北に通っているが、公共のバス等は極めて限定的であり、市民の足は殆どが自家用車を使つての移動となっている。

こうした環境下、特にたつの市の高齢者にとっては市役所、医療機関、銀行、マーケットといった日常のチョッと移動に大変な不便を感じていた。

こうした中で、当法人の運行する巡回バスは地域市民のニーズに応えるものとして、特に高齢者を中心に、桑の実園への信頼感も加わり、大変な好評を得ている。

## 法人の概要

昭和 63 年 4 月  
法人認可

昭和 63 年 11 月  
特別養護老人ホーム 桑の実園 開設  
(入所定員 54 床 内、ショートステイ 4 床)

昭和 63 年 12 月  
桑の実園デイサービスセンター 開所

平成 5 年 6 月  
老人保健施設 旭陽（あさひ）開設  
(入所定員 54 床 内、ショートステイ 4 床)

平成 8 年 12 月  
あさひ訪問看護ステーション

平成 8 年 12 月  
くわのみ園在宅介護支援センター・居宅介護支援事業所 開設

平成 11 年 4 月  
ホームヘルパーステーション 助さん 開設

平成 14 年 4 月  
特別養護老人ホーム 桑の実園 増床  
(入所定員 84 床 内、ショートステイ 4 床)

平成 14 年 5 月  
あさひ訪問リハビリテーション 開設

平成 17 年 5 月  
特別養護老人ホーム 桑の実園ショートステイ 増床  
(入所定員 92 床 内、ショートステイ 12 床)

平成 19 年 3 月  
小規模多機能型居宅介護事業所「小たつの家」開設  
予定

### ■経営施設数…9 事業所

(平成 19 年 4 月 1 日現在)

### ■法人全体の年間事業収入…868,148 千円

(平成 17 年度)

### ■主な経営施設

特別養護老人ホーム(短期入所生活介護含む)

デイサービスセンター  
ホームヘルパーステーション  
居宅介護支援事業所  
在宅介護支援センター  
老人保健施設  
訪問看護ステーション  
訪問リハビリテーション  
小規模多機能型居宅介護事業所

## 実施施設の概要

■施設名…桑の実園

■施設種別…介護老人福祉施設

(定員入所 80 人、短期入所 12 人)

## ■施設の運営方針

(法人の基本理念)

### 一、主権在老

本質的に現在の状況を自ら選択している老人は一人もいない。せめて、本施設利用中だけでも、利用者が自らの意思に基づき、自立した質の高い生活を送ることができるよう支援する。

### 一、基本的老権の尊重

まずもって不可欠なる衣・食・住を保障・確保し、且つひとり一人の個性(老権)を尊重したサービスを提供する。

### 一、平穏主義

平穏なる安心感を与えることが老人ケアの大原則である。即ち、自分が困難なとき、絶対知らぬふり、見ぬふりをされないことの確証のことである。

### 一、終末ケアの実践

## 活動の内容

- 活動対象者…市内在住の方(特に制限は設けていないが高齢者対象)
- 活動の頻度…平日の月曜日から金曜日
- 年間の利用者…H18年度(2月末現在3,450人)  
H17年度 4,372人
- 活動開始年…平成11年9月

### ■活動開始の背景(取り組みの経緯)

兵庫県の南西部に位置する旧龍野市は、姫路市にも隣接し、JR 姫新線や山陽自動車道等もあり、市外とのアクセスは一定の便利さがある。しかし、市内では電車や路線バス等の公共交通機関は限られた地域にしか運行されておらず、路線から遠い地域に住む高齢者等が市内を移動する手段がないという課題があった。

本会では、地域の自治会に協力を仰ぎ、アンケートを実施して具体的なニーズの掘り起こしから始めた。また、各地区の自治会や老人会、婦人会へ説明にも出向き、巡回バスの利用についてもPRをしている。巡回バスの事業化は平成11年。市役所や銀行、病院やスーパーなどを巡回するバスを、月曜から金曜、曜日ごとにコースを設定し運行している。一応の運行ルートはあるが、利用者の希望に合わせてケース・バイ・ケースで停車しているのが実情である。利用者のニーズに基づき、更に14年度から路線も拡張した。基本的な対象は高齢者だが、とくに限定はなく、利用料は無料としている。桑の実園は、地域の中から「いろいろなところに行きたいが、交通手段もなく、出て行くことが難しい」という声を聞き、それをもとに、住民と連携して「住民の移動権」を課題として事業化していった。これは、「法人は地域住民のためにある」という考えによる。普段から地域との交流には、積極的で、これらの実践を通じて、地域から「見える」法人、地域住民が「安心拠点」として頼れる存在である、ということを実感し、理解を得ている。平成17年11月の市町村合併や、今後の介護保険制度の改定等、法人・施設の置かれる立場や、環境は決して良いとはいえないが、桑の実園では、この事業の重要性を考慮して、可能な限り続けていく意向である。

### ■人材・賃金面等での工夫、苦慮

高齢者の方々が主たる利用者なので、人当たりのやさしい、気配りの出来る方、定年された方で、まだまだ働く意欲のある方をお願いしている。

### ■利用者の声、地域の反応

これまで、買い物・病院受診・行政への事務手続きや当福祉会への入所者への面会時等に、平日は「家族」の方も留守をされていたり、また気の合う友達と連れ立って外出することが難しかったが、「巡回バス」を利用することで、気軽に外出ができるようになった、などの感謝の声をいただいている。

地域の反応も、歓迎していただいております。今はまだ自分で「運転」できるが、「いずれは…その時に今のように運行していただければ心強い、安心です」といった声を聞かせていただいている。各自治会の集会場前を運行経路に入れることにも理解を示していただいている。(悪天候時や炎天下には屋根の下で待っていただける場所が必要)

### 主な経費や財源の内訳(年間当たり)

主な経費	概算額
点検費	190,000
熱料費	540,000
人件費	2,800,000
合計	3,530,000

主な財源	概算額
・施設負担額	3,530,000
・利用者負担額(利用料)	無料
合計	3,530,000

### 活動の成果、地域の影響、今後の課題

「巡回バス」の車内に本会の広報誌やパンフレット・行事の案内等を設置したことで、市民に本会の事業運営に理解をしていただき、「介護サービスや利用の相談」、また「介護保険についての質問」等も運転士を通じて受け、相談者の方々に対応させていただいている。

# 事例 相談・マネジメント・ネットワークの形成

フレンド（兵庫県）

〒651-1313 兵庫県神戸市北区有野中町 1-3-8

TEL 078-982-9595

## 活動の概要

相談支援事業…障害者相談支援事業として「障害者地域生活支援センター」を開設。障害者等からの相談を 365 日、24 時間体制で受けている。現在 1 カ所で開設。ピアカウンセリング（同じ障害を抱える者がカウンセラーとなり、相談や支援を行う活動）。

ヘルパー派遣事業…障害者（児を含む）を対象に、ヘルパーを派遣する事業を実施。

ボランティア講座…障害者理解とボランティア養成を目的に講座を開催。また「障害者ふれあい区民ハイキング」と題し、障害者との交流事業を企画実施。

北区障害者ネットワーク連絡会…北区所在の福祉サービス事業者が集まり、ケース検討等を行っている。フレンドは幹事施設として、運営に協力。

就労支援事業…障害者の一般企業就労への支援、転職後の定着支援等を実施。

## 法人の概要

■経営事業数…3

■法人全体の年間事業収入…65,000 千円

■主な経営事業

相談支援事業…障害者地域生活支援センター

居宅介護事業…居宅介護事業所エフ

就労支援事業…神戸市北部地域障害者就労推進センター

## 実施施設の概要

■施設名…居宅介護事業所エフ

■利用状況（平成 17 年度実績）

年間利用者数（延べ）… 443 名

年間利用時間（延べ）…5,702 時間

## 活動の内容

### ■活動開始の背景（取り組みの経緯）

フレンドの前身にあたる「F の会」は、平成 5 年に市の作業委託を受けた神戸市北区所在の 4 つの知的障害者関係施設（上野丘更生寮、ヨゼフ寮、陽気寮、はっち作業所）によって組織化された団体である。F の会で

は除草作業等を行い、知的障害者の就労実習の機会として大きな役割を果たしてきた。これらの事業を通じて、F の会では、地域における障害者の相談支援の必要性と就労に関する支援体制の強化を痛切に感じたという。そこで、F の会に所属する社会福祉法人 3 団体（上野丘さつき会、ヨハネ会、陽気会）が出資しあい、社会福祉法人フレンドを設立した。また、その際、社会福祉法人緑水会も参画し、稀にみる社会福祉法人間の協働による法人設立という取り組みが誕生した。

自分たちの町の社会資源や活動できる機会や場所といった情報を基に、ライフプランを組み立てていく上で相談活動は入り口となり、ニーズ把握や具体的なサービス開発のきっかけとなる。障害者の地域生活移行が進む中、福祉サービス事業者は「その人らしい生き方」を相談活動やサービス提供を行う中で見出し、生活支援を行うことが重要だ。必要であれば、フレンドのように社会資源を開発し、ネットワークを形成する。その人にあったケアマネジメント・相談支援を基本としながら、事業者自身の専門性を発揮することが求められる。

## ■利用者の声、地域の反応

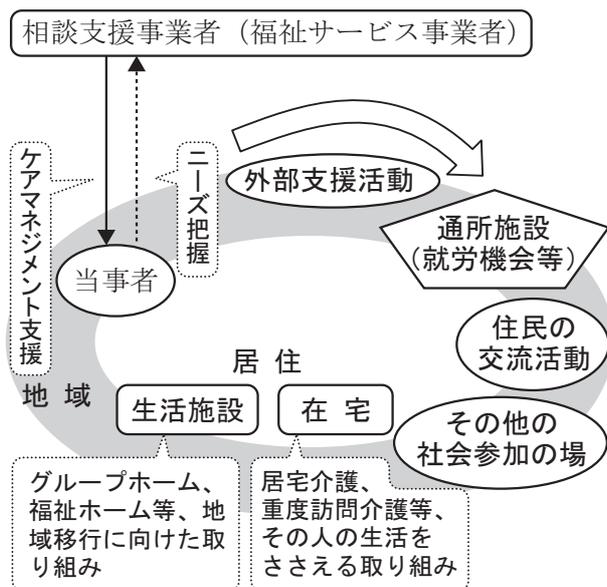
法人をつくった4つの施設と当法人が少しずつではあるが、地域にお住いの障害のある方が少しでも地域で住みやすくなるように支援を行い、施設に入所している方の地域移行にもとりくんでおり、地域でそれなりの評価を得ていると思っている。

また、最近就労支援にもとりくんでおり、一般就労者を出すなどの活動を行っているので、その相談も増え、利用者も増えている。

## 活動の成果、地域の影響、今後の課題

※相談活動により見えてきた課題への対応

- ・生活支援ネットワークの形成
- ・関係団体間ネットワーク
- ・あらたな社会資源開発 など



◆相談活動はニーズ把握や社会資源開発のきっかけとなる

◆相談活動を通じて、当事者の「その人らしい生き方」を支援

事例

# ① 「子育てひろばよしい川」 ② 「三世代交流むつみの会」

旭川荘（岡山県） 〒 703-8555

岡山県岡山市祇園地先

TEL 086-275-0131

施設住所 〒 704-8126

岡山県岡山市西大寺浜 608

TEL 086-942-9521

活動の概要

## ①子育てひろばよしい川

子育て家庭に対する育児不安等についての相談、子育てセミナー、親子教室、遊び場を提供することにより、子育て家庭に関する育児支援を行っています。

## ②三世代交流むつみの会

幼児から高齢者を対象として「三世代交流むつみの会」をつくり、地域性、公共性の高い多世代の地域交流会を開催しています。

## 法人の概要

旭川荘は、昭和32年4月、「天を敬い人を愛する」人間尊重の精神を基本に子どもからお年寄りの総合医療福祉施設をめざし、川崎祐宣先生によって創設されました。

当初は、肢体不自由児施設「旭川療育園」、知的障害児施設「旭川学園」、乳児院「旭川乳児院」の3施設で発足しました。

半世紀を経た今日、心身障害児・者、乳幼児、高齢者、専門職員養成の施設、研修・研究機関、社会自立や在宅支援の諸事業など、60余の施設を擁する「総合医療福祉施設」となっています。民間社会事業の特質を發揮し、岡山市、高梁市、備前市、井原市、さらに愛媛県鬼北町において、地域医療福祉に貢献しています。

### ■経営施設数

第一種社会福祉事業…26施設

第二種社会福祉事業…50事業所

公益事業…22事業所

■法人全体の年間事業収入…15,413,000千円  
(平成18年度予算)

## 実施施設の概要

■施設名…三世代交流センターよしい川

■事業開始年…2006年

### ■施設の運営方針

岡山市西大寺地域における子育て支援の拠点として、地元在住の親子を対象に子育ての支援を行うとともに、

半世紀にわたって築かれた障害児療育の実践で得た知識・技能を活かし、他の子育て支援センターでは対応困難な発達障害幼児の相談に取り組みます。

また、伝承遊びなどを通じて世代を超えた交流の機会や場所を提供するなど、地域住民の交流の場としての役割を果たし、地域の活性化を図るものであります。

## 活動の内容

### ①子育てひろばよしい川

■活動対象者…子育て中の親子

■事業内容

項目	内容
親子ひろば	親子で遊べるような活動
子育て相談	子育てに関する相談
子育てセミナー	旭川荘の職員や厚生専門学院の教員が、子育てに関する話や、情報提供
三世代交流講座	おじいちゃんやおばあちゃんと一緒に伝承遊びを楽しむ

■活動・利用状況…毎週(月・水・金曜日)

開館時間10時から16時まで

■利用者数…児童196名(157親子)

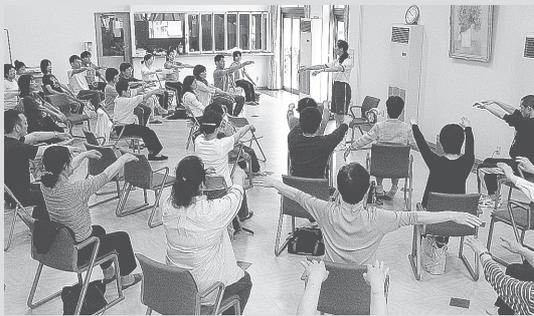
■活動開始年…2006年



## ②三世代交流むつみの会

- 活動対象者…岡山市西大寺豊地区を中心とした多世代の地域住民
- 活動・利用状況…月1回、240名
- 活動開始年…2006年
- 事業内容

月	活動題目
18・5	出張スポーツクラブin三世代交流センター
6	孫・親子で歩こう健康ツアー
7	三世代交流センターってこんなところで ニューウェーブエクササイズ体感
8	西大寺「結びの杜」未来予想図
9	必ず成功する介護予防のコツ
10	That's子育て支援事業
11	アートギャラリー三世代交流センター 2006秋
12	よろず医療相談in三世代交流センター
19・1	これぞ本番「手打ちうどん教室」
2	21世紀のこどもと日本の未来
3	行ってみましょうフィットネスクラブ
4	豊の歴史とまちづくりの歩み



### ■活動開始の背景（取り組みの経緯）

岡山市協働のまちづくり条例に基づき、特定非営利公益事業の指定を受け、子どもから高齢者、障害者、若者及び地域住民がともに集い交流することができる「東部国際福祉交流拠点推進事業」の一環として、子どもから高齢者がともに利用することができる「三世代交流センターよしい川」を整備しました。

子育て支援については、高齢者や地域の人たちとふれあいながら、地域と一体的に支援していくことがより効果的であると考え、この施設内に「子育て支援センター」を設置しました。

また、地域の人たちとふれあう場を積極的に提供することにより、地域のコミュニケーション、世代間交流を

図り、地域づくりの支援をしていきたいと考えています。

### ■人材・資金面等での工夫、苦慮

いずれの活動も地域の人たちが主役で、事業者は支援者としての立場で運営し、利用者の参加費用を抑えて、利用しやすい環境での事業展開を図っています。

事業を開始して間がないということで、参加料を無料としていますが、事業が順次拡大していくなかで、応分の負担をいただきながら事業の質の向上・継続を図っていく必要があります。

### ■利用者の声、地域の反応

最初は緊張気味であったものが、参加者同士が打ち解けてくると会話もはずみ、また高齢者と幼児が触れ合う場面もみられ、和気あいあいとした雰囲気になり、老若男女の参加者の交流が図られています。

### 主な経費や財源の内訳（年間当たり）

主な経費	概算額
人件費	1,220 千円
事務費	994 千円
教養娯楽費	360 千円
合計	2,574 千円

主な財源	概算額
・施設負担額	2,214 千円
・その他の収入	360 千円
合計	2,574 千円

### 活動の成果、地域の影響、今後の課題

- ・若者から高齢者までの世代を超えた地域住民同士の「ふれあいの場」の提供ができています。
- ・子育てひろば、子育て相談により、母親たちの育児不安の解消につながるとともに、母親同士の絆づくりが図られています。
- ・「三世代交流むつみの会」の開催にあたっては、季節にそったプログラムが提案できるように検討する必要があります。
- ・参加した母親たちの希望に沿った講座・講習の開催を参加者とともに考えていく必要があります。

例：「素敵なママになるために」、「子育て研修会」など

# 事例 地域住民のボランティア活動の支援

豊北福祉会（山口県）

〒759-5512 山口県下関市豊北町大字田耕 2426-1

TEL 0837-83-0056

## 活動の概要

地元住民がボランティアで行う地域高齢者のためのサロンのようなデイサービスの援助や助言を施設職員が行う。

- ① デイサービスの方針や方向性の話し合い
- ② ボランティアの方への研修の企画、実施
- ③ デイサービスの利用時の利用者への対応

## 法人の概要

設立後 30 年という長い歴史のある法人である。今後の法人運営の方向性としては、「地域に貢献できる法人」を目標にしている。その一環として、昨年法人分割や法人名称の変更を行い、改革に取り組んでいる。

- 経営施設数…2
- 法人全体の年間事業収入…570,000 千円
- 主な経営施設
  - デイサービス…1
  - ヘルパーステーション…2

## 実施施設の概要

- 施設名…白滝荘
- 施設種別…特別養護老人ホーム（定員 90 名）

## 活動の内容

- 活動対象者…地域の高齢者及びボランティア
- 活動の頻度…月 2 回 1 回あたり 6 時間
- 年間の利用者…220 名
- 活動開始年…2004 年

## ■活動開始の背景（取り組みの経緯）

地域住民が地域高齢者のためにデイサービ

スを企画する。その立ち上げ、運営等の援助を行政から委託として受ける。

## ■人材・賃金面等での工夫、苦慮

- ・白滝荘としては、毎回 2 名の職員を派遣していた。しかし始めのうちは、企画した地域住民のボランティアの参加がなく、ボランティアの確保に苦慮した。
- ・ボランティアの方に福祉的視点がありません、デイサービスの方向性が定まらなかった。そのためボランティアの方を対象に白滝荘で研修を行ったり、デイサービス終了後に毎回反省会を行った。またボランティアの方と白滝荘職員と一緒に、視察や研修にも参加した。

## ■利用者の声、地域の反応

- ・デイサービス利用者からは「遠くのデイサービスまで通わなくていい」と好評を得ている。
- ・地域の住民に浸透しきれていないが、活動内容を知っている方は、ボランティアに参加され理解を示している。
- ・狭い地域の中で行っているのも、もともとの人間関係から悪い方に影響したこともある。

- ・ボランティアの中には「いずれ自分もここにお世話になるかも、元気なうちはボランティアをしよう」という方もいる。

### 主な経費や財源の内訳 (年間当たり)

主な経費	概算額
人件費	160千円
合計	160千円

主な財源	概算額
・法人本部負担額	
・施設負担額	
・利用者負担額 (利用料)	
・補助金収入 (補助金事業名: )	
・その他の収入	100千円
合計	100千円

※主な経費や財源の内訳については、白滝荘の事業とせず、白滝荘が職員を派遣している形としている。また地域の方が市の「高齢者健康づくり活動住民グループ助成金」を受けており、その中で白滝荘の職員派遣が助成の対象となっている。主な経費は、現在派遣している職員の給料を日割りにしたものである。

### 活動の成果、地域の影響、今後の課題

目に見えたものはないが、一番最初から利用している約85%の方は、変化なく利用されており、介護保険のサービスを受けていない。今までは、地域住民自体で運営できるように援助するのが中心であった。それもまだまだ途中の段階であり、今後も継続する必要がある。

しかし今後は、その他に現在参加されていない地域高齢者への参加の呼びかる広報活動やデイサービスの場を拠点に、介護予防の為に運動や介護教室を開催できたらと考えている。まだまだ過大が山積みではあるが、今後も地域住民と一緒に話し合いながら、より良い方向にもって行きたい。

# 事例 近隣地域対象介護教室

祥寿園（山口県）

〒751-0833 山口県下関市武久町2丁目53-8

TEL 0832-53-5251

## 活動の概要

近隣の地域の方との交流ネットワーク形成を行い、施設として主体的に関わりを持っていくため、施設内を開放、来所いただき、老人福祉や介護に関するテーマで、外部講師を招いたり施設の職員が講師となって介護教室を開催している。

## 法人の概要

病院の理事長であった、現祥寿園理事長が、今後高齢者の福祉需要が高まってくるということで、病院に隣接して昭和51年特別養護老人ホームを設立。当初、70名定員で開始したが、昭和54年60床増床し130床と、現在でも山口県内一の規模を誇る施設となる。

立地としては、響灘に面した海岸のすぐそばの住宅街に位置し、海に沈む夕陽の美しい場所にあるため、利用者の方や訪れた方々に、大変喜ばれている。

- 経営施設数…4
- 法人全体の年間事業収入…1,163,000千円
- 主な経営施設
  - 特別養護老人ホーム…1
  - 軽費老人ホーム…2
  - 有料老人ホーム…1

## 実施施設の概要

- 施設名…寿海荘
- 施設種別…特別養護老人ホーム  
(定員130名)

## ■施設の運営方針

1. 利用者の人格の尊重とニーズに応じたサービスの提供
2. 福祉のプロとしてより質の高いサービスの提供ができるよう職員の資質の向上
3. 地域の福祉の拠点施設としての機能強化及びマンパワーの育成

## 活動の内容

- 活動対象者…地域住民(近隣地域の自治会会員の方々)
- 活動の頻度…年2～3回程度  
14時30分～16時
- 年間の利用者…80～90名
- 活動開始年…2003年

## ■活動開始の背景（取り組みの経緯）

従来は、地域とのつながりといえば、夏祭りや運動会といった施設行事にお招きする程度であったが、基本方針の「地域の拠点施設」として、また地域の中の施設としてどうあるべきかを職場内で検討し、自治会の方とも相談して、老人福祉が介護保険制度という新しい制度となって、理解ができてないことなどから、福祉・介護を地域の方々にわかりやすく発信する目的で、平成15年4月、施設見学

を兼ねて第1回介護教室を開催し、38名の参加を得た。

### ■人材・賃金面等での工夫、苦慮

毎回テーマを決めるのに苦慮しているが、今までの流れから、介護保険の動向や認知症の問題・接し方等、身近で必要性の高いものが好評を得ているように感じる。

また、講義的なものばかりでなく、車椅子の押し方・乗り方、基本的な介護の仕方の実技も交え、来て良かったと思えるよう工夫をして実施している。

時々、アンケートを実施して、希望されるテーマやその他ご意見を聞くようところがけている。

### ■利用者の声、地域の反応

参加された方は、概ね好評で、「また参加したい」という声が多かったが、施設の都合で開始時間を遅くした時や、講師の話が長引いた時には、時間に対する要望も出た。

回数については、年2～3回が出席しやすいとの声が多かった。

介護教室の開催のお知らせも、施設の掲示板だけでなく、自治会の回覧で回してもらおう等、地域の方々の協力を得ている。

### 主な経費や財源の内訳（年間当たり）

主な経費	概算額
案内状送付料	12千円
当日の茶菓代	14千円
合計	26千円

主な財源	概算額
・施設負担額	26千円
合計	26千円

### 活動の成果、地域の影響、今後の課題

一度参加された方が、次回お友達を誘って来られたり、ボランティアをと考えている方が、まず手始めにと参加されたり、少しずつ輪が広がっているようだ。ただ、今までは概ね好評で参加者も40名前後あるものの、今後の課題としては、マンネリ化を防ぐ新しい試みも必要ではないかと考えている。

また、初めて参加する方にも、毎回参加されている方にも満足していただけるテーマを選ぶことも大切なポイントであり、興味あるテーマの必要性を感じている。

今後は、例えば自治会単位の会合に出向いたり、参加者に施設の第三者委員的存在になっていただく等、更に風通しの良い地域に開かれた施設を目指していきたい。



# 事例 地域の親子支援「元気にここに堂」

神拝保育園（愛媛県）

〒793-0041 愛媛県西条市神拝甲 239-3

TEL 0897-55-3052

## 活動の概要

人が通らなくなった商店街で「こんにちは」「ありがとう」の挨拶が元気に行き交う中で、子育て中の親子が気軽にいつでも利用できる「ホッとできる場」また、子どもを通して親同士の話が弾み元気を上げたり、貰ったりする。そんな橋渡しを保育士が持てるノウハウを惜しみなく発揮し、親が、子育ての楽しさ、喜びを感じ、子どもを愛おしく思えるそんな元気で明るい子育てを推奨したいと「元気にここに堂」を旗揚げした。人が人を呼び、色々な特技を持っている親が、講師になり合って活動の輪がどんどん広まっている。

## 法人の概要

昭和30年6月に、予てから地域住民の切実な願望の下、地域の（神拝地区）社会福祉協議会の役員が中心となり、有志の方々の奔走努力により設立される。

昭和41年7月、法人認可を受け現在に至る。

- 経営施設数…1
- 法人全体の年間事業収入…164,000 千円
- 主な経営施設  
保育園…1

## 実施施設の概要

- 施設名…神拝保育園
- 施設種別…保育園（定員210名）

## ■施設の運営方針

「やさしい子ども」「がんばる子ども」を望ましい子ども像とし、「心身ともにたくましく心豊かに思いやりあるこどもに育てる」を目標に掲げ、地域の子育て支援の拠点として活動する。

## 活動の内容

- 活動対象者…子育て中の親子

- 活動の頻度…週2回（月・木）1回あたり5時間
- 年間の利用者…約5,000名
- 活動開始年…2006年

## ■活動開始の背景（取り組みの経緯）

少子化が進む中、折角授かった子どもなのに、子育てが楽しそうに見えない人が目に付き、保育園の中では満面の笑顔の子どもたちで溢れているというのに、「なぜ？」子育ては確かにしんどいものではあるが、楽しい事、嬉しい事も一杯ある。何とか元気な子育てをして、元気で明るい街づくりをしたいとの願いが、保育士の中で湧き上がってきた。

子育ての楽しさ、喜びを地域に広げたい、しかし、園内は一杯。そこで、人通りが少なくなって来ている商店街に出向き、明るい街づくりのために協力をして欲しいと申し出た。商店街の人たちもちょうど元気な街づくりを願っているところだったと言うので、有料ですが場所を提供して頂くことになった。

## ■人材・賃金面等での工夫、苦慮

人材については、どの保育士でも派遣することはできるが、園の自主事業というところで、財源がなく、当初は園長の寄付でスタートした。

1回の場所代 5,000円(月額40,000円)  
保育士の人件費(パート職員を充当)

日額 5,000円(月額80,000円)

毎月最低120,000円は必要である。

材料などは、いろいろな人のご厚意に甘えさせていただいたり、廃材を利用したりしている。

財源を求めて、商工会議所に出かけて商店街活性化などとタイアップした補助金申請の願いをしたり、各団体に支援を求めたりしたが、ハード面の補助なら可能性はあっても、ソフト面の補助は厳しいものであった。

### ■利用者の声、地域の反応

当初は、10組の親子で、週1回を想定していたが、人から人へ、また利用者がブログなどで感想を載せてくれたりするので、瞬く間に広まり、週2回となった。それでも、多い日には100名近くになることもある。週2回にしても、まだまだ広まっていく嬉しい悲鳴を上げている。自由な参加と、ゆっくりお弁当を持って来て、お友達と一緒に食べることも楽しみの一つになっている。

『転勤族で遠方から来たもの、知り合いも無く、マンションの中で、ほぼ1日中母子二人で過し、子育てのしんどさが日々増してきた頃、第2子を身ごもり苦悩していたところ、この「元気にここに堂」にめぐり合い元気を貰った。そして、第2子出産を決心しました。』などの嬉しい声も寄せられている。

『商店街の人たちも、道行く人も、いつも温かく見守っていただき、何度ものぞきにきてくれる。ここがあると元気を貰える。毎回わくわくしながら来ている。ずっと続けて欲しい。』などの声も寄せられている。

### 主な経費や財源の内訳(年間当たり)

主な経費	概算額
場所賃借料	480千円
人件費	960千円
材料費	200千円
雑費	120千円
合計	1,760千円

主な財源	概算額
・法人本部負担額	
・施設負担額	1,760千円
・利用者負担額(利用料)	
・補助金収入 (補助金事業名: )	
・その他の収入	
合計	1,760千円

### 活動の成果、地域の影響、今後の課題

一人で子育てを担い、重い重い子育てをしている親子に照準を当てた事業である。公園にいても、一組離れて遊んでいる親子にそっと寄り添い、ただ話を聞くとこから始めた。

そして、自分から出向いてみようという気持ちを静かに待った。なかなか勇気がいると見え、初めはみんなが帰った後にそっと来る親子が、一組、二組。10分~30分くらい過ごして黙って帰っていく。その繰り返しで現在に至っているが、僅かに滞在時間が長くなってきているように感じている。

こうしてどんどん元気な輪が広がってきている中で、人間関係に不安を感じているような親子に寄り添える場が、少なくなってくることを懸念している。また、この様な子育て支援を長期的に定着させる方策を確立したいと考えている。

# 事例 地域よろず相談窓口

慈愛園（熊本県）

〒 862-0954 熊本県熊本市神水1丁目14-1

TEL 096-383-4515

## 活動の概要

1986年の熊本市デイサービス事業の開始に当り、要援護者の実態把握のため、砂取校区を中心に周辺8校区にわたる利用者の発掘調査を各校区社協長会議（25日）を開催し、実施することから福祉マップ作り（一人暮らし世帯）を開始した。

在宅介護支援事業として、当法人が圏内各施設で、一体となった地域福祉の拠点としての役割を担っており、定期的な地域福祉サービス連絡会を開催して、より深く地域密着のサービスを展開している。サービス連絡会を開催して、より深く地域密着のサービスを展開している。

年一回開催される各種団体長による「砂取会」との連携は子育て支援から児童虐待、高齢者虐待の相談窓口「愛ネット砂取」が立ち上げられ、当法人の施設（子どもホーム、パウラスホーム）が相談受付を対応している。

## 法人の概要

1919年（大正8年）3月、日本福音ルーテル教会総会において、慈愛園設立決議がなされ、現在地に土地を購入し社会福祉事業を開始する。

その目的は、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神に基づき、利用者が、個人の尊厳を保持しつつ、心身ともに健やかに育成され、またはその有する能力に応じ自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう支援することであり、現在、熊本市及び荒尾市に児童関係施設、老人関係施設など計12の施設を運営している。

■ 経営施設数…12

■ 法人全体の年間事業収入…1,650,707千円

■ 主な経営施設

児童養護施設…2

乳児院…1

養護老人ホーム…1

軽費老人ホーム…1

特別養護老人ホーム…1

盲ろうあ児施設…2

知的障害者更生施設…1

保育所…3

## 実施施設の概要

■ 施設名…パウラスホーム

■ 施設種別…特別養護老人ホーム（定員62名）

## ■ 施設の運営方針

1. イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神に則り、サービスの向上に努めること。
2. 利用者によるサービスの選択と自己契約の尊重。
3. サービスの公平な評価。
4. 苦情受付、解決、個人情報などの利用者保護のための仕組みの整備。
5. 在宅介護支援等の諸事業において、利用者の自立及びその家族支援。

■ 活動対象者…校区内自治会長、民生児童委員、福祉ボランティア、各種団体代表等

■ 活動の頻度…年4回 1回あたり2時間程度

■ 年間の利用者…200名

■ 活動開始年…1987年

## ■ 活動開始の背景（取り組みの経緯）

1986年～：在宅サービス事業の開始を前

に、砂取校区含む周辺9校区の校区社協長会議を開催しデイサービス、給食サービス事業の開始に向け多校区にわたる利用者ニーズの把握の必要があった。

特に、独居世帯のマップ作りのため、民生委員、福祉協力員（市社協が養成）等の強力な支援があった。

1990年～：熊本市在宅介護支援センター受託による総合相談窓口の設置後にヘルパー派遣事業が在介センターに位置付けられ、相談援助と同時にヘルパー派遣を実施。

主に上記の地域活動支援は、在宅介護支援センター事業のサービス提供に大きな地域とのネットワークとして、構築されてきた。

#### ■人材・賃金面等での工夫、苦慮

活動当初は、施設で人的にも、多職種にわたる関係職員が携わっていたが、次第に熊本市社協の主体は活動へと移行し、さらに「砂取校区地域福祉サービス連絡会」においては、校区社協長を中心に、自治会民生委員協議会との連携で主導し、施設としては、地域ネットワークと地域ケア推進を側面的にサポート。当初毎月開催であったが、その後3ヶ月に1回の年4回開催が定着している。

- ・会場は、施設の地域交流スペースを開放提供。
- ・その他の費用は校区社協にて負担。
- ・器材等は、施設備品を使用提供。

#### ■利用者の声、地域の反応

特に、独居世帯の情報については、担当民生委員や、福祉ボランティア、自治会等より提供され、必要時、常によろず相談窓口としての機能が活かされている。

虐待相談等、緊急避難的対応が必要なケースもあり、それに対する施設受入など保健センター保健師との連携を図りつつ、地域の

ネットワークの推進に努めており、地域からも、信頼を得られていると思う。

#### 主な経費や財源

自主事業で、介護支援専門員がよろず相談に対応できる連携体制をとり、必要な専門機関等と連携して対応しており、特に予算は組んでいない。

#### 活動の成果、地域の影響、今後の課題

2006年4月の制度改正により、在宅介護支援センター事業が廃止され、地域包括支援センターが創設された。

当施設は、過去20年に及ぶ地域とのネットワークづくりを推進してきており、法人・施設の自主事業として在宅介護支援センターを存続することとなった。

『地域のよろず相談窓口』としての役割を今後も果たしていこうと考えている。今後の課題として、地域のニーズに十分対応していくために、地域包括支援センターと相互協力体制を構築し、補完していくことが極めて重要となっている。

## ■地域貢献実践事例調査 収集事例一覧

No.	都道府県	法人名	活動概要
1	北海道	蘭越 厚生事業団	【介護教室】 介護老人福祉施設として高齢者福祉の向上のため、施設入所サービス及び短期入所サービスを行い、利用者の方々の日常生活の全般に渡り援助を行い、地域社会のニーズに応える。
2	北海道	幸清会	【介護課族への教育支援プログラムの開発】 高齢者の尊厳を支えていくために、実際の施設や在宅介護の場面で使える方法を専門家による講義と参加者の話し合いで考えてゆきます。「認知症」「環境づくり」「介護方法」などをキーワードに様々な内容を用意してゆきます。
3	北海道	幸清会	【噴火避難者に対する入浴事業】 平成12年3月31日、有珠山が23年ぶりに噴火、伊達市内の体育館等に多くの避難者が収容される。その避難者に対し、施設のバスを提供し、施設のお風呂を提供し入浴いただく。
4	北海道	幸清会	【避難緊急時受入れ事業】 平成12年3月31日、有珠山が23年ぶりに噴火、伊達市有珠地区の養護老人ホーム「潮香園」の利用者80人を緊急受け入れ、19日間利用者の居住場所の提供、食事の提供等を行う。
5	北海道	幸清会	【野球をとおしての福祉啓蒙活動】 法人主催の中学野球大会、野球教室の開催及び野球部公式戦の応援ツアーを企画し、多くの地域住民（施設利用者・職員含む）の方々の参加を募り交流を図っている。交流をとおして福祉現場の現状等を知っていただく。
6	岩手県	やまど り会 福祉会	【介護教室】 私たちが地域と福祉活動を協力、協働関係に基づき進めるひとつとして、福祉施設が地域社会での役割、いいかえれば「施設の社会化」があります。平成17年度からその役割を担うべく介護教室を開催する計画を樹立いたしました。
7	岩手県	江刺保育園	【母親育成のための食体験事業（高校生を対象とした調理指導）】 施設の子どもたちに対して様々な食教育を実施しているが、さらにこの活動を深めるために、この取り組みを実施している。 「食」は人が生きるために欠かせない行為である。食事の時間は、家族がお互いに語りあい、食生活の規則は社会の規則を守る基礎となる。また、食事が食べる者、調理するものとの愛情の交換の場であること、規則正しい生活と正しい栄養摂取が健康な生活に欠かせないこと等、人がよりよく成長し生きるための大切な要素が「食」の中に全て含まれている。子どもたちの成長は、その家庭の毎日の食事によって大きく影響されている。その上で、いずれ母親、父親になる高校生に対して子どもたちのためのおやつ作りを通して「食」することの喜びと、家族のあるべき姿、そして「食」の本質を伝えるための活動である。
8	岩手県	岩手更正会	【社会奉仕】 就労の達成、社会生活の実現を目標に社会奉仕活動の着手は早く長い。主な奉仕活動は、積雪期の老人宅の除雪、地域の1,2月の厳寒期の夜回り、地域の道路沿いのごみ拾い、年の瀬の独居老人宅の家屋の修理、献血、点字歩道盤の敷設など。この活動で建設大臣、厚生大臣の感謝状を受けている。 特に平成9年度に現在地に移転してから地域社会のつながりを強め、老人の日には紙芝居を制作して上演、園の手づくりの豆腐をごちそうしたり、園の主な行事に参加してもらっている。
9	岩手県	睦会	【スノーバスターズ事業】 市内の独居老人宅の雪かき（スノーバスターズ）実施。社会福祉協議会が窓口であり、当施設利用者がチームをつくり、生活環境確保のために雪かきをしている。

10	岩手県	小原慶福会	<p><b>【放課後児童健全育成事業】</b>  学校下校後から親が迎えに来るまでの間、地域の利用希望の児童を対象に「学童保育」と、学校の休日等に日中から親が迎えに来るまでの間預る「デイ・ステイ」とがあり、今までに学区の城南小学校と隣の山岸小学校の児童の利用がある。</p>
11	秋田県	井川町福祉会	<p><b>【職員のボランティア活動】</b>  井川町民の憩える場、学術的な桜の品種の多い公園として名高い日本国花苑は、約 50ha の広大な面積を要し、その管理に多大の経費が財政的な負担となっている。そのため職員として自主的な奉仕の除草活動を毎年実施してきた。仕事終了後約 50 人の職員が一斉に日時を定め取り組んでいる。又、生活環境美化委員会をつくり園外の花壇設置、野菜畑の取り組みを行なっている。</p>
12	秋田県	大館感恩講	<p><b>【家庭・母子相談事業】</b>  相談内容は、一般市民からの入所に関すること・夫婦親子等家族間調整に関すること・施設で行っているトワイライトステイや一時保育事業に関すること・施設退所者からの各種相談が主である。  相談に対しては百合ホーム職員が対応するが、施設内完結ではなく、必要に応じて社会資源に結びつけることをしている。</p>
13	秋田県	花輪ふくし会	<p><b>【小坂町「軽度生活援助事業」】</b>  小坂町の「軽度生活援助事業」の除雪部門において、小坂町と事業所委託契約を結び、該当世帯の除雪・排雪活動を行っている。料金は 1 時間 2,000 円、2 時間 4,000 円、3 時間 5,000 円で、10%を対象者が、90%を小坂町が負担している。</p>
14	秋田県	雄仁会	<p><b>【あったかハート（地域高齢者福祉給食サービス）】</b>  仁井田地区内に在住、65歳以上でひとり暮らし、または寝たきりの高齢者や障害をもつ方を対象に、地区民生児童委員、地区社会福祉協議会と連携し、冬期間（11月～3月）に配食を行う。当施設では調理、配膳等を担当し、地域活動の一貫として職員、児童らも同行し交流している。</p>
15	秋田県	グリーンズ ローズ	<p><b>【保育に欠ける幼児の保育、聴こえやことばの障害の療育】</b>  「聴こえ」と「発達」に配慮の必要な子どもを支援する分野の人たちが、子どもの理解と支援について学習や討論をする場を作るために企画した。  2002年から、毎年「聴こえ」と「発達」に分けて毎年2回、実施してきた。  「聴こえ」と「発達」に配慮の必要な子どもに関わる教師、保育士、リハビリテーション専門職そして医師が参加し、討論することで理解が深まったと思う。</p>
16	栃木県	下野会	<p><b>【公園清掃活動】</b>  児の入所施設として、作業指導を通じて、作業を行うことで働くことを自覚認識し、地域との交流を深め、ごく自然に社会のルールを覚える。体力、集中力の増加を図り、健康を維持しながら社会復帰を目指す。</p>
17	群馬県	春風会	<p><b>【施設見学～デイサービス1日体験～】</b>  民生委員、在宅介護支援センター（当時）、居宅介護支援事業所、デイサービスが連携し、地域住民、在宅高齢者の方々を対象とした施設見学、デイサービス1日体験、福祉サービス説明会を開催する。  時間を短縮したデイサービス1日体験を行う中に施設見学を取り入れ、在宅介護支援センター（当時）と居宅介護支援事業所が福祉サービスの説明と質疑応答を行う。</p>
18	群馬県	三晃福祉会	<p><b>【食育教室】</b>  「子どもの食を見直してみませんか」ということで食に関しての相談を受けつける。  子育て中の人に呼びかけ、食育教室の中で、食の大切さを訴え、楽しく、親子でコミュニケーションをはかりながら料理する。又、食に関しての講話をし、健康な食生活ができるよう指導する。</p>

19	群馬県	三晃福祉会	【子育て講演会】 時間 40 分～60 分、保育園、幼稚園、公民館での親の集まりに出向き、子育てについての話しをする。子育て相談がある時は、講演会終了後に受け付ける。
20	群馬県	桔梗会	【災害時等の一時避難サービス事業】 県などからの要請があり次第、災害予想時に在宅高齢者等を施設で避難受け入れを行う。
21	群馬県	かなな会	【6月の藤華祭1月の地域支援センター（毎年）】 藤華祭：「かなの里」1年1年の節目に地域の人に障害を理解してもらうことと感謝の意味をこめて誰でも共に楽しめる1日をと、毎年開催し、ことしの6月で第7回を迎えた。3回目よりみかぼみらい館大ホールを借りている。 地域支援セミナー：これも障害への理解を深めることと関係職員の専門性を高めてもらうためのセミナー。みかぼみらい館小ホールを借りたり、市民ホーム、公民館を借りている。
22	群馬県	親孝行の里	【介護者教室】 地域の住民を対象とし、介護保険制度の説明及びサービス等の説明、又、希望に対しては施設見学の実施。
23	埼玉県	みずほ愛育会	【子育て情報誌作成とネットワークづくり事業】 ・子育て中の母親たちにとって夏に必要な情報誌を作るため母親たち自らが作成に参加する ・地域で横の連携を持って子育て支援をするために子育て中の母親たちを核とした地域住民機関のネットワークをつくる
24	埼玉県	美咲会	【きらく会（ミニデイサービス）】 毎週第3日曜日に地域にお住まいで、要介護認定を受けていない65歳以上の方を対象としたミニデイサービスを行っている。内容は「健康ばなし」「レクリエーション」「食事」の3本立てで実施。また必要に応じて送迎を行っている。
25	埼玉県	共愛会	【実習生の積極的な受け入れ】 福祉系大学、短期大学及び専門学校の実習と介護体験の受け入れを行っている。平成17年度の受け入れ実績は学生71名、延べ804日であった。実習中の通園が困難な学生のために実習生用の宿泊施設を完備している。 又、市内小中学校の生活・総合学習の授業における職場（事業所）見学の受け入れも行っている。
26	東京都	わかば福祉会	①身体測定とこれを入口とした育児相談と指導 ②小学校でLD児とならず勉強ができるため
27	東京都	深川愛隣学園	地域に住む外国人に日本語を教える
28	東京都	北野会	①毎月の誕生会にボランティアを招いた ②年2回のホーム喫茶にボランティアを導入した
29	東京都	東京 ヘレン・ケラー 協会	点字図書館における点訳・盲訳図書制作ボランティアの育成を図る
30	東京都	黒潮社	地域の独居老人宅（おおむね75才以上）に園で調理した弁当をもって子どもたちと交流する。
31	東京都	東京玉葉会	特別養護老人ホーム青陽園の施設機能を、8の日無料健康相談を通して地域住民の方に提供し、地域住民の方の健康増進に貢献することを目的とする。
32	東京都	教信精舎	小学生が乳幼児と触れ合い、そして、保育の補助をする中から「人のためにする」という感覚を実感できる体験を目的とした活動です。
33	東京都	平心会	高齢に伴う体力低下の防止 地域のネットワーク化の充実化
34	東京都	日向和田 保育園	日向和田保育園の地域活動事業の一つとして、小学校低学年児童（特に当園卒園児）が受け入れ、在園児と一緒に遊びを通して交流し、お互いのやさしい思いやりの心を育むこと、また、小学生の保育体験学習の場を提供する（年間を通して実施しているが、夏休み等は特別メニューで実施している。）

35	東京都	嬉 泉	週 2 回の園庭開放し、地域の親子（0 才～3 才）が集まり、遊ぶ。日常的に子育ての相談を受け、月 2 回親の懇談会を設けている。（子育てについて、栄養士の話など）「子育て支援」を目的とする。
36	東京都	フロンティア 豊 島	食事作りの困難な独居高齢者、高齢者夫婦に対し、昼食を提供することにより高齢者の食生活の向上を図ると共に、訪問時に安否確認を行い、高齢者の自立と生活の質の確保を図る。
37	東京都	フロンティア 豊 島	近隣住民の方への施設開放により、養浩荘への理解を深めて頂く。また、交流により入居者自身の充実した生活へつなげる。
38	東京都	フロンティア 豊 島	デイサービスの利用者及び地域高齢者等に対して、栄養バランスのとれた規則正しい食生活の提供をする。又、訪問時に安否確認を行い、健康状態に異常を認めた際は、医療等関係機関への連絡等を通じて高齢者の在宅での自立と日常生活の質の確保を図る。
39	東京都	徳 心 会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域住民に福祉・介護について考える場を提供する</li> <li>・各事業所が連携して、地域にサービスを提供できる体制を整理</li> <li>・職員の専門性を高める</li> </ul>
40	東京都	高原福社会	核家族化の中で若い夫婦の子育て支援 夜間の緊急一時預かり、ショートステイ、トワイライト
41	東京都	日 心 身 障 害 協 会 本 児 会	本センターは、国の定めた発達障害者支援センターの運営事業実施要綱に基づいて、発達障害に関する支援を総合的に行う地域の拠点を目指し、発達障害に関する諸般の問題について発達障害児（者）およびその家族からの相談に応じ、適切な指導または助言または問題の改善に有用な各種事業を行うとともに、関係施設との連携強化や、自治体の発達障害に関わる事業を請け負って、発達障害児（者）に対する地域における総合的な支援体制の整備を推進し、もって、これらの発達障害児（者）およびその家族の福祉向上を図ることを目的とする。
42	東京都	三 鷹 市 社 会 福 祉 事 業 団	在宅の高齢者等が安心して住み慣れた地域で暮らすことに寄与するため。
43	東京都	太陽福祉協会	一人でも多くの方がこの施設をおとずれ、障害をもっている人たちが、こういうふうに住んで生活をし、日々、がんばって生きていることを知ってもらいたい。
44	東京都	福 栄 会	地域に暮らす健康的な高齢者が支援を必要とする老人ホーム利用者に暮らしのお手伝いを行い、高齢者同士の支援関係を築くため。
45	東京都	日 本 本 盲 人 会 連 合	小・中学生の社会見学として施設内の見学を受け入れている。
46	東京都	中 野 区 福 祉 サ ー ビ ス 事 業 団	在宅の介護が必要な高齢者を抱える家族を対象とする。介護技術の向上並びに介護者同士の交流・情報交換を目的として家族介護教室を実施することにより、介護負担の軽減と虐待の防止を図る。
47	東京都	けやき福社会	保育に関する情報の提供
48	東京都	けやき福社会	在園児以外の家庭の子育て支援
49	東京都	けやき福社会	総合的な子育て支援
50	東京都	か や の 実 社	わらべうた遊びを通して親子の触れ合いや子どもとの遊び方を伝え、子育てについて様々な情報を提供しながら子育ての悩みなどを保育士、看護師、栄養士が応じる。また孤立しがちな親同士の交流を深め、親子の仲間作りの場として支援していく。
51	東京都	三 徳 会	介護予防を視野に入れて在宅の高齢者や介護者を対象とした食事の重要性を啓蒙し、生活習慣病予防、手軽な料理方法などを行い、また栄養相談も随時行う事を目的とする。
52	東京都	多摩大和園	地域における社会福祉法人の役割を地域と共に考え、地域に還元する。
53	東京都	武 蔵 野	市内の障害のある方が交流し、楽しむ機会とするとともに、ボランティアや一般市民の参加を得て、市民の障害に関する理解を深め、共生の街づくりを目指す。
54	東京都	武 蔵 野	地域の団体の事業にかかわることで、地域の事業の内容に障害者福祉の視点を入れ、団体の運営の質を向上させたり、人のネットワークを作り、障害者・児への理解を深める。

55	神奈川県	中心会	<p><b>【親子サロン】</b>  月2回、親子ふれあい遊び、リズム遊び等を中心に、親子がふれあいながら過ごす事ができるようにプログラムを組んでいる。季節にちなんだ手遊び、歌、お話、親子体操、リズム遊びを取り入れている。当日、来られたお子さんによりプログラムの変更も考慮しながら行っている。未就学児が対象となるため、発達段階の違いが大きくそれぞれのお子さんが輪の中に入れるように配慮している。また、保護者の方がお子さんを理解すること、適切な関わりができるための助言も行っている。</p>
56	神奈川県	中心会	<p><b>【介護用品リサイクル】</b>  不要となった介護用品を、必要とする者に仲介する。施設は、品物の講評、輸送を担当する。引取りなどは基本的に行わず、在庫を持つことはしない。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出品を受ける</li> <li>・ 出品者宅へ、品物の確認、写真撮影などを行いに行く</li> <li>・ 広報誌、ホームページに掲載</li> <li>・ 注文が出た場合、出品者宅へ品物を受け取りに行き、注文者宅まで運搬する</li> <li>・ 出品にない注文についても、広報誌、ホームページに掲載、出品者を募る</li> </ul>
57	神奈川県	中心会	<p><b>【ボランティアスクール】</b>  海老名市在住の中学生を対象に、夏休みの福祉施設での体験を通して、社会福祉への関心・理解を深める。共に生きることの大切さや自分自身の生き方を考えるきっかけを作る。  中学生という年齢を考慮し、体験はレクリエーションの援助や会話、食事の配膳膳を中心とし、排泄・入浴介助等の身体介助については説明のみとする。</p>
58	神奈川県	中心会	<p><b>【サマースクール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 海老名市在住で、将来の目的を持ち、精神的にも成長している高校生、専門学生、大学生を対象に、福祉施設の体験自習を通じて社会の現状と福祉のあり方を考える場を設ける。</li> <li>・ 職員がどのような動きをしているのかを、担当職員の利用者への対応の仕方を観察したり、朝のミーティングに参加し、そこで報告される内容から把握する。また、利用者への介助等は、会話対応や入浴の誘導の見守りなど直接的な身体介助は行わず説明のみとする。</li> </ul>
59	神奈川県	中心会	<p><b>【サマースクール】</b>  海老名市在住の中学生を3日間、施設に受け入れ、高齢者に接する機会を設ける。デイサービスにて、体操や歌などのレクリエーションに参加したり、特別養護老人ホームの配膳、おやつ介助、入浴整容介助、入所者との対話などを通じて、見学程度の「職場体験」よりも掘り下げた実際に仕事をすることを意識する場を提供する。</p>
60	山梨県	信和会	<p><b>【地域奉仕活動】</b>  現在①JR中央線、穴山駅（無人）の清掃（週1回）  ②地域の公民館の清掃（週1回）  ③神社の清掃（月1回）  ④道路の空き缶ひろい（月1回）  ⑤郵便局前の街路樹の剪定（月1回）  ⑥果樹の収穫の手伝い（夏3週間、秋1週間）  ⑦災害時における避難所としての提供等を行っており、幅広く活動を展開しております。</p>
61	山梨県	和告福社会	<p><b>【地域の街づくり・共に生きる】</b>  農地の開拓から出来た施設、道路が出来、町が出来、地域共に生きて来た施設、地域の町づくりに、共に生きるをスローガンに、ミナが楽しい生活が出来るように、地域のふれあいをベースに行っています。体力づくり、年4回、介護保険を知っていただく為に、民生委員を始め、施設見学・勉強会を行っている。月1回のふれあい会を通し、地域の街づくり、又、地域のどんな高齢者がいるのか、施設の利用者</p>

			も地域住民に知っていただき、緊急時の対応になり、将来、災害時の拠点施設として進めて行けるよう、地域と連携をとり計画できるよう進めて行く。
62	山梨県	山の都福祉会	<p>【当施設に隣接する河川公園の美化推進】</p> <p>当施設に隣接する1級河川鬢櫛（びんぐし）川の河川敷に、山梨県、甲州市のご理解をいただき、施設の利用者が散歩や、芝生でのレクリエーションができるよう整備・協力をさせていただきました。</p> <p>私たちの施設としても折角のご好意に応えるべく、定期的な公園の管理清掃（芝生の雑草の除去作業、公園内に設けられた花壇への花植え、水やり、除草等）を継続的に行うことに致しました。</p> <p>また、この公園は主要道路・中央道勝沼ICから大菩薩峠に向かう幹線道路沿いでもあるため、多くのドライバーの目にふれるため、地域の美化活動の一翼を担っているかと思われま。</p>
63	山梨県	興邦会	<p>【身延町社会福祉協議会下部いきがいデイサービスサービス交流会】</p> <p>毎年8月に身延町社会福祉協議会下部支所で行われているいきがいデイサービスセンターの利用者の皆さんと1週間を通し、午後13時30分ごろ～15時ごろまでレクリエーションや歌唱等を行いながらもべ荘で楽しく過ごしていただいています。いまだに老人ホームに行くのはいやだと思っている方が多いなか、まずは、介護保険外で行われているいきがいデイサービスの利用者を対象に、少しでも嫌なイメージを無くすような目的で行っています。</p>
64	山梨県	ゆうき会	<p>【地域独居老人の生甲斐支援活動】</p> <p>独居老人の日中の活動の場として提供し、ボランティア支援員として受入れを行っている。現在は、民生委員から依頼され、一人暮らしのため、会話もなく規則正しい生活ができなくなり、うつ症状が出ている方を受け入れ、利用者と一緒に作業をしたり食事を取ることで生活リズムが整い、表情も明るく利用者との会話もできるようになってきている。</p>
65	山梨県	ひかりの家	<p>【療育相談】</p> <p>乳幼児期の成長発達について悩んでいる方を対象に、個別相談会を行う。講師は松井紀和先生（精神科医、元山梨大学教授）</p>
66	長野県	塩嶺福祉協会	<p>【地域巡回バス ハッピー広場 機能訓練教室】</p> <p>1. 生活相談 2. 健康相談 3. 教養講座 4. 入浴サービス 5. 老人クラブ各種団体の送迎サービス 6. 地域巡回バス 7. 機能訓練教室</p>
67	長野県	つるみね福祉会	<p>【市内子どもボランティアグループ（福祉教室）との交流研修】</p> <p>「岡谷市子ども福祉教室」でボランティア活動をしている児童約30名とスタッフ10名を年1回受け入れ、児童養護施設に対する理解、知識を深めるとともに幼児との交流を行っている。</p>
68	新潟県	新潟みずほ福祉会	<p>【”しょうがい”のある方もない方も地域の茶の間さろん「わあ〜らく」】</p> <p>新潟みずほ福祉会の地域生活支援事業は、02年10月どこからの補助も得ない法人独自の公益事業として、障害者生活相談室「わあ〜らく」の開設で始まった。その後1年間の独自事業の実績のもと、西蒲10ヶ町村から国庫補助事業である「地域生活推進特別モデル事業」を受託。西蒲原郡障害者生活支援センターとして、04年10月から05年3月末まで1年半、西蒲地域の福祉の向上に向けて活動。</p> <p>委託事業の終了後は、再び法人全額持ち出しの公益事業として相談支援事業を継続し、その一環として地域の茶の間さろん「わあ〜らく」も開設した。</p>
69	新潟県	上越老人福祉協会	<p>【認知症に関わる啓発及び相談事業（認知症相談センターの開設運営）】</p> <p>(1) 認知症に関わる考え方や具体的な対応方法などについて、直接面談、電話による相談支援活動</p> <p>(2) 認知症に関わる書籍・資料（100冊以上）及びビデオ等の閲覧、貸出等の参考資料の提供活動</p> <p>(3) 一般住民、施設職員、病院職員等を対象に、認知症に関わる研修会等を通じての啓発活動</p> <p>(4) 認知症に関わる関係機関との連携活動</p>

70	新潟県	長岡 老人福祉会	<p>【与坂高齢者共同住宅及びたまり場「忘時庵」】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者共同住宅 昨年9月開所以来、入居の照会が数件発生するも運営管理体制の条件を満たす入居者が現れず、現時点では入居まで至っておりません。</li> <li>・たまり場「忘時庵」 開所以来、施設独自の企画催事（医療と福祉の話し・介護教室など）に加えて行政のバックアップを得て、ボランティア活動団体「かたこん」による行事の共同開催により、地域住民の周知と交流が図られ、日毎に訪問利用者が増加、特に近隣の高齢者の数名が常連となっています。最近では、夏休みに入って小学校の高学年生の往訪も目立ちます。</li> </ul>
71	静岡県	富岳会	<p>【ボランティア活動】</p> <p>季節に応じた行事实施の折に地元中学生、高校生を対象にボランティアを募り、施設、施設で生活する人、社会の動向を知っていただくことで、自分に出来ること、必要とされていること、役に立つことなどを自覚していただく。行事概要説明、清掃、準備、実施、片付けを行い、感想を伺う。ねぎらいの言葉かけと次回につなげる。</p>
72	静岡県	白翁会	<p>【社会福祉関係人材の養成支援その他】</p> <p>①社会福祉人材の養成支援 大学、専門学校等の要請により、法人全体として年間約90人、延べ680人程度の実習生を受け入れている。</p> <p>②被虐待児童の受け入れ 盲学校の要請により、被虐待盲学校在籍児童を夏期、冬期の休み期間受け入れている。</p>
73	静岡県	あしたか 太陽の丘	<p>【DV被害者の一時保護事業】</p> <p>静岡県から、DVによる被害を受けている女子の保護委託を受け、一部の施設の空き居室を提供して、一時保護を行う。 一時保護事業の内容として、保護期間中における生活の場の提供、日常生活の支援、食事の提供、当該一時保護期間終了後の移行先についての助言等を行う。</p>
74	静岡県	たんぽぽ会	<p>【聴覚障害児との交流保育】</p> <p>ろう学校幼稚部の生徒を保育所で受け入れ。又は、ろう学校へ行って交流保育を行う。聴覚障害児が同年齢の健常児とふれあい、年齢発達にあったあそびを体験する。</p>
75	静岡県	春風会	<p>【夏期 中学生福祉体験学習】</p> <p>①中学生（参加者）が、当施設体験学習の経験の有無に関わらずオリエンテーションで、体験学習に関わる範囲内での介護に関する基礎的な知識と若干の技術的なことを指導する。</p> <p>②利用者とのふれあい学習・・・塗り絵、壁飾り、団扇作り等の利用者共同作業での作成と紙芝居、ゲーム、散歩等の活動</p> <p>③環境整備・・・廊下、居室等の清掃活動</p> <p>④介護として・・・食事・移動等の補助</p> <p>⑤参加者の反省会・・・1日（2日間）のことを感想文に記す</p>
76	静岡県	健生会	<p>【地域ボランティア団体「パンジーの会」への施設開放】</p> <p>地域のボランティア活動団体「パンジーの会」への施設開放。 パンジーの会は、中島学区在住で70歳以上の独居高齢者を集めレクリエーション等と昼食会を実施している。（1年間で5～6回）</p>
77	静岡県	美和南福祉会	<p>【美和ふれあい祭り】</p> <p>村といわれた時代の伝統を絶やさないようにする。 村の古老と一緒にさつまじゃが芋、とうもろこしの植え付け、収穫と一緒に、生活を実体験させるようにして、伝統の楽しみ、かつ行事を知る。</p>

78	静岡県	岳南厚生会	<p><b>【福祉総合相談窓口設置運営】</b>  相談支援を必要な者の初期総合相談を行うための窓口を開設し、相談支援を必要とする者からの相談に対応する。相談案件は、相談受理事簿（ケース基本台帳）に記録し、整理、集約したうえで、地域包括支援センターに報告するほか、継続した関与が必要な案件については、案件ごとにケース基本台帳を整理し、記録すること。  相談区分は電話相談、外来相談、訪問相談である。電話相談は 24 時間対応する。外来相談は受託する事務所の開設時間の対応とする。訪問相談は電話相談、外来相談を必要なものまたは地域包括支援センターから依頼を受けた者に対して居宅等に訪問し実施する。</p>
79	静岡県	岳南厚生会	<p><b>【地域福祉活動啓蒙事務】</b>  担当地区における民生委員連絡会、地区老人会、地区社会福祉協議会その他地域住民の会合（住民座談会）における出張窓口の開設、講座座談会などにより福祉活動についての啓蒙を行うこと。  参加した地域住民の会合、啓蒙活動の内容等について文書により、地域包括支援センターに報告するほか、在宅介護支援センター連絡会議において報告すること。</p>
80	静岡県	みだらけ会 福祉会	<p><b>【EM（有機微生物群）によるプール清掃活動】</b>  法人として取組んでいる環境問題について、地域社会の中で発信しています。  活動内容は、地域のプールや中学校のプール清掃において EM の力によりプールのヘドロや悪臭の発生を防ぎ、汚れもこびりにくくして、清掃が楽になります。また薬品でないためプールから流れた水は、川や海の汚染がありません。プール終了後とプール開きの 1 ヶ月前に EM 発酵液をプールに投入することで地域の皆さん、児童、生徒さんに参加していただき、環境について考えていただければと願っています。また、EM に関連して、施設のさわやか農園において生ゴミリサイクルとして EM と米ぬかによる「ぼかし」で肥料を作り使用しております。</p>
81	静岡県	野菊寮	<p><b>【①近隣のゴミ拾い ②ひきこもり者の施設体験】</b>  ①不法投棄されている野菊寮周辺の道路脇のゴミの回収とゴミ分別業者への引渡しを野菊寮利用者 10 名前後と職員 3 名程度で毎月 1 度行う。  ②以前から青年の家にくる少年たちの施設体験を受け入れていた。今回初めてひきこもりや登校拒否をして現在に至っている在宅の人を青年の家のスタッフが公募して、野菊寮に施設体験の企画を願いました。職員の 1 月前、うつ病のボランティアを受け入れて決まってしまうかなかったので今回引き気味だった。青年の家のスタッフにまず担当棟と話し合い、受入れを作業から入ってみようということになった。食事から利用者交流に入っていこうとした。青年の家のスタッフが協力してくれた。</p>
82	静岡県	圓通福祉会	<p><b>【中学生の職業体験学習受け入れ】</b>  人の成長は乳幼児期にとどまらない。保育園を卒園した子どもが小学校、中学校と成長していく中で保育園がその成長をサポートができることがあれば出来るだけ協力していきたいと思います。豊岡地区では 3 校の小学校と 1 校の中学校がある。各学校においては授業中であるいは課外活動の中で園児との交流を希望することがあり、園ではその機会を受け入れている。</p>
83	静岡県	花園福祉会	<p><b>【「わくわく」広場】</b>  近くに遊び場がない、遊ぶ友達がいない、もっと大勢の子と一緒に遊ばせたいなど思っているご家庭のみなさんに気軽にご利用していただくよう「わくわく広場」を実施。  毎週火曜日 10 時～お昼まで「園庭開放」「育児相談」夏季はプール遊び水遊び  毎月第 1 火曜日「親子食事体験」  年 4 回「子育て通信」の配布</p>

84	静岡県	育清会	<p>【1 柿田川ホームボランティア体験活動、2 低所得者負担軽減制度】</p> <p>1 柿田川ホームボランティア体験活動 町の児童・生徒の健全育成を図るためにボランティア活動を体験する場を提供し、福祉、高齢者の理解を促すとともに、人材育成の一助に資する。具体的には社会教育課と連携し週2回土曜日の午前・午後、当施設でボランティア体験を行う。参加者5名程度</p> <p>2 低所得者負担軽減制度 低所得者の介護保険の利用促進を図るために町と折衷で介護保険自己負担分を施設負担とする。</p>
85	静岡県	未来	<p>【季節の遊び】</p> <p>さくらぎこども館は福祉施設併設型民間児童センターのため、児童館で午前中子育て支援センター的活動をやり、午後学童保育活動と一般的児童館活動を登録会員制で進めています。県内外の観察者がその点を考慮し、公立では月500円の登録料で、条例をつくり、切符をつくって予算決算をやらなければならないが、法人ならその必要もなく、実行することができ、農家の家屋敷を購入し、山あり、畑ありが魅力的だ。</p>
86	静岡県	四恩会	<p>【障害児との交流保育】</p> <p>障害児施設より学園児親子を受け入れて交流保育を行う</p>
87	静岡県	聖母福祉会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭開放や親子体操、制作や絵本、紙芝居の読み聞かせ、その他歌あそびやゲームなど幅広く親子ともに楽しく交流できる活動を提供している。</li> <li>・子育て相談や発達相談も行っている。</li> </ul>
88	静岡県	東益津福祉会	<p>【いきいきサークル】</p> <p>自由参加で隔月の午前中1回 施設内地域交流教室にて居場所の提供。企画はスタッフがし、自主的に準備や片づけを手伝っていただく。希望者には血圧測定をサービス、参加には実費のみ負担していただく。 内容例（ウォーキング、運動、バスで遺跡へ、マスコット作り、初釜、お楽しみ会など）</p>
89	静岡県	楽寿会	<p>【認知症相談事業】</p> <p>認知症専門医及び臨床心理士による認知症高齢者と家族のための介護相談事業で、認知症の有無と程度の判定や、症状の説明、対応方法についての助言・指導、又、必要な介護保険サービス利用についてのアドバイス等を実施している。</p>
90	静岡県	葵会	<p>【健全育成の為の地域環境を整える事業】</p> <p>健全育成の為には、地域の様々な世代の方々が生き生きと生活することと各世代への関心を持つことが基盤となると考え、各世代をつなぐ活動を行っています。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・健康体操・・・20歳代から90歳代まで</li> <li>・ワクワク教室・・・地域の方を講師とし小学生に体験型で知識を伝えるアートバルーン、木工作、お茶揉み、将棋、理科実験</li> <li>・中高生の研修会・・・ボランティア研修、心肺蘇生とAED、薬物講座</li> <li>・趣味の会・・・絵手紙、蕎麦打ち</li> </ul>
91	静岡県	ほなみ会	<p>【絵画をとおした地域世代間交流活動】</p> <p>世代間交流をめざす絵画活動（および国際交流） 今日の社会では、高齢者や成人や児童がそれぞれ分断されたかたちで生活が営まれている。そこで、いま世界の各地で、世代間の交流を推し進める新しい活動が試みられている。当施設では絵画教室に地元のボランティアが参加しているが、その人びとを単なるボランティアとして位置づけるのではなく、地域における世代間交流をめざす一員として位置づけ、実験的活動を行っている。また、利用者たちの絵画はイギリスの高齢者・障害者・児童の絵画と交換しあっている。</p>

92	静岡県	ほなみ会	<p><b>【絵画をとおした地域世代間交流活動】</b>          私たちは施設を地元開放し、高齢者たちの居場所づくり、および交流の場として活用してもらっている。          この地域は伝統的な農村として住民相互の結びつきが強い地域である。かつて高齢者たちはお互いの家を訪問し、家のなかで雑談しあっていた。しかし最近では、同居している若い世代に気兼ねして、相互に訪問しあうことを遠慮するようになり、道端に座って話し込む姿が見られるようになった。          そこで、地元の高齢者たちに自由に施設へ来てもらい、お茶や食事を提供することにより、ゆっくり気兼ねなく交流しあえる場を提供することにした。</p>
93	静岡県	玉柏会	<p><b>【福祉ジュニアスクール】</b>          静岡市社会福祉協議会（合併前は清水市社会福祉協議会）          清水地区地域福祉推進センターとの共催で、市内に住む小学生（5、6年生）を対象に、夏季に2日間の内容で、2回に分けて実施。参加者と利用者（入所者）との協働活動を通して、障害や福祉についてより深く理解してもらおうとともに、自分と他者との関わりについて考えていく、きっかけとなってもらおうこと。小さいころから障害者と実際に触れ合うことで、地域において障害者に対する理解者を増やし、子供達がやがて大人になった時にもその心を忘れないようにする。</p>
94	岐阜県	正和会	<p><b>【地域交流「ふれあい祭り」】</b>          毎年9月に、苑の行事として地域の皆さんと利用者がふれあいを通して理解を深める事を目的として実施している。今年利用者の発表としてハンドベルの演奏、地域の皆さんは「ヨサコイ踊り」を披露し祭りを盛り上げた。地域のボランティアの方も30名ほど来て頂きました。</p>
95	岐阜県	正和会	<p><b>【カーブミラー清掃作業】</b>          当苑のある潮南地区は山間部に位置し道路事情が非常に悪く、そのため住民一人ひとりが道路に対する愛着が強く自分たちの道は自分たちで守るものとの認識のもと道路愛護に努めている。当苑も交通安全協会や地元の皆さんと連携し「カーブミラーの清掃」や「道路のゴミ拾い」等に活動している。</p>
96	岐阜県	武芸会	<p><b>【いきいき教室】</b>          町内の2箇所の公民館にて、それぞれの地域住民を対象に月1回の頻度で開催している。内容は、主に体操、ゲームが中心となっているが、認知症や高齢者特有の疾患等の講義も取り入れている。内容は、地域住民の代表者との話し合いで決定しており、花見や温泉ドライブ等にも外出している。</p>
97	岐阜県	白寿会	<p><b>【地域交流の創作と介護ノウハウの提供】</b>          地域の中から、施設で特技を活かした活動をしていただける方を登録する。施設独自の登録ボランティア制度を設け、認知症のかたも含め高齢者とのコミュニケーションの方法を理解してもらおうとともに、毎年行う研修会で車椅子の取扱いを始め、嚥下困難者の食事や介助方法等を学んでいただき、地域における高齢者介護に役立てたり、高齢者介護の助言者となっていただく。</p>
98	愛知県	サン・ビジョン	<p><b>【ボランティアコーディネーター】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公的機関、教育機関、地域社会へのネット活用、及び、紙面、口コミでのボランティア広報活動の実施</li> <li>・ボランティアの確保、安定に伴うための講座、企画の実施</li> <li>・ボランティアの向上、自己開発のための講座、企画の実施</li> <li>・ボランティア受け入れ側の研修・勉強会、アンケートの実施</li> <li>・ボランティア同士の情報交換の場、交流会の開催、実施</li> <li>・ボランティアと受け入れ側の情報交換の場、懇親会の開催、実施</li> <li>・各事業所からのボランティア依頼に関する、日時、人数調整の実施</li> <li>・ボランティア活動者の個人情報保持に関するデータ管理の実施</li> <li>・法人職員ボランティアの地域活動に関する情報提供、及び、活動に伴う日時、人数調整の実施、データ管理</li> </ul>

			<ul style="list-style-type: none"> <li>・公的機関との連携、情報交換に関する各種会議への定期的参加の実施</li> <li>・ボランティア新聞の定期的発行、及び、これに伴う会議開催の実施</li> <li>・ボランティアへの定期的な各種活動依頼、情報提供に關したネット活用、及び、郵送配布作業の実施</li> <li>・活動者への定期的な季節を通じた挨拶状作成、及びアンケートの実施</li> <li>・全国ボランティア大会への定期的参加の実施 等</li> </ul>
99	愛知県	ふたば福祉会	<p>【地域住民のニーズに応える為の講演活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H17年4月社会福祉法人として地域住民のニーズに応え、積極的に社会貢献することを目的に、当施設内に社会貢献チーム(SSチーム)を結成。</li> <li>・地域福祉への貢献を当施設の使命として受けとめ、小学校区ごとに設置された地区社協や公民館などからの要望に応え、各種講演活動を実施。</li> <li>・講演の内容は以下の通り 「生きがいをつくる健やかな老後」「認知症の予防と介護」「介護サービスの種類と利用」「地域で支える地域で創る福祉」 など</li> </ul>
100	愛知県	慈雲福祉会	<p>【傾聴ボランティア養成講座】</p> <p>地域にボランティア募集を呼びかけ続けたが、応じて頂けない。ボランティアの目的を傾聴とすることで参加者も増えるのではないかと考え、法人独自で養成講座を立ち上げた。</p> <p>平成16年は年5回、平成17年は中学生を対象とした講座を加え年6回、平成18年は中学生を対象を2校としたため年7回開催。</p>
101	愛知県	豊橋市 福祉事業会	<p>【②豊橋ゆたか学園は、療育相談事業】</p> <p>地域の在宅障害児等の保護者を対象に、子どもの療育、就学、進路、社会資源の活用等についての様々な悩みや問題に対して具体的なアドバイスや関係機関の紹介、情報提供等を行う相談事業を実施している。</p>
102	愛知県	サンライフ	<p>【介護講座】</p> <p>介護保険サービスを提供する法人として、より地域へ貢献する一つの手段として、介護講座を実施。目的としては、①介護をしている方、介護に興味のある方へ知識、技術の提供②家族間の交流の場③介護者のストレス発散の場④施設の理解⑤職員の知識の向上。</p> <p>毎月のテーマは広範囲にわたり選定したもので年間を通じて参加者には日常生活での様々な介護方法や基礎知識、心理面の理解や社会資源活用法などを提供している。</p>
103	愛知県	サンライフ	<p>【遊歩道環境整備活動】</p> <p>施設周辺に流れる排水専用水路の暗渠化にともない、上部有効活用として市が遊歩道を設置。遊歩道両側の植え込み(ゆうきやなぎ、れんぎょう)・花壇の管理、雑草の除去、側溝清掃および、散乱ゴミの回収等環境美化活動を、市とのアダプトプログラム契約(里親制度)に基づき、職員・地域住民協力の下行っている。</p> <p>美化活動をとおり、地域の方々との興隆を深め、施設(法人)をより理解いただくことにより、地域に根ざした施設運営につなげている。</p>
104	愛知県	サンライフ	<p>【ボランティアコーディネーターの設置】</p> <p>法人(江南エリア)にボランティアコーディネーターを設置し、法人全体におけるボランティアに関する調整、施設内での養成講座、交流会等を実施する。また、地域住民へ施設内でのボランティア活動の取り組みについての情報を提供する。</p> <p>小・中学校の総合学習、職業体験等を通して、その後のボランティア活動へつなげられるような援助を行う。同時に近隣の学校も含め地域への広報活動を行う。職員が地域住民との親睦を深めるため、地域へのボランティア活動を推進する。</p>
105	愛知県	無門福祉会	<p>【自閉症勉強会】</p> <p>自閉症支援の実践報告をし、家族や保護者、関係者、行政、地域の方へ自閉症への理解を深めてもらう。</p>

106	愛知県	昭徳会	<p>【小原寮周辺の空き缶拾い】</p> <p>施設近くの国道（歩道）や散歩道に落ちている空き缶を拾い回収する。回収したものは、毎日の作業で行っている空き缶潰しの材料となる。潰したものは年数回、業者に売りに行き収入となる。収入は年数回、関係利用者に公平に分配をする。</p>
107	愛知県	恩賜財団 済生会支部 愛知県済生会	<p>【(早期) 地域療育システム整備に向けての取り組み】</p> <p>青い鳥医療福祉センターの地域支援は、障害児（者）地域療育等支援事業を中心に行っています。その事業には、地域療育専任スタッフ3名だけでなく、医師・リハビリ・看護師・保育士・指導員など様々な職種のセンタースタッフが関わっています。事業を開始した平成12年当時、担当することになった尾張中部及び海部津島障害保健福祉圏域（当時20市町村）は、障害児施設もなく、障害児通園事業を行っていたのは、20市町村のうち2町だけで、在宅の障害児（者）を支える社会資源は乏しい状況でした。青い鳥医療福祉センターでは重点的課題として（早期）地域療育システムの整備に取り組んできました。その過程で療育事業等が各地に開設され、平成17年度末には、圏域13市町村（市町村合併により減少）で、14ヶ所と広がりました。</p> <p>地域の療育体制整備に向けて取り組んだ母子通園施設開設への働きかけや、新しくできた通園施設（療育教室）に対しての支援の実際について報告します。障害児（者）を抱えた家族が、地域で孤立することがないように、障害児（者）が安心して暮らせる地域作りの一助となるような活動を行っています。</p>
108	三重県	諦聴会	<p>【デイサービス施設訪問活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いっしょに歌ったり、おどったり手遊びをする。</li> <li>・昔からよく歌われた歌を子どもに教えて、一緒に歌えるのはとてもうれしそう</li> <li>・茶つみ歌セッセッセ大好評</li> <li>・手もみもみ肩とんとん、利用者さんの表情が素晴らしい</li> </ul>
109	三重県	敬真福祉会	<p>【地域美化活動】</p> <p>当施設の地域美化活動の開始は、地域で貢献できる身近な活動として、昭和62年から開始した。当初は、施設周辺の掃除から始まり、その後JRの駅2つのトイレ等の掃除を定期的実施し、感謝状も頂き入所者の方も達成感を持ち日頃の作業意欲も向上してきた。その後、新施設移転しJR駅の美化活動から隣接する県の公的施設や公園の周辺美化に移行し現在に至っている。今後も範囲を拡大し、少しでも地域に貢献できる充実した活動を実施していきたい。</p>
110	三重県	弘仁会	<p>【地域への貢献】</p> <p>地域住民や地域の各種団体への情報提供として、介護保険制度の周知や情報の提供、又、介護技術や知識修得のための公園や実技指導等を実施している。</p> <p>又、地域の行事等に積極的に参加する中で地域づくりの向上においても参画を行い、地域の行事への支援及び運営を実施している。</p>
111	三重県	夢の郷	<p>【障害者地域ピアサポート事業（ピアサポーター養成講座）】</p> <p>サービスを受ける立場であった当事者が、サポートする立場に立つことで、生きがいや自分自身を振り返るきっかけを得ることができる。また、仲間との交流により、新しい自分や新しい価値観に気づき、今後の生活を豊かに質の高いものにしていく場でもある。自分に向き合い、自分も相手も豊かな生活を送るために活動するピアサポーターを養成していくものである。</p>
112	三重県	キングス ガーデン 三重	<p>【シルバースクール】</p> <p>今年の9月、10月、11月、12月に実施予定。各月のテーマを決め、そのテーマに沿って、学び（知的刺激）、触れ合いゲーム、リラックスタイムのお話し（お茶の時間）、レクリエーション、体操の内容を決めている。</p>

113	富山県	白皇山保護園	<p><b>【花いっぱい活動】</b> 八尾園では開かれた施設を目指して、施設がもつ専門技術で地域への還元、地域交流を行っている。陶芸教室やコンクリートブロックの安価販売など様々な活動を行っている訳だが、今回は園芸班が行っている花いっぱい活動を紹介したいと思う。 園芸班では主に草花を種から育て、たくさんの花苗を作り、花壇を作ったり、地域の花愛好家の方や小学校、保育所、幼稚園に花苗や球根を配ったり、公共施設に季節の花鉢等を届け定期的に交換するなど、施設内にとどまらず、地域全体が花でいっぱいになるよう活動を行っている。</p>
114	石川県	北伸福祉会	<p><b>【むつみ会（保育園等訪問事業）】</b> 朱鷺の苑のお年寄りと職員が、「むつみ会」という劇団をつくり、お芝居を近隣市町の保育園や老人保健施設 デイサービス 公民館などで公演しています。最初は自分たちからお願いして公演させていただきましたが、次第に公演依頼がはいるようになって来ました。平成9年の「桃太郎」をはじめとし、昨年の「花さかばあさん」まで9作を上演してきました。今年度は「かちかちやま」を練習しています。いずれも本当の昔話を少しアレンジしたのですが、園児たちもとても楽しみにしてくれ、また、お年寄りも園児たちが待っていることが励みとなって続けてこられた活動です。</p>
115	石川県	佛子園	<p><b>【地域での海洋性スポーツ活動の普及】</b> 1985年地域の海洋性スポーツクラブとして発足。以来、20年間以上にわたり、セーリングボート（ヨット）やカヌー、水泳教室など海洋性スポーツを通じて、知的な障害を持つ子供たちも含め、地域の子供達の健全育成に継続的に取り組んでいる。 市民を対象にしたカヌー教室では、市民の生涯スポーツの普及に取り組むなど、地域の海洋性スポーツの拠点づくりにも貢献している。また、海洋センターの維持管理。海岸や河川の清掃及び森林保護のボランティア活動など、環境保護活動にも積極的に参加している。</p>
116	福井県	祥穂会	<p><b>【健康運動教室】</b> 健康運動教室を行うことにより、下肢筋力の強化につながり寝たきり等の予防に努める。</p>
117	福井県	虹の会	<p><b>【地域の小学生を対象とした福祉教育について】</b> 地域の小学生4年生2クラスを対象に、「障害とは何か、施設の役割とは何か」をテーマに、施設見学を通して、そこで働く利用者の作業を共に体験し、共同で地域の清掃活動に参加し、美化意識を養う活動を取り入れたり、小学生企画によるレクリエーション大会を実施するなど、児童が利用者と関わることで、障害者理解を図ることを目的に福祉教育を行っている。</p>
118	福井県	わかたけ部 共済部	<p><b>【(地域住民を対象とした)介護教室】</b> 地域の美容師組合にて介護教室を開催し、講師を派遣する。高齢者への理解を深めていただくと共に、車いすの操作、ベッドや車いすへの移乗、ベッド上での体位交換、ベッド上での洗髪、洗髪パッドの作り方等についての説明や技術指導を行う。</p>
119	福井県	わかたけ部 共済部	<p><b>【ふれあいサロン本多（認知症予防、健康、福祉について指導）】</b> 地域の高齢者の集い（いきいきふれあいサロン）の開催をデイサービスセンターわかたけにて実施。 月1回第2日曜日、AM10時～11時30分 健康体操、認知症予防ドリルなどを実施する。</p>
120	福井県	光道園	<p><b>【ボランティアスクール（中高生対象）】</b> 「共に生きる」をテーマとして障害を持っている方や露人との交流を通して、福祉に対する理解とボランティア活動のきっかけ作りを図ることを目的にして開催しています。ボランティアをしたいけど、よくわからない方、現在ボランティア活動をされている方、問わず、体験の場としてもご参加いただいています。 具体的にはガイドヘルプ講習及び視覚障害者付添支援実施。ミュージックケアをとおしてのかかわり。老人施設利用者とのゲートボール体験、盲聾の方とのゲーム、点字、手話講習等です。</p>

121	滋賀県	滋賀県 聴覚障害者 福祉協会	<p>【「手話タイム・プラスワン」(県広報)協力事業】</p> <p>○実施概要 びわこ放送において県政ニュースを手話と字幕で伝える「手話タイム・プラスワン」が放送されている。この番組に手話キャスター1名、聴覚障害者アシスタント1名、健聴者アシスタント1名を派遣すると共に、毎月「センターからのお知らせコーナー」と「手話教室」を設け情報を提供するなど製作協力を行いました。</p> <p>○実施内容 ・放送日時・・・毎週月曜日 21時15分～21時25分 ・派遣日時・・・毎週金曜日 9時30分～12時00分 ・収録場所・・・びわこ放送スタジオ ・派遣人数・・・1回につき、キャスター1名 アシスタント2名 *聴覚障害者4名、健聴者7名に活動をして頂いています。 また、「お知らせコーナー」「手話教室」の企画について製作協力を行っています。</p>
122	滋賀県	瑠璃光会	<p>【ことばの相談】</p> <p>言語機能に障害を有する方や嚥下機能が低下している方に言語聴覚士がご自宅や作業所を訪問して、ことばの障害状態の確認を行っています。</p> <p>その後は必要に応じて日常でのコミュニケーション方法の工夫や言語訓練また嚥下動作に関する相談や指導を行っています。訓練や助言が主な活動ですが、時には日常会話を楽しむことで「ことば」に対するストレスを発散しても頂いています。また、対象者の家族や周りの職員にも助言、指導を行っています。</p>
123	滋賀県	青祥会	<p>【介護無料相談の開催】</p> <p>広範な範囲の人が集まる大型スーパー2階の介護要用品売場で毎月第2日曜午後2時から5時まで「介護無料相談」を行っています。 1時間に1回ずつ、店内放送で「青祥会職員による介護無料相談・・・」と告知してもらっています。</p>
124	滋賀県	近江 ちいろば会	<p>【ボランティア育成の取り組み】</p> <p>平成18年度より、法人内にボランティアコーディネーターを設置し、地域のボランティアご希望の方と法人内の各部所との調整役を始めた。主な活動としては、</p> <p>①内容を一覧表にしたボランティア募集の案内を作成し、地域に配布。 ②ご希望者に面接し登録して頂き、法人内の適切な部所につなげるコーディネートの役割 ③「法人内ボランティア初めて講座」を月1回5回シリーズで開催し、地域の方に気軽に出入りし法人を知って頂く機会の企画。等である。</p>
125	滋賀県	志賀福祉会	<p>【ボランティア情報誌の発刊活動】</p> <p>施設職員と地域ボランティアの協働によって、高齢者福祉施設内外で、高齢期の人々の日常生活支援を行い、その模様を月1回施設ボランティア情報誌として発刊継続し、それにより特別養護老人ホームが地域公的社会的資源として親しまれ、大いに活用されまた、ボランティアとして活動の場を得ることで、会社人間であった男性諸氏や子育て終了後の家庭婦人が新しい人間関係を得て、健康的な中高年期を得る素因にしておられる。医院に勝る健康院の機能効果。</p>
126	滋賀県	志賀福祉会	<p>【知的障害者授産施設利用者との交流活動】</p> <p>知的障害者授産施設の利用者と、特別養護老人ホームの利用者の夏祭りでの交流また地元不動産管理者に対して草むしりの仕事を斡旋し、授産施設利用者の仕事の情報を流していただくように協力する。</p>
127	滋賀県	志賀福祉会	<p>【駅前清掃及び道路清掃活動】</p> <p>駅前清掃及び道路清掃</p>
128	滋賀県	志賀福祉会	<p>【介護者のつどい事業】</p> <p>介護者の心身のリフレッシュと介護者同士の交流の場の提供</p>

129	滋賀県	志賀福祉会	<p>【障害児サマースクールへのボランティア参加活動】</p> <p>サマースクールでは、障害を持つ子供たちが学校のない夏休みの間も、有意義な生活を続け、地域に根ざした生活を築き上げていけるよう、保護者と共に考え取組んで行く。</p>
130	京都府	みねやま福祉会	<p>【認知症老人家族の会「こすもすの会」】</p> <p>認知症を持つ人に対する介護は他人には理解してもらえにくいことから問題を家族内で抱えてしまうことが多く孤立してしまいがちになります。家族が集まり、話しをしたり勉強をすることで家族だけで悩んでしまうことなく、認知症を理解し共に励ましあう場として自主的な組織となることを目指しています。</p>
131	京都府	みねやま福祉会	<p>【ここるところのパイプライン 虹】</p> <p>当園のスーパーバイザー（臨床心理士）は不登校や引きこもり、その他様々なここるところの問題を持つ方の相談支援を行っています。しかし、非常に広い地域の方が相談に訪れるため、定期的にカウンセリングルームまで足を運ぶことが困難な方もおられます。カウンセリングルームまで足を運ばなくても継続したケアが行えるよう、当園に近い地域の方には当園の場所を提供し、臨床心理士の指示の下、職員が箱庭療法等の実施、来談者の状況の把握など臨床心理士との橋渡しの役割を行いながら来談者のここところの回復を願うものです。</p>
132	京都府	松寿苑	<p>【ふくしのえき広小路】</p> <p>「ふくしのえき広小路」事業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・相談受付 月～金 10:00～15:00</li> <li>・福祉専門相談 金 10:00～15:00</li> <li>・メール箱設置（質問やご意見を受け付け翌日に連絡する。）</li> <li>・交流スペースの活用（おしゃべり、交流の場等として活用いただく）</li> <li>・松寿苑情報掲示・展示</li> <li>・松寿苑各サービスの紹介</li> <li>・松寿苑サービスご利用者の作品展示 など</li> </ul>
133	京都府	淀福祉会	<p>【学童保育時間（PM6:00）終了後における預かり保育】</p> <p>常に安心して子育てができる、安心して仕事ができることをモットーにして時代とともに柔軟なサービス対応に心がけることを念頭にしています。</p> <p>延長保育、障害児保育、一時保育を地域のどの保育園よりも先駆けて行い、特に働く母親の身になって安全、安心の上に信頼を得ています。</p>
134	京都府	京都基督教福祉会	<p>【障害児地域支援】</p> <p>地域支援活動</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・発達相談（発達検査、行動観察等からの助言）</li> <li>・関係機関（保育園、幼稚園、学校、施設等）と保護者との調整、助言</li> <li>・施設開放（お遊び会）</li> <li>・啓発活動（職員研修等の講演）</li> </ul>
135	京都府	カトリック教徒司教区カリタス会	<p>【日本児童養護施設インターンプログラム実習生受入の基本】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際協力は可能な限り実行する</li> <li>2. 職員は実習生と児童の関係を直接取れることと仲立ちをすること</li> <li>3. 実習生には寝食を保証すること</li> <li>4. 実習は児童を中心に生活に関わること</li> <li>5. 実習生は日本語の会話を努力すること（大学で日本語科の修得を1年以上すること）</li> <li>6. 施設での生活時間は週5日。2日間の休日はリラックスをして欲しい。京都は歴史都市で「日本の文化と歴史を学ぶ良い場所。良いチャンスなので自由時間を利用して欲しい」</li> <li>7. 園長職員は実習時間内であっても研修ということで行動を共にすることが出来る。</li> </ol>
136	京都府	カトリック教徒司教区カリタス会	<p>【地域クリスマス会】</p> <p>事業名 京都聖嬰会地域クリスマス会</p> <p>プチジャン司教（キリスト信者発見）はフランスにある幼きイエズス修道会総長にシスターを日本に派遣してくれるよう頼んだ。シスターたちは50日</p>

			<p>かかって船旅の後、神戸に上陸した。3日後、赤ちゃんを受け入れたのが福祉の始まりです。聖嬰という字は聖なる嬰児イエズスを意味しています。</p> <p>12月25日はクリスマスです。聖劇を通して救い主イエズス・キリストの御降誕の本当の意味を知っていただけたらと思っています。聖嬰会の子ども、職員にとって唯一感謝の心で交流できるのが2日早いのですが、12月23日です。</p>
137	京都府	京都社会事業財団	<p><b>【子育て支援活動】</b></p> <p>母親の子育てによる「心的なつらさ」の軽減を目的とするとともに、参加者による地域交流の場へとつながることを目指し、母親を応援する事業となるよう取り組んでいる。</p> <p>活動時、スタッフは参加者である母親たちの子育て方法について批評や口出しはせず、一緒に来ている子ども達が自由に楽しく遊べるよう手伝いをする中で、親同志の会話が弾むように努めている。</p> <p>気楽に多くの方に参加していただくため、カリキュラムは作らず、欠席も自由である。</p> <p>費用は無料。</p>
138	京都府	京都府社会事業団	<p><b>【ひだまりの会】</b></p> <p>洛南寮の開設は昭和22年で、当時は社会福祉関係法は旧生活保護法のみであり、その中に養老院・救護施設の設置条項がありそれに基づいて「洛北寮」として寮施設併設で京都市左京区でスタートしました。</p> <p>昭和35年、京田辺市茂ヶ谷に移転「洛南寮」となり、更に昭和57年に現所在地京田辺市大住に移転し、同時に京都府社会福祉事業団に管理運営が京都府から委託されました。なお、建築に着手するまで、地元で賛否両論がある中で、いろいろと折衝の経過はありましたが、現在では、寮で開催します「春まつり」「夏まつり」「敬老のつどい」等には地域の方々、ボランティアの方々の参加を得て盛大に実施しており、地域の理解も深まり、地域に定着しております。そして交流の対象も高齢者の方々から、中学生、小学生、保育園児と幅広く、また地域のボランティアにさまざまな場面で協力いただいております。なお、平成18年6月1日からは、京都府の指定管理者として管理運営しています。</p>
139	大阪府	大阪府肢体不自由協会	<p><b>【自助具の製作・普及啓発活動】</b></p> <p>医療関係者・各種の熟練技術者・教員・OL・家庭の主婦など約30名のボランティアグループ「自助具の部屋」では、からだの不自由な人たちの日常生活の中での不自由を補い、少しでも自分でできるように使う人の障害に合わせて工夫した道具である「自助具」を約25年間に3,000点余りを製作して障害者や高齢者に提供している。また、自助具の普及を目的として自助具・福祉機器に関する情報の収集・提供・相談や講習会・講演会などの活動を全国的な規模で幅広く実施している。</p>
140	大阪府	大阪府肢体不自由協会	<p><b>【肢体不自由児者の社会参加促進事業】</b></p> <p>肢体不自由児者の自立と社会参加を促進していくため、協会設立当時から約50年にわたって各種のレクリエーション事業や文化活動等を実施するとともに学生や社会人によるボランティアグループを育成して当該事業の支援を行っている。</p> <p>(主な事業)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①フレンドシップキャンプ</li> <li>②雪あそびのつどい</li> <li>③レクリエーションのつどい</li> <li>④クリスマスキャンペーン</li> <li>⑤作品展</li> <li>⑥絵を描く会</li> <li>⑦結婚相談事業</li> <li>⑧肢体不自由高校奨学金</li> </ol>

141	大阪府	大阪自彊館	<p><b>【こどもをみんなでまもろう今宮地域安全パトロール隊】</b> 当法人が所在する小学校区児童の安全確保のため、定時に校区内を自転車で巡回パトロールをしている。また、学校の校門前の立番もしている。 救護施設 白雲寮・甲子寮、身体障害者療護施設及び事務部門の職員約 170 名が交替で参加している。 月～金曜日、下校時の 15:00～17:00 に 1 組 2 名で 30 分毎×4 組で実施。</p>
142	大阪府	大阪自彊館	<p><b>【地域相談室】</b> ①社会的援護を必要とする独居老人への生活援助、介護保険非該当、認定前の独居老人に対するサービス内容、買い物、掃除等の家事援助、公的機関、医療機関、金融機関等への連絡や付き添い、安否確認や話し相手、介護保険利用の相談や、介護事業者への橋渡し等 ②相談機関としてあそこへ行けば話し（相談）が出来るをモットーによろず相談所を目指しています。</p>
143	大阪府	美 移 園	<p><b>【地域支援講習会】</b> 地域における高齢者福祉推進並びに、当共同生活住居が地域に開かれた住居となるために、高齢者の様々な問題や情報を伝え理解して頂くために、地域の方々にセミナーや講習会を無償で行う。</p>
144	大阪府	大阪福祉事業財団	<p><b>【母と子の教室】</b> 「子育てで悩んでいる」「友だちがいなくて・・・」という子育て中のお母さんと子どもを対象にした教室。プログラム(6月～1月 年8回)によって親子いっしょの日と子どもは保育体制をとり、お母さん同士で学び交流する日とがある。</p>
145	大阪府	大阪福祉事業財団	<p><b>【赤ちゃん教室 サークルすみれ仲間】</b> 地域の 0 才児の赤ちゃんをもつお母さんが保育園に来て、赤ちゃんとのふれあい遊びを楽しんでいます。子育てに役立つミニ学習や親子での半日体験入園、わらべうたあそびやお母さんのクッキングなど家庭のお母さんたちの要求に応える形で内容を工夫しています。 1、2 才児の子ども対象には、園庭開放を行い、保育園の道具を使い、保育園ならではのあそびの提供や親子の交流を楽しんでいます。</p>
146	大阪府	大阪福祉事業財団	<p><b>【すみれ老人大学】</b> 「高齢者のいきがづくり」と「福祉地域の担い手養成」のため、毎週 1 回講座を開催し、地域の高齢者の方に受講していただいている。学期を 3 学期制に区分し、2 年で本科修了、もう 2 年受講していただいた方には、研究科修了という形で、4 年生の大学の体裁をとっている。希望者には、卒業後の聴講を受け付け、学び続けたいというニーズに応えている。福祉、健康、いきがいの 3 つの講座を中心にカリキュラムを編成し、運営。</p>
147	大阪府	大阪福祉事業財団	<p>保育園の施設や子育てのアドバイザーとしての保育士や同年齢の園生活をしている園児を通じて、地域の子育て中の父母への子育ての援助をできる活動として「園庭開放」「親子教室」を行っている。 また、「電話相談」（子育てへのアドバイス、入園の相談など）「緊急入所」「0 才児年度途中入所」を行っている。「地域のおとしより（デイサービスサービス利用者）との交流」も今年度から実施します。</p>
148	大阪府	成 光 苑	<p>岩戸ホームを発地とし、市内総合病院、ショッピングセンター、市役所、駅を巡回している。車輦は 29 人乗りのバスを使用し、月～金曜 1 日 4 往復運行している。料金は無料。「岩戸ホーム福祉バス」の名称で親しまれ、地域になくはない事業となっている。</p>
149	大阪府	成 光 苑	<p>サンヒルズ紫豊館に入所されているご利用者と地元小学校との交流を目的に小学生を対象にしたボランティアの受入を行っています。小学生とご利用者がいっしょに話しをしたり、ゲームをしたり、物作りにも取り組んでいます。 6 月は、石臼を使ってきな粉作りに挑戦、悪戦苦闘しながらも昔の作り方でおいしいきな粉が出来ました。利用者は昔を懐かしまれ小学生や職員は初めての体験に感動を覚えました。</p>

150	大阪府	成光苑	<p>1. 地域団体（自治会、婦人会、老人会など）との交流の輪を常に広げ貢献活動の企画・実践をはかる</p> <p>2. 中学生の体験学習の趣旨に賛同し協力する</p> <p>3. 大学生のボランティア活動の受け入れをする</p> <p>4. 園周辺及び近隣公園の除草、清掃活動に取り組む</p> <p>5. 老人会と園児の交流のため自治会館にて交流会を持つ</p>
151	大阪府	成光苑	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ニーズへの対応</li> <li>世代間交流 A 独居老人宅訪問</li> <li>世代間交流 B 楽しく遊ぼう</li> <li>・福祉教育・人材育成</li> <li>ボランティアの受け入れ</li> <li>中・高校生の職業体験学習の受け入れ</li> </ul>
152	大阪府	成光苑	<p><b>【当園周辺の美化活動】</b></p> <p>1. 園周辺道路の清掃（週に2～3回）</p> <p>2. 近隣の公園清掃（年に3回位）</p> <p>3. 地域の公設事務所などや近隣の希望される所へミニトマトの成木、バケツ栽培の稲や花苗などをプレゼントする</p>
153	大阪府	成光苑	<p>9月より地域の公民館で行われている子育てサロンのお手伝いに保育士を派遣する計画を進めているところです。</p>
154	大阪府	成光苑	<p>地域子育て支援活動、保育サークルへの保育室の開放</p> <p>隣接する第二愛育園と合同する形で、地域の保育サークルや子育て支援活動の場として保育室を提供している。</p>
155	大阪府	成光苑	<p>地域の高齢者の方々に生きがいづくりと趣味の発表の場となるよう、文化祭（SAKURA フェスティバル）を開催し、企画、実施。</p>
156	大阪府	成光苑	<p>月1回の自治会の参加。また春先には植木の植えかえなどの緑化運動、年末には夜中に夜まわりなどの地域活動に参加している。また地域行事の夏祭りや餅つきは入所しているお年寄りも一緒に参加して楽しまれている。</p>
157	大阪府	成光苑	<p>地域の新聞社との協力による介護情報の掲載したミニコミ誌を地域へ配布。</p>
158	大阪府	成光苑	<p>春と秋の年2回地域のスーパーマーケットに出向き、介護相談や筋量測定を実施。</p>
159	大阪府	成光苑	<p>近隣地域との共同事業により、一人暮らしの高齢者に施設に来てもらい、食事を提供。パワーリハビリ機器を活用し、介護予防に繋がることを目的とした取り組みを実施。</p>
160	大阪府	恵和会	<p><b>【地域ネットワーク】</b></p> <p>民生委員や社協、行政機関との調整を図り地域に暮らす方々の良き相談相手であるばかりでなく高齢者の孤独死や配偶者等からの暴力といった新しい社会的課題に対し解決にむけた取り組みを行っていく。</p> <p>又、高齢期の認知症についての知識の普及や地域のゆるやかな見守り体制を行うことにより地域への信頼や安心感を支援していき、総合的な支援機能を備えた地域福祉推進の中核機関としての役割をはたします。</p>
161	大阪府	こころの家族	<p><b>【地域介護教室の開催】</b></p> <p>地域への情報提供や啓発を目的として、自治会、老人会などの各種団体や個人を対象に、介護保険、介護技術、介護予防、転倒予防教室を開催する。</p>
162	大阪府	こころの家族	<p><b>【ボランティア勉強会】</b></p> <p>小地域ネットワーク活動のスタッフに知識や技術の向上とやりがいを持って活動を続けて頂くことを目的に、制度や認知症、生活習慣病、介護技術等について、地域にあるグループホーム、障害者施設など関係機関や地域から講師を招き勉強会を開催する。</p>
163	大阪府	晴誉会	<p><b>【地域子育て支援・地域貢献活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園庭開放</li> <li>・保育体験</li> <li>・乳児親子教室</li> <li>・地域中学校の保育体験授業受け入れ</li> </ul>

164	大阪府	堺福社会	<p>地域住民からの相談に対して、自宅を訪問して説明を行ったり、必要な機関と連携をとりながら、問題が解決するよう努めている。セルフネグレクト等のケースに対しては定期的に訪問し、安否確認を行う事も多々ある。</p> <p>その他にも小地域ネットワーク活動に毎回参加し、高齢者に関する情報提供を行ったり、レクリエーションを実施している。施設独自でも介護予防に関する教室を開催することで、地域住民へ介護予防の意識の啓発に心掛けています。</p>
165	大阪府	隆生福社会	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティア受け入れとボランティア交流会の開催</li> <li>2. 施設見学会の開催</li> <li>3. 高齢者疑似体験教室の開催</li> <li>4. 子育てサロン・子育てサークルへの会場提供と支援</li> <li>5. 知的障害者のボランティア活動受け入れと業務委託</li> <li>6. 法人行事等への地域住民招待</li> <li>7. 近隣の教育機関との交流</li> </ol>
166	大阪府	高屋福社会	<p><b>【園開放】</b></p> <p>月1回ずつ定期的に地域の在宅育児支援を目的として、親子体操と親子英語教室を開催し、互いのコミュニケーションの場を提供し、また育児相談を受け付ける等しています。この他にも毎週2回火・木曜日には園庭の遊具を開放し、その資源を地域の育児支援に資する所です。</p>
167	大阪府	大恵会	<p><b>【岸和田いきいきネット相談支援センターいなば荘】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・随時出張相談の開催</li> <li>・関係機関の連携</li> <li>・社会資源の提供</li> </ul>
168	大阪府	日本 ライトハウス	<p><b>【相談支援事業】</b></p> <p>視覚に障害のある方々及びその家族、地域の支援者などを対象に電話又は来所での相談を受け付けています。相談では生活関連から就労、制度、補助具など視覚障害に関する様々な課題について対応しております。</p>
169	兵庫県	種の会	<p><b>【専門職員の専門性を地域に還元】</b></p> <p>2002年4月、神戸市灘区のHAT神戸にはっと保育園は誕生した。HAT神戸は、阪神淡路大震災後の震災復興モデル地区として整備された新しいまちである。はっと保育園では地域への子育て支援の一環として、この地域に住む1~2歳児をもつ親子を対象に「保育体験」事業を独自に実施している。この事業は、保育所を利用していない地域の親子が実際に朝から昼食までの時間を保育所の中で過ごし、肌で体験するというものだ。1日1クラス2名までの限定で、希望者には事前申込をしてもらい、1回200円の利用料をもらい実施している。この事業で注目すべき点は、利用条件として、子どもが保育所で過ごしている間、その親も子どもと一緒に時間を過ごすこととしていることだ。参加する親は、実際に自分の子どもが他の子どもたちと過ごす姿を見つめながら、改めて子どもの「個性」を知ることには重点を置いている。この保育体験事業が、単に親の子育て軽減だけをはかることを目的としていないことに注目する必要がある。</p> <p>また、この保育体験が終わった後、必ず親と主任保育士とが振り返りを行い、必要があればそれをもとにミーティングを行うというフォローまで行っている。保育士との対話をとおして、わが子の新たな一面に気づく契機となるだけでなく、今まで抱えていた子育てに関する悩みやとまどい、苦しみ等を打ち明け、自分の中の課題に気づくことにつながる。また、保育士より必要に応じてアドバイスを受けることで、親としての自覚の再認識や子育てへの意欲の向上など大きな効果を生んでいる。話し合う過程において、保育士は専門的立場からの援助を行うことにより専門性がより高められるし、親は「親」としての育ちの機会となり、結果として、双方の育ちの場となるのである。</p>

170	兵庫県	本覚寺苑	<p><b>【施設が地域活動拠点として機能】</b></p> <p>施設を一步出るとのどかな田園風景も見える、そんな町並みの中にある山彦ホームは、姫路市において昭和 50 年に開設された。このホームでは、開設当初より地域交流とボランティア活動の推進を積極的に展開している。</p> <p>ホームではこれら活動の一環として、地域のひとり暮らし高齢者を対象に陶芸教室や手芸教室、音楽療法を用いた集いなどを開催している。参加している地域の高齢者にとっては新たな仲間づくりの機会にもなり、このようなセルフヘルプ的な活動は参加者からも概ね好評である。月に 2、3 回のペースで開催されているこういった活動は、施設が日常的に地域とつながりを持つ上で非常に重要な意味を持つ。</p> <p>また同法人では、山彦ホームから少し離れた場所に平成 12 年から認知症高齢者のためのグループホーム「みろくの里」を設立し、運営している。そして、このみろくの里でも地域住民を対象に（しかも利用者と一緒に！）音楽療法と回想法を組み合わせたプログラムを実施している。</p> <p>ホームには地域住民から近所の畑を無償で貸与したいとの申し出が寄せられるなど、山彦ホームのこれまでの実践が地域とグループホームの距離を非常に近づけていることがうかがえる。近年、グループホームの「地域孤立」がしばしばとりざたされているが、ここではそういった問題とは無縁のようだ。「山彦ホームが運営しているのなら安心だ」、そんな声が地域から自然に出てくるのは、施設が地域の福祉資源として自然に受け入れられている証拠だ。このような地域に対する地道な活動実践が認知症高齢者を受け入れることのできる地域の福祉土壌を育むことにもつながっていった。</p>
171	兵庫県	神戸聖隷福祉事業団	<p><b>【要援護者と防災を考える会】</b></p> <p>神戸聖隷福祉事業団（ひょうご障害者地域生活支援センター）が参加する兵庫区障害者支援ネットワーク会議において、阪神・淡路大震災の際、障害者が避難施設で受け入れてもらえなかったケースや障害者自身も「どこに避難すればよいかわからない」という方がいたことから、障害者向けの避難計画が必要ではないかとの意見があった。その後、ネットワーク活動の一つとして、検討委員会「要援護者と防災を考える会」（以下、「考える会」）を開催することになり、行政においても出来る限り協力する旨が確認された。</p> <p>また、考える会では、区内の障害者避難可能施設の調査や災害情報の伝達方法、避難場所の情報提供方法等の検討を行い、経費は、神戸聖隷福祉事業団が負担することとした。検討された内容は「要援護者と防災を考える会 2005 年度報告書」としてまとめられた。現段階では不備な点も多く、18 年度は防災マップの充実、地域の人々への啓発活動を実施しながら、より充実したよう援護者防災支援計画を検討している。</p>
172	兵庫県	フレンド	<p><b>【相談・マネジメント・ネットワークの形成】</b></p> <p>フレンドの前身にあたる「F の会」は、平成 5 年に市の作業委託を受けた神戸市北区所在の 4 つの知的障害者関係施設（上野丘更生寮、ヨゼフ寮、陽気寮、はっち作業所）によって組織化された団体である。F の会では除草作業等を行い、知的障害者の就労実習の機会として大きな役割を果たしてきた。これらの事業を通じて、F の会では、地域における障害者の相談支援の必要性と就労に関する支援体制の強化を痛切に感じたという。そこで、F の会に所属する社会福祉法人 3 団体（上野丘さつき会、ヨハネ会、陽気会）が出資しあい、社会福祉法人フレンドを設立した。また、その際、社会福祉法人緑水会も参画し、稀にみる社会福祉法人間の協働による法人設立という取り組みが誕生した。</p> <p>自分たちのまちの社会資源や活動できる機会や場所といった情報を基に、ライフプランを組み立てていく上で相談活動は入口となり、ニーズ把握や具体的なサービス開発のきっかけとなる。障害者の地域</p>

			<p>生活移行が進む中、福祉サービス事業者は「その人らしい生き方」を相談活動やサービス提供を行う中で見出し、生活支援を行うことが重要だ。必要であれば、フレンドのように社会資源を開発し、ネットワークを形成する。その人にあったケアマネジメント・相談支援を基本としながら、事業者自身の専門性を発揮することが求められる。</p>
173	兵庫県	山路福祉会	<p><b>【縦割りを脱した当事者への支援】</b></p> <p>心の病を抱えた方の小規模作業所「ひなたぼっこ」は、「木の根会家族会」を母体として丹波市内でリサイクル店を営んでいる。このグループのメンバーは寛解期にある人たちで、丹波市の特別養護老人ホーム山路園の施設内において、移動喫茶の活動を展開している。</p> <p>山路園での活動は平成14年に遡る。当初は月1回、施設のロビーにて喫茶コーナーを設置し、施設利用者に対してコーヒー、お菓子を提供していた。しかし、ロビーまでは出てくることができない利用者からは居室まで訪問して欲しいという要望が出ていた。</p> <p>平成15年度から、同園では旧来の施設を3つの生活圏域（ユニット）に分けたユニット的ケアの取り組み実践が開始された。この頃、グループのメンバーの活動意欲が増したことにより、ロビーの活動ではなく、各ユニットに訪問する形になり、現在では、活動日数も週1回（月4～5回）に増えた。</p> <p>山路園の職員は、同グループのメンバーの活動を見守り、必要に応じてメンバーのサポートを行っている。また、喫茶に必要な資材はグループが用意しているが、山路園では移動用のワゴンやポットといった機材の貸与などを行い、グループが活動しやすい環境を提供している。高齢者への支援を主としていた法人は、こうした取り組みを機に、障害という分野への支援に携わることとなった。「高齢」「障害」といった縦割りは「地域住民」への支援という考え方により解消された。障害者自立支援法成立により、ますます重要視されることとなった障害者の就労支援に対し、今ある活動の延長線でサービスを開発した試みの意味は大きい。</p>
174	兵庫県	ほっとスマイル	<p><b>【住民自らが社会福祉法人を設立】</b></p> <p>西宮市北部にある自然豊かなベッドタウンの地に、平成17年4月、「東山ぼぼ保育園」は誕生した。同園を運営する社会福祉法人ほっとスマイルは、平成17年3月に認可された新設法人である。これまで、この東山台地区には保育所がなく、住民からのその設置を要望する声が高まっていたが、社協東山台分区、自治会連合会をはじめとした地域団体が西宮市へ要望書を提出するなど活動を続けた結果、平成15年、同地区に保育所を新設する方針が市側より示された。</p> <p>設置を予定された場所は、当時資材置き場ようになっていて、日当たりも悪く、園庭もないので保育所には向かなかった。また、便利な場所なので他の用途に使いたいという方もいた。また、そんなところに保育所ができれば、送迎などで違法駐車が増えるのではないかとこの反対の声もあり、これは住民合意を得る必要があった。保育所の設置については、住民ひとりひとりが自分たちの暮らす地域の問題として協議する場が必要だと感じ、具体的な議論を進めていく、地元9団体で構成する「まちづくり工房」を立ち上げた。まちづくりの視点から保育所開設について住民が集まり協議する場として活用していくことになり、保育所のしくみや制度などを一から学習し、協議を重ねていく中で、この保育所は住民の力で立ち上げ、運営したいという声があがり、社会福祉法人の立ち上げについて具体的に話しが進んでいったという。</p> <p>しかし、住民自身による法人運営に不安はなかったのだろうか。「できるかどうか、何の根拠もありませんでした。ただ、私たち住民がやるしかないという強い思いだけはありました。違法駐車の問題も法人の中心的な課題の一つとして、住民とともに取り組んでいきました。不安もあったが、無事に開園の日を迎えることが出来ました」と理事長は語る。</p>

175	兵庫県	愛 心 会	<p><b>【法人内に課題別委員会を設置】</b></p> <p>神戸市北区の鹿の子台では、平成 13 年からふれあいのまちづくり協議会が主催で、地域の乳幼児をかかえる親子を対象とした「バンピッ子クラブ」を地域福祉センターで毎月開催している。平成 17 年度から、開催時には愛心会が運営する「星の子保育園」から 2 名の保育士が派遣され、そこに参加する地域の子育て中の親子と一緒に保育所での遊びや様々なレクリエーションを行う。大変好評で、参加者も広がりを見せているという。保育士にとっても、自らの専門的なスキルを地域の中で生かすことができ、またそのかわりを通して、地域の中で学び、成長できる新たな気づきや発見の場ともなっている。法人自らが地域へ出向くことによって、地域の中にある潜在的な子育てニーズを引き出している。また、愛心会では、法人理事に地域住民代表も参画してもらうなど、法人内にも地域住民の声が反映されるしくみをもっている。地域との信頼関係を築きながら、地域にある子育て専門機関であることを地域住民に知ってもらうことにも熱心だ。</p> <p>星の子保育園には、保育所全体の問題を課題別に検討するために、5 つの委員会を設置し、常にサービスの向上に向けた取り組みを行っている。この委員会には、各職員が必ずいずれかの委員会に所属する。委員会ごとに毎月集まり、活発な議論を行うなど、職員自身が主体的に運営している。各委員会で出た意見は、職員会議でさらに全体共有し、解決に向けた取り組みへとつなげていくという試みだ。保育所を支える職員ひとりひとりが自らのスキル向上に取り組みながら、保育所としての機能の向上に努めている。それは、ひとえに地域の中にある専門機関としての役割を担うためである。</p>
176	兵庫県	桜 谷 福 社 会	<p><b>【ボランティア養成講座の開設】</b></p> <p>桜谷福祉会では、約 1 年間をかけて地域貢献推進事業にむけて、住民アンケートや地域密着型のボランティア講座立ち上げのための検討会議を開催した。検討会議には、市社協、地元自治会等も参画の上で、協議を進めた。会議の中で出てきた地域福祉課題として、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者、障害者が孤立している。また当事者の実態も十分つかめていない（防災の観点から、いざという時の体制整備が必要）</li> <li>・いきいきふれあいサロンを自治会レベルで開催しようと呼びかけているが、担い手がなく伸び悩みが課題。桜谷荘のエリアは 1ヶ所しかない。</li> <li>・介護保険の報酬改定で、ショートステイの利用率が下がり、家で介護する時間が増えた。特に、認知症高齢者を抱える家族のストレスは大きくなり、また、当事者も居場所がなくなり困っている。地域での居場所が作れないか。</li> </ul> <p>といった意見が出た。こうした課題の解決策として、17 年度は、現在、地域づくりの一環として定着してきた「いきいきふれあいサロン」をテーマに、「いきいきサロン支援隊」と称して、地域密着型ボランティアの養成を開催することとなった。また、その中で①誰もが参加しやすい研修にする、②桜谷荘が持つ、高齢者介護に関する情報を提供する機会とする、③年間 3 回程度で講座実施後、参加者の要望を踏まえて研修を改良する、等が確認された。</p> <p>開催にあたっては、地元民協、市社協、自治会等に協力を求め、協議を進めながらプログラムを組み立てていった。ボランティアについての基礎講座をはじめ、外出介助やレクリエーションについて等、具体的な企画内容となっている。</p>
177	兵庫県	育 世 会	<p><b>【地域福祉推進計画の参画】</b></p> <p>淡路島南部に位置する三原郡緑町は淡路島中心地である州本市に隣接し、企業誘致の成功などにより比較的豊かな自治体として繁栄してきた町である。ところがここ数年、大企業の撤退や三原郡合併論議などを原因として住民の生活に対する不安感が日増しに高くなってきた。このような背景の下、緑町社協では昨年より住民や関係機関が</p>

			<p>中心となって地域福祉推進計画策定に取り組むこととなった。児童養護施設「淡路学園」もこの策定委員会のメンバーとして積極的に関わり、住民に対する意識調査の実施、当事者を招いてのヒアリングなど、地域の実態把握や住民・当事者の思いに耳を傾けてきた。策定委員である職員は「これまで施設では子育て中の親のニーズや思いを十分に聴く機会が少なかった。この策定委員会に参加し、地域に対して児童養護施設の専門性（経験・ノウハウ）の発揮と地域の子育て支援の拠点としての役割の必要性を改めて感じた」と語る。社会福祉施設が計画策定にかかわることにより「これから施設自身が何をすべきか」を実感として感じ取っていったという。</p> <p>淡路学園では計画策定過程で明らかになった「子育て中の親」に対する情報提供の少なさ、親同士の交流機会の必要性などにどう施設が対応していくか、今後の児童養護施設としての展開視点・方策として「親子の居場所づくりと仲間づくり」「当事者の情報提供」「子育て支援の各関係機関、団体のネットワーク化」など、子育てに関する環境・支援システムを構築していくを検討していく予定である。施設のもつ専門性を地域資源として、様々な子育てや児童虐待等に対する課題・ニーズに対応し、地域の子育て安心拠点として役割を発揮する。</p>
178	兵庫県	樫の木福祉会	<p><b>【まちづくり協議会への参画】</b></p> <p>「幸い地区の中に、『樫の木福祉会』という福祉施設があり、この施設と連携を取ることによって、地域農業の特徴づけや、新たな特産品の育成といった可能性が開かれています。また、施設との交流活動を通じて、住民同士のふれあいや地区を訪れる都市住民とのふれあいやづくりもできることと考えています」（「神戸南下里づくり計画」より一部抜粋）</p> <p>神戸市西区にある社会福祉法人樫の木福祉会は、昭和40年に発足して以来、常に地域と連携・協働を進めることにより法人としての存在価値を模索してきた。上記の計画は、施設のある地域で設立された里づくり協議会が策定したものであるが、計画の随所に「福祉施設との連携、交流」といった文言が記載されており、法人施設の地域に根ざした現状がうかがえる。</p> <p>知的障害者授産施設「ゼノの村」では、平成8年から地域の休耕田を借用し、青ねぎ栽培を実施、中央卸売市場等に出荷してきた。里づくり協議会設立の話があったとき、「施設が重要な地域資源として、単に箱的資源のアピールではなく、知的なハンディがある人が地域農業に携わることによって施設利用者という視点から『〇〇さんという固有名詞』として地域の人々に認めてもらえる機会になるのではないか」。そう考え、積極的に会へ参画した。また3年前から『西区市民参加による障害者安心ネットワーク』という障害者のネットワークの動きが進められている。このような取り組みや地域イベントへの参画にも積極的だ。</p> <p>今後の法人施設の展開視点として、地域に暮らす者として、あいさつやお礼、お祝いやお悔やみといった経験を重ねていく機会の提供や、昔から地域住民によって守られてきた景観維持への参画等、まだまだ法人施設が取組むべき視点は多い。今後はそうした視点や地域のコミュニティビジネスとしての視点を意識しながら展開していく予定だという。</p>
179	兵庫県	三光事業団	<p><b>【地域での権利擁護システムづくり】</b></p> <p>西宮市鳴尾にある児童養護施設三光塾は、地域の様々な資源を巻き込みながら、新たなネットワークを生み出し、その輪を広げていく活動にも熱心に取組んでいる。</p> <p>平成11年、阪神間6市1町を中心に子どもの虐待防止活動に取組む民間団体、「阪神子どもの虐待防止ネットワークほっと」が設立された。</p>

			<p>さまざまな形で、虐待を受けている人々（子ども）のいのち、人権を守り、また、虐待の加害者となってしまう人々へのできる限りの援助を目的として、地域社会において子どもの養育、家族への援助にかかわる関係者、あるいは、医療、福祉、教育、司法の専門職・機関およびこの活動に賛同する人々約130人が会員として協力し、他機関との協力のもとに、子どもへの虐待の発見と防止、理解、啓発の活動を行うことを目的としている。児童養護施設などの施設職員や、学識者、教育関係者、マスコミ、行政など多様な専門家や地域住民など約130名が会員としてかかわる。「ほっと」では、概ね2ヶ月に1回例会を開き、子どもの虐待への理解、防止への取り組み、専門分野からの報告等を中心に講師を招いてレクチャーを受け、メンバー間の情報交換等を行っている虐待防止に向けた講演会の開催など地域への啓発活動にも積極的だ。</p> <p>また、ネットワークでは平成13年からは、週2回「ほっと電話相談」を実施し、悩みを抱える子育て中の親や子どもたちからの相談にボランティアの電話相談員が応じる。「ほっと」では、独自に電話相談員養成講座を開講し、子どもの虐待の現状やカウンセリングの基礎、ロールプレイなどのプログラムを行い、適切な相談員の確保にも力を入れている。地域のネットワークが持つ機能と施設が持つ専門的機能をつなぎ、あわせながら地域をささえている。</p>
180	兵庫県	桑の実園 福祉会	<p><b>【巡回バス運行事業】</b></p> <p>兵庫県の南西部に位置する旧龍野市は、城下町の面影を残し「播磨の小京都」と呼ばれる。温暖な気候と豊かな自然環境により、手延べそうめんや醤油等地場産業でも繁栄してきた。姫路市にも隣接し、JR姫新線や山陽自動車道等もあり、市外とのアクセスは一定の便利さがある。しかし、市内では電車や路線バス等の公共交通機関は限られた地域にしか運行されておらず、路線から遠い地域に住む高齢者等が市内を移動する手段がないという課題があった。</p> <p>特別養護老人ホーム「桑の実園」では、地域の自治会に協力を仰ぎ、アンケートを実施して具体的なニーズの掘りおこしからはじめた。また、各地区の自治会や老人会、婦人会へ説明にも出向き、巡回バスの利用についてもPRをしている。巡回バスの事業化は平成11年。市役所や銀行、病院やスーパーなどを巡回するバスを、月曜から金曜の午前と午後コース別に運行している。一応の運行ルートはあるが、利用者の希望に合わせてケース・バイ・ケースで停車しているのが実情である。利用者のニーズに基づき、更に14年度から路線も拡張した。基本的な対象は高齢者だが、とくに限定はなく、利用料も無料としている。</p> <p>桑の実園は、地域の中から「いろいろなところに行きたいが、交通手段もなく、出て行くことが難しい」という声を聞き、それをもとに、住民と連携して「住民の移動権」を課題として事業化していった。これは、「法人は地域住民のためにある」という考えによる。普段から地域との交流には積極的で、これらの実践を通じて、地域から「見える」法人、地域住民が「安心拠点」として頼れる存在である、ということを実感し、理解を得ていっている。平成17年11月の市町合併や、今後の介護保険制度の改定等、法人・施設の置かれる立場や、環境は決して良いとはいえないが、桑の実園では、この事業の重要性を考慮して、可能な限り続けていく意向である。</p>
181	兵庫県	報恩感謝会	<p><b>【地域情報を適時適切に配信】</b></p> <p>神戸市西区にあるあさひ保育園・あさひ児童館では、日頃から川遊び等で利用している明石川のゴミの散乱を何とかできないかと思案していた。園児の保護者や地元の専門家を交えて相談した結果、「リバーレンジャー明石川（RRA）」が結成された。2年間の清掃活動の実績は地域に認められ、自治会や各種団体の参加にまで広がった。この他にも保育園・児童館では地元の祭りや行事の参加など、常に地域を</p>

			<p>意識した活動の展開を実践している。こうした活動は、毎月発行する機関紙やホームページなどによって地域に情報発信している。年に1回は職員が直接、地域の住宅を回り、情報紙を全戸配布している。明石川の活動もそうした情報発信を意識していたから地域に広がっていった。</p> <p>また施設では情報を集めるための努力も欠かさない。施設が地域の行事に参加しながら地域内ネットワークを構築していくことも情報収集には欠かすことができない要素だ。現在、兵庫県内で「情報」をシステム化し、社会福祉資源として活用している面白い試みがある。その名は「よい子ネット」。ラジオ関西と県、神戸市、姫路市の保育協会・連盟が契約を結び、県内の保育園と保護者を結ぶネットワークとして期待されている。</p> <p>保育園の専門ホームページから連絡ツールとして保護者あてに情報提供していく仕組みであるが、防犯・防災などの緊急の連絡にも活用できる。情報が直接、携帯電話にはいってくるので利用者にはタイムリーな情報提供システムとなる。「よい子ネット」は随時、情報をキャッチし発信していくことが鍵となる。時間が経つにつれて、その情報の価値は低くなる。要は情報のプライオリティ（優先順位）をいかに施設が考えるかが重要なのだ。今後、法人施設が「情報」をいかに地域の中で循環させて生きたものにしていくかを真摯に考えることが必要だろう。</p>
182	奈良県	飛鳥学院	<p><b>【不登校児童交流広場】</b> (活動の目的)</p> <p>平成15年度、「不登校」を理由に年間30日以上学校を欠席した児童生徒数は、全国の国公私立小・中学生合わせて12万6,212人にもおよんでいる。不登校の問題は、家庭内暴力や引きこもりなどと共に地域における社会的支援が必要な課題である。</p> <p>そこで、実際に不登校傾向のある子ども達への社会支援（自立支援）の一環として、不登校傾向のある子ども達がレクリエーションなどの活動を通して定期的に交流する場を設けることにより、子ども達の居場所を作り、社会復帰や自立の足がかりの場となるべく交流広場を開催する。</p> <p>(活動の内容)</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①不登校傾向のある子ども達にレクリエーション活動を月2回行い、居場所作りと仲間作りを進めていく。</li> <li>②スタッフが子ども達の間に入り活動を促進することで、コミュニケーション能力を向上させる。</li> <li>③レクリエーション活動を通して地域に出ていくことで社会と交流する接点を設ける。</li> <li>④同じ立場の仲間がいることで社会に出て行く力を養い自立支援を行う。</li> <li>⑤不登校から引きこもり、ニートとならないように援助を行っていく。</li> </ol> <p>(延べ利用者数一年間) 200名（小学生－1名・中学生－8名・高校生－1名）</p> <p>(活動の成果)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達がフリースペースを自分の居場所や仲間づくりの場として認識するようになり、活動を楽しみに来るようになった。</li> <li>・活動に参加することで学校に定期的に参加できるようになった。</li> <li>・人との関わりが苦手だった子どもが友達と積極的に話すようになった。</li> </ul>
183	奈良県	飛鳥学院	<p><b>【奈良児童虐待防止ネットワーク「きずな」(児童虐待防止推進活動)】</b> (活動の目的)</p> <p>様々な形で、虐待を受けている子どものいのち、人権を守り、また、虐待の加害者となってしまう人々へのできる限りの援助を目的として、地域社会において子どもの養育、家族への援助に関わる関係者あ</p>

			<p>るいは、保健・医療・福祉・教育・司法等の専門職・機関およびこの活動に賛同する人々との協力のもとに、民間団体として、子どもへの虐待の発見と防止活動への支援を行う。又、同様に地域における子育て社会支援システムの構築についてその推進を図る。</p> <p>(活動の内容)</p> <p>①地域社会における、子どもの虐待防止に取り組むための継続的な啓発活動、研修活動を行う。</p> <p>②子育てのニーズに対応するために相談活動を支援する。</p> <p>③効果的な緊急対応ができる地域システムを作るために、日常的に関係機関との連携を図り、情報交換を行う。</p> <p>④対象ニーズに応じて、必要な援助の紹介を行う。</p> <p>⑤関係機関との協力のもと緊急の場合には危機介入できる体制づくりをめざす。</p> <p>(会員数一年間)</p> <p>250名(医師-20名・弁護士-10名・教員-24名・保健師、看護師-25名・保育士-30名他)</p> <p>(活動の成果・地域への影響)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奈良県より児童虐待防止啓発活動・児童虐待防止対応マニュアルの作成・児童虐待防止研修会の開催等を事業委託され奈良県や各関係機関との信頼関係ができた。</li> <li>・「きずな」で講演会や事例研究会を開催することで多くの県民及び関係者に児童虐待防止に関心をもってもらった。</li> <li>・県下の市町村に要保護児童対策地域協議会(児童虐待防止ネットワーク)設立の必要性を働きかけた。</li> </ul>
184	鳥取県	あすなる会	<p>町内の県立高等学校の健康福祉コースの授業への講師派遣(3年生)。ホームヘルパー2級養成研修事業に関わる岩井あすなるでの介護実習(3年生)。施設、デイでの現場研修(2年生)。施設見学(1年生)。</p>
185	鳥取県	あすなる会	<p>岩井地区の一人暮らし又は老夫婦二人暮らしのお年寄りを新年会として施設に招待している。冬季積雪期で外出困難(とじこもり)、少数家族でのなべ料理は不向きなど考慮して、施設交流センターを利用し、手作りのなべ料理を囲んでの会食でもてなしている。食後は、カラオケ大会やわたがし作りなどをして楽しんで頂く。地域のボランティアにも協力を頂き、施設職員を始め、併設する支援センター、居宅介護支援事業所の職員も参加して、介護保険の話しや介護用品の説明を行う。</p>
186	島根県	島根県社会福祉事業団	<p><b>【高齢者料理教室】</b></p> <p>当園の食堂で近隣地域住民と利用者が一緒に管理栄養士を中心に高齢者の食べやすい食事づくりをし、同時にその協働作業を通じ交流を図ることを目的とし、定期的を実施している。この教室が地域の方に魅力あるものに発展し、ひいては地域開放の一助に繋がればとの願いを持って実践している。</p>
187	岡山県	旭川荘	<p><b>【講演会の開催】</b></p> <p>地域住民に対して、健康をテーマとして講演会を実施することで、安心して暮らせる街づくりの一助となれるよう取り組んでいる。</p>
188	岡山県	旭川荘	<p><b>【①「子育て広場よい川」 ②「三世代交流むつみの会」】</b></p> <p>①子育てひろばよい川では、子育て家庭に対する育児不安等についての相談指導、子育てセミナー、親子教室、遊び場の提供をすることにより、子育て家庭に関する育児支援を行っている。②三世代交流むつみの会では、幼児から高齢者を対象として地域性、公共性の高い事業を実施すべく「三世代交流むつみ会」をつくり、多世代の地域交流会を開催している。</p>
189	岡山県	共愛会	<p><b>【シニア向け介護予防フィットネス事業】</b></p> <p>シニア向け介護予防フィットネス事業では平日の夜、40歳以上の地域の方々に、介護予防プログラムを提供しています。プログラムの構成は、大きく3つに分かれており、エアロビクス、マシントレーニング、そして、プールを使ったアクアビクス。体組成計など専門機器によるボディチェックを行い、お一人お一人にあったプログラムを提供しています。</p>

190	岡山県	共愛会	<p><b>【地域交流レストラン事業】</b>  地域の方々や私たちの施設を訪問された方々に、実費に近い料金で食事を提供する。</p>
191	岡山県	共愛会	<p><b>【親子クラブ「たんぽぽクラブ」】</b>  ○親子クラブ「たんぽぽクラブ」  9：30～ 登園 シール貼り  10：00～ おやつ  10：30～ 遊び  11：30～ 降園  地域の子どもに、朝の集会や保育園の行事に参加してもらい、在園児との交流を深めたり、また、単独での活動を実施している。2名の保育士が担当し、月々の活動内容は、担当の保育士で計画している。お便りの発行による情報の提供もおこなっている。</p>
192	岡山県	経山会	<p><b>【講師派遣】</b>  地域社会への情報提供として、各種団体、個人を対象に介護保険や介護技術等の講演、技術指導を実施している。</p>
193	岡山県	鴻仁福祉会	<p><b>【音楽療法講座】</b>  毎月1回、3箇所（公民館②、公会堂①）において、古い歌を歌ったり楽器での演奏をし、楽しんでいただき、地域のネットワークづくり、また元気の源としていただいている。</p>
194	岡山県	三愛福祉会	<p><b>【福祉人材の養成、福祉教育の実践】</b>  ・ヘルパー2級、介護福祉士資格取得のための介護実習の受入  ・小学生、中学生の福祉体験の受入  ・教員になるための介護体験の受入  ・一般、学生のボランティアの受入</p>
195	岡山県	松園福祉会	<p><b>【大規模災害に対する復興救援活動及び地域機関との連携による高齢者安否確認】</b>  平成16年の大規模台風・高潮災害時の住宅損壊被害による一時避難、及び復興救援作業（職員派遣、車輛提供、ボランティアコーディネート、復旧ボランティアへの食糧提供）への従事。その後、地域の高齢者の実態把握をもとに災害時対応マップ（要援護高齢者世帯マップ）を作成し、地域機関への働きかけと連携（行政(市)、消防署、地元消防団等）により非常災害時に犠牲者が出ないための仕組みを検討。平成17年の台風・高潮災害時に災害時対応マップを地域機関において運用（一部）し、早期の安否確認及び避難の勧めをした。</p>
196	広島県	順源会	<p><b>【災害相互応援協定の概要】</b>  広島県経営協では、誰もが地域社会で安全・安心、そして快適で幸せに暮らし合えるために、県内の社会福祉法人全体の共通的な取り組みとして①社会福祉施設と地域住民及び市町村行政による「災害相互協定」の締結について、②社会福祉施設の「子ども110番の家」ステッカー設置等について</p>
197	山口県	朋愛園	<p><b>【介護者教室】</b>  施設の概要説明、館内見学を行う。また、質疑応答を行う。介護者教室の内容としては、リネン交換、車椅子操作等行う。</p>
198	山口県	豊北福祉会	<p><b>【地域住民のボランティア活動の支援】</b>  地元住民がボランティアで行う地域の高齢者のためのサロンのなデイサービスの援助や助言を施設職員が行う。  ・活動の方針や方向の話し合い  ・ボランティアの方への研修の企画、実施</p>
199	山口県	祥寿園	<p><b>【近隣地域対象介護教室】</b>  近隣の地域の方とのネットワーク形成を行い、施設として主体的に関わりを持っていくため、施設内を開放、来所いただき、老人福祉や介護に関するテーマで、外部講師を招いたり施設の職員が講師となって介護教室を開催している。</p>

200	山口県	慈光福祉会	<p><b>【小・中・高校生の福祉教育事業に協力】</b>  小学校、中学校、高等学校の福祉関連授業に協力し、施設に来てもらっている。地元の高校は県下でも珍しい福祉科があり、慰問活動の受け入れだけでなく、特に実習や施設見学、高齢者とのコミュニケーションの練習に協力している。</p>
201	山口県	山口県社会福祉事業団	<p><b>【災害時の一時避難サービスの実施】</b>  市との協定により、災害時における高齢者や重度障害者の方々等の緊急避難施設として当園の施設を使用することとしている。  また、市からの要請があれば、当園の車輛での移送も行うこととしている。</p>
202	徳島県	愛育会	<p><b>【さをり広場】</b>  重度～軽度の家庭科利用者 20 名、職員 5 名さをり織りを中心に作業を行っている。さをり織りは規制がなく自由な発想で、本人のもつ感性を引き出す織物である。平成元年さをり広場設立、1 年を 2 期に分け一般より受講生を募り、技術指導を行う。昨年より 1 期を 1 年単位として現在 36 期生受講中。1 期毎に 5 名～8 名の受講生を受け入れている。毎週水曜日に 15～16：45 地域交流センターにて活動</p>
203	愛媛県	聖風会	<p><b>【災害時等一時避難サービス事業】</b>  台風等災害予想時、山村地区の在宅高齢者等を施設で避難受入れを行い、寝具、食事提供し、施設からの送迎も行った。</p>
204	愛媛県	神拝保育園	<p><b>【地域の親子支援「元気にここにこ堂」】</b>  人が通らなくなった商店街で「こんにちは」「ありがとう」の挨拶が元気に行き交う中で、子育て中の親子が気軽にいつでも利用できる「ホッとする場」また、子どもを通して親同士の話しが弾み元気を上げたり、貰ったりする。そんな橋渡しを保育士が持てるノウハウを惜しみなく発揮し、親が子育ての楽しさ、喜びを感じ、子どもを愛おしく思えるそんな元気で明るい子育てを推奨したいと「元気にここにこ堂」を旗揚げしました。人が人を呼び、色々な特技を持っている親が、講師になり合って活動の輪がどんどん広まっています。</p>
205	愛媛県	寿山会	<p><b>【介護教室】</b>  ・ケアハウス入居者と地域の高齢者、その家族とのふれあいの機会を作り、福祉の向上についての知識や技術を学んでいただき、健康づくりに役立ててもらおう。  ・口腔ケアについての介護教室や転倒予防教室の開催。</p>
206	愛媛県	白鳳会	<p><b>【障害児交流】</b>  ひまわり園との交流  H18 年度は 5 才児女児と保護者（又はサポーター）も一緒に体験を目的とした交流  松山市発達支援関係機関連絡会との連携</p>
207	愛媛県	育和会	<p><b>【ほっとサロン（子育てグループワーク、カウンセリング）】</b>  松山赤十字病院臨床心理士の平林茂代講師が主宰するえひめ親子人間関係研究所の認定するコミュニティカウンセラーも一緒に参加し、コミュニケーションの大切さや深め方について楽しみながら学習できるようにしている。また、個別の育児相談も行っている。</p>
208	高知県	秦ダイヤライフ福祉会	<p><b>【①いきいき百歳応援講座、②虐待を受けている方の緊急ショートステイ受入】</b>  ①地域住民の方を対象に、当施設の地域交流ホールを開放し年 2 回、春期（5 月～8 月）、秋期（9 月～12 月）の 2 スクール開催しております。高知県のいきいき百歳応援講座（スペシャル版）のビデオに添って主に、筋力運動を行い、負荷が 10 段階（0～2Kg）の変更可能な重錘バンドを使用し、PT 指導のもと実施しております。また、運動終了後希望者には昼食を提供しています。  ②地域の各機関と連携し、虐待を受けている方の緊急ショートステイの受入を行っています。最近のケースでは、主介護者の介護疲れによる虐待を受けているケースがありましたので、担当ケアマネと連携し速やかなショートステイを行い、ご家族とご本人の関係修復に至りました。</p>

209	佐賀県	佐賀清光園	【DV被害者の緊急一時保護事業、要保護児童地域対策ネットワーク】 DVの被害者の一時保護に関し、委託を受け、被害者の受け入れ、食事の提供、入浴の提供などを行うものである。
210	佐賀県	たちばな会	【①知的障害に関する相談支援事業、 ②知的障害者生活支援、③DV被害者支援事業】 ①に関しては、施設開所時より取り組んでいる。障害者自身、障害者の保護者からの電話や来所による相談を受け適切な助言を行っている。 ②は、行政機関の閉庁等により受ける事が出来ないサービス（緊急短期入所等）や、障害者個人の要望に応えるため開始した事業である。現制度下では、以前ほどの利用があつてないのが現状である。 ③は、県婦人相談所からの紹介によるDV被害者を一時的に保護し、移転先が決まるまで生活の場を提供している。
211	熊本県	真光会	地域主催のサロン・福祉行事・老人会などに参加し、出張講座を開催させていただいている。介護保険・一人暮らしの高齢者へのアドバイス・介護予防支援・相談受付をおこなっている。また、施設近隣校区で、介護に関する情報紙を配布し啓発に努めている。 高齢者とは別に家庭裁判所から社会参加活動を受け入れ少年たちの実習を行っている。
212	熊本県	天水福社 事業会	【郷土伝統芸能継承活動】 昔からのこの地方に伝わる神楽・乙女舞・火の神太鼓を子ども達に教えることによって、廃れはじめていた地域の文化を継承させ、日本の心や伝統の継承、復活をはかる。 結果、地元神社において、多数の継承者が生まれている。又、色々なイベントにも数多く出演している。
213	熊本県	天水福社 事業会	【天水オレンジソフトテニスクラブ】 天水町はソフトテニスが盛んな地域であり、毎年11月にはみかんの里テニス大会として北は広島、南は鹿児島からの参加者がある大会を開催している。 そんな中、地元の競技人口の底辺の拡大、礼儀作法を教え、子どもの健全育成を目的としている自主的練習機構ジュニアソフトテニスクラブを全面的にサポートしている。
214	熊本県	天水福社 事業会	【地域ボランティア活動】 年々必要になっているボランティアの大切さや自分たちでも地域に貢献できる喜びを体験させるため、以下のボランティア活動を行っている。 ・地域清掃活動（小学生（本宮、町役場前の缶拾い他）、保育園児（護国神社の清掃） ・音楽慰問（地域の「憩いの家」ひまわりサロンにて、中学校へ（職員のフルート、ピアノ演奏） ・独居老人友愛訪問（子ども達自ら手植え、稲刈りしたお米を配る） ・地域老人会、民生委員さんと子ども達との交流会（合奏、歌など）
215	熊本県	慈愛園	施設のある地域（校区）で、児童養護施設の持つ専門性を活かし、子育て支援ネットワークを通じて児童虐待予防をはかっている。ネットワークには、校区社会福祉協議会、民生児童委員、関連福祉施設、小中学校、幼稚園、地域の各種団体、保健福祉センターが参画し、3ヶ月に一度会合を持ち情報交換や研修を実施している。子育て支援としては、月に一度サークルと校区の新生児に「愛の絵本プレゼント」を実施。
216	熊本県	慈愛園	出産を控えたカップルに授乳、だっこ、おむつ換えなどを実際に体験してもらうとともに、栄養士、保育士、看護師等がこれからの育児に必要なことについて丁寧に説明。日曜日に開催し、父親の参加も促している。
217	熊本県	慈愛園	S62年の熊本市デイサービス事業の開始に当り、要援護者の実態把握のため、砂取校区を中心に周辺8校区に渡る利用者の発掘調査を各校区社協長会議（25日）を開催し、実施することから福祉マップ作り

			<p>(一人暮らし世帯)を開始した。</p> <p>在宅介護支援事業として、当法人が圏内各施設で、一体となった地域福祉の拠点としての役割を担っており、定期的な地域福祉サービス連絡会を開催して、より深く地域密着のサービスを展開している。サービス連絡会を開催して、より深く地域密着のサービスを展開している。</p> <p>年一回開催される各種団体長による「砂取会」との連携は子育て支援から児童虐待、高齢者虐待の相談窓口「愛ネット砂取」が立ち上げられ、当法人の施設(子どもホーム、パウクスホーム)が相談受付に対応している。</p>
218	熊本県	慈愛園	<p>近隣の4つの保育園と主任児童委員と保健師、自治会が子育てネットワークを構築する。関係機関との連携をつなげることで月1回開催する。4つの保育園が持ち回りで場所を提供し、企画運営準備にも協力している。ネットワーク活動の中には他にマップ作成「公園編」「お医者さん編」「おもちゃ編」を校区住民の子育て中の方にできるだけわかりやすく図形化し、マップを住民に配布できた。</p>
219	熊本県	慈愛園	<p>2004年11月よりスタートする。年中、長児が参加し、じゃんけんゲームや肩たたき等「ふれあいあそび」を中心とする。全員で童謡をいっしょに歌うなど、一緒に楽しめるもの(参加型)を心がけるようにする。</p>
220	大分県	恵愛会	<p><b>【介護教室の開催・健康教室の開催】</b>  <b>介護教室の開催</b>  地域公民館へ出向き、介護保険の改正内容等を説明している。対象としては老人会の方々  <b>健康教室の開催</b>  健康な老後を過ごすために、いかに努力するか?栄養の摂取は?日常の運動は?等を施設のホールを使用し、2ヶ月にわたりシリーズ(5回~7回)で実施している。講師としては、健康運動管理士、社会福祉士、看護師が当たっている。初回は体力測定を実施し、最終回と比較して効果をみる。</p>
221	大分県	大分県社会福祉事業団	<p><b>【ピアヘルパー養成研修】</b>  ピアヘルパー養成研修は年に1回実施している。受講者の募集は、養護学校、施設に配布し、電話等で問い合わせがあれば送付している。今年度初めて報道機関を利用して募集を行った。募集人数は10名であるが毎年12~14名が受講している。ヘルパー3級家庭は50時間であるが、内容をよりきめ細かにわかりやすくするために70時間とした。市内の介護研修センターを主会場に70時間を13日(60時間)の講義と2日間(10時間)の実習に分け、日曜日を開講日として約4ヶ月間にわたり実施している。</p>
222	大分県	太陽の家	<p><b>【障害者スポーツ普及活動】</b>  重度の障害がある方々と一緒に楽しめるスポーツを立案、実行し地域へ啓発活動を促進している。現状は、卓球バレー・フライングディスク・ローリングバレー・ボッチャ・バドミントン等  また、競技スポーツも多く活躍中(車いすバスケットボール、陸上、ツインバスケットボール、車いすテニス等)</p>
223	大分県	同心会	<p><b>【栄養教室の開催】</b>  「食べること」「栄養改善」など「食」を通して、住み慣れた地域で在宅での充実した生活を支えることを目的に、情報誌を発行し、栄養教室を開催する。</p>
224	大分県	同心会	<p><b>【お弁当サービス】</b>  市の配食サービスを受けることが出来ない高齢者や障害者及び介護予防として栄養管理が必要な方に対して、低価格で栄養バランスの取れた弁当を提供する。</p>
225	大分県	同心会	<p><b>【情報誌(ワンポイント介護、ワンポイント栄養)の発行】</b>  介護者を抱える家族の負担の軽減及び、介護文化の構築を図ることを目的に、情報誌を発行。</p>

226	大分県	同心会	<p>【ケアケア交流講座（介護家族への教育支援プログラムの開発事業）】</p> <p>目的：認知症高齢者を在宅で介護する家族に対する専門的知識・技術の向上を図るために、介護者教育支援プログラムを作成し、広く全国に普及させていく。（3ヵ年計画）</p> <p>共催：認知症介護研究・研修仙台センター（独立行政法人福祉医療機構助成事業）</p>
227	大分県	大樹会	<p>【ボランティアコーディネーター実践事業、災害時一時避難サービス事業】</p> <p>①ボランティアコーディネーター実践事業 ボランティアコーディネーターはいるが、具体的な活動は行っていない。</p> <p>②災害時一時避難サービス事業 九重町と協定を結んで事業がスタートしたが（H18. 7. 4）まだ、サービスが必要な状況に直面していない。</p>
228	宮崎県	高千穂天寿会	<p>【災害時等一時避難事業】</p> <p>災害時及び災害前に高千穂町の判断により居宅が居住困難となった要支援者及びあらかじめ高千穂町の指定する避難所では、対応が困難な要援護者を受け入れ、施設設備の使用及び介護の提供を行う。</p>
229	宮崎県	慈愛保育園	<p>【保育園】</p> <p>地域活動として、老人ホームなどの慰問を年数回おこなっている。「エイサー」という沖縄伝統の太鼓を使った舞踊を園児達が披露している。英語教育が小学校でも開始され、国際感覚を養う必要があることから、外国人との様々な交流活動を行っている。とくに英語では、幼い頃からネイティブスピーカーの発音に慣れるとともに、肌の色や言葉の違いにも慣れ親しむことを目的とし、英語を使いながらの運動で楽しく学ぶ時間も設けている。</p>
230	鹿児島県	厚生福祉会	<p>【認知症予防教室】</p> <p>介護保険事業とは別に地域貢献事業の活動として地区センターに集まっていたいただきそこで軽体操及び認知症予防のゲーム、レクリエーションを約2時間程度実施しています。（一部自宅間との送迎有り）</p> <p>また希望者には上記の内容に加えて、プール利用による水中運動教室（冬季を除く）も実施しています。（地区センターとピースフル立神間の送迎有り）</p>
231	鹿児島県	林愛会	<p>【地域清掃ボランティア、老人福祉施設へのボランティア】</p> <p>発達障害や知的・具体的ハンディを抱える児童に対して「個別ケアの充実」「家庭復帰への支援」「自立支援」等の充実と安全で安心した家庭的な環境の中で、それらが効果的に行われるように「小規模グループケア」をH17年度より実施している。その処遇の一環として「老人福祉施設へのボランティア」を実施している。</p>
232	沖縄県	ゆうなの会	<p>【高齢者筋力向上トレーニング教室】</p> <p>那覇市内の高齢者を対象に、高齢者向けのトレーニング機器を使用しトレーニングを週2回（火・金曜日 午後4:30～8:30）行っている。機器は高齢者用トレーニング機器6台・エアロバイク3台・その他一般向け機器等を使用し、個人のレベルと目的に応じた個別プログラムを作成し実施している。</p> <p>また、世代間交流を目的に、高齢者以外の一般利用者も同様に受け入れている。</p>
233	沖縄県	ゆうなの会	<p>【ふれあい交流会】</p> <p>首里地区に住む65歳以上の高齢者を対象に、昼食を中心にレクリエーションや歌・ボランティアの余興（琉球・芝居等）を楽しみながら交流を行う。施設の主催ではあるが、民生委員・地域住民のボランティアの皆さんに協力してもらい、企画・送迎・配膳・出し物の準備等も一緒に行っている。また、引きこもり高齢者や要支援認定を受け、サービスが減った方の受け皿にもなっている。</p>

234	沖縄県	久仙会	<p><b>【離島在宅老人巡回介護指導事業】</b></p> <p>①在宅指導の方針の一環として、寝たきり老人、認知症老人の在宅中心の介護に代わることと、平成 12 年より施行される、介護保険制度に関してサービスの内容や申請の方法、費用負担等を家族に説明し、今後家庭でもサービスの選択を行い必要なサービスが受けられることなどを講習のなかで指導すること。</p> <p>②在宅介護の問題点の把握と介護方法につき、説明と実地指導</p> <p>③在宅支援の手段等の説明と相談指導</p> <p>④医師と介護士の個別訪問による、健康相談と個別介護指導</p>
235	沖縄県	久仙会	<p><b>【たしま友遊苑地域交流ホーム開放事業】</b></p> <p>①地域に開かれた施設とすることを目標に、地域住民の会合や研修、その他地域住民の便宜を図るために、地域交流ホームを提供すること</p> <p>②利用料金は低廉に設定すること（1 時間 100 円の利用料金）</p> <p>③あくまでの地域住民の福利厚生に寄与することを目的とするので宗教や営利目的の活動には提供しない。</p>